

厚生労働科学研究費補助金

難治性疾患政策研究事業

難治性血管炎に関する調査研究
平成 26 年～28 年度総合研究報告書

平成 29 年(2017 年)3 月

研究代表者

有 村 義 宏

目次

I. 平成 26～28 年度 構成員名簿	2
II. 総括研究報告書	
平成 26～28 年度総合研究報告書	4
有村 義宏(杏林大学第一内科 腎臓・リウマチ膠原病内科)	
III. 平成 26～28 年度研究成果の刊行に関する一覧	17

I.平成26～28年度構成員名簿

難治性血管炎に関する調査研究班

区分	氏名	所属等	職名
研究代表者	有村 義宏	杏林大学医学部第一内科腎臓・リウマチ膠原病内科	教授
研究分担者	磯部 光章	東京医科歯科大学大学院歯学総合研究科循環制御内科学	教授
	赤澤 宏	東京大学大学院医学系研究科循環器内科学	講師
	小室 一成	東京大学大学院医学系研究科循環器内科学	教授
	杉原 毅彦	東京都健康長寿医療センター・膠原病・リウマチ科	医長
	種本 和雄	川崎医科大学心臓血管外科	教授
	中岡 良和	国立循環器病研究センター血管生理学部	部長
	長谷川 均	愛媛大学大学院血液・免疫・感染症内科学	准教授
	内田 治仁	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 CKD・CVD 地域連携・心腎血管病態解析学講座	准教授
	山田 秀裕	聖マリアンナ医科大学 リウマチ膠原病アレルギー内科	病院准教授
	岡崎 貴裕	聖マリアンナ医科大学リウマチ・膠原病・アレルギー内科	准教授（診療部長）
	吉藤 元	京都大学大学院医学研究科内科学講座臨床免疫学	院内講師
	針谷 正祥	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター リウマチ性疾患薬剤疫学研究部門	特任教授
	天野 宏一	埼玉医科大学総合医療センターリウマチ・膠原病内科	教授
	伊藤 聡	新潟県立リウマチセンターリウマチ科	副院長
	勝又 康弘	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター	講師
	駒形 嘉紀	杏林大学医学部第一内科腎臓・リウマチ膠原病内科	准教授
	佐田 憲映	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科腎・免疫・内分泌代謝内科学講座	准教授
	土橋 浩章	香川大学医学部血液・免疫・呼吸器内科	講師
	中山 健夫	京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野	教授
	堀田 哲也	北海道大学大学院医学研究科免疫・代謝内科学	客員研究員
	本間 栄	東邦大学医学部内科学講座呼吸器内科学分野（大森）	教授
	和田 隆志	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 腎臓内科学	教授
	石津 明洋	北海道大学大学院保健科学研究院病態解析学	教授
	川上 民裕	聖マリアンナ医科大学皮膚科	准教授
	菅野 祐幸	信州大学学術研究院医学系医学部病理組織学教室	教授
	高橋 啓	東邦大学医療センター大橋病院病理診断科	教授
	土屋 尚之	筑波大学医学医療系分子遺伝疫学	教授
	宮崎 龍彦	岐阜大学医学部附属病院病理部	臨床教授
	藤元 昭一	宮崎大学医学部医学科血液・血管先端医療学講座	教授
	猪原登志子	京都大学医学部附属病院臨床研究総合センター早期臨床試験部	助教
小林 茂人	順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院内科学	教授	
濱野 慶朋	東京都健康長寿医療センター腎臓内科	腎臓内科部長	
古田 俊介	千葉大学医学部附属病院アレルギー・膠原病内科	特任講師	
高崎 芳成	順天堂大学医学部膠原病内科学講座	教授	
要 伸也	杏林大学医学部第一内科腎臓・リウマチ膠原病内科	教授	
杉山 齊	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科血液浄化療法人材育成システム開発学	教授	
竹内 勤	慶應義塾大学医学部リウマチ内科	教授	
藤井 隆夫	和歌山県立医科大学附属病院 リウマチ膠原病科	教授	
研究協力者	井上 芳徳	東京医科歯科大学総合外科学	准教授
	遠藤 知美	公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院腎臓内科	副部長
	重松 邦広	国際医療福祉大学三田病院血管外科	教授
	宮田 哲郎	山王病院・山王メディカルセンター 血管病センター	血管病センター長
	渡部 芳子	川崎医科大学生理学1	特任講師

板橋美津世	東京都健康長寿医療センター 腎臓内科・血液透析科	部 長
白井 丈一	筑波大学医学医療系臨床医学域腎臓内科学	准 教 授
小川 法良	浜松医科大学第三内科	講 師
川上 純	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科先進予防医学講座 リウマチ・膠原病内科学	教 授
川口 鎮司	東京女子医科大学リウマチ膠原病内科	教 授
川嶋 聡子	杏林大学第一内科腎臓・リウマチ膠原病内科	任期制助教
神田 隆	山口大学大学院医学系研究科神経内科学	教 授
岸部 幹	旭川医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科	助 教 (学内講
栗原 泰之	聖路加国際病院放射線科	部 長
黒崎 敦子	公益財団法人結核予防会複十字病院・放射線診断科	部 長
小松田 敦	秋田大学医学部血液・腎臓・リウマチ内科	准 教 授
高瀬 博	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 眼科学	講 師
竹田 慎一	黒部市民病院	院 長
田中 良哉	産業医科大学医学部第1内科学講座	教 授
谷口 正実	国立病院機構相模原病院臨床研究センター アレルギー科・呼吸器内科	センター長
富田 誠	東京医科歯科大学医学部附属病院臨床試験管理センター	准 教 授
中野 正明	新潟大学医学部 保健学科 臨床生体情報学	教 授
中屋 来哉	岩手県立中央病院腎臓内科	医 長
長坂 憲治	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科薬害監視学講座	准 教 授
難波 大夫	名古屋市立大学大学院医学研究科呼吸器・免疫アレルギー内科学	病院准教授
南郷 栄秀	公益社団法人地域医療振興協会東京北医療センター 総合診療科	医 長
萩野 昇	帝京大学ちば総合医療センター 血液・リウマチ内科	講 師
林 太智	筑波大学医学医療系内科膠原病・リウマチ・アレルギー	准 教 授
原 章規	金沢大学 医薬保健研究域医学系 環境生態医学・公衆衛生学	准 教 授
坂東 政司	自治医科大学内科学講座呼吸器内科学部門	准 教 授
坂野 章吾	愛知医科大学腎臓リウマチ膠原病内科	教 授
本間 則行	新潟県立新発田病院内科	副 院 長
村川 洋子	島根大学医学部内科学講座・内科学第三	准 教 授
山村 昌弘	岡山済生会総合病院内科	特任副院長
池田 栄二	山口大学大学院医学系研究科病理形態学分野	教 授
岩月 啓氏	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科皮膚科学分野	教 授
小川 弥生	NPO 法人北海道腎病理センター	副 理 事 長
鬼丸 満穂	九州大学大学院医学研究院病理病態学講座	助 教
黒川真奈絵	聖マリアンナ医科大学大学院疾患バイオマーカー・標的分子制御学	大学院教授
中沢 大悟	北海道大学大学院医学研究科免疫・代謝内科学分野 第二内科	助 教
平橋 淳一	慶應義塾大学医学部血液浄化・透析センター	講 師
吉田 雅治	東京医科大学八王子医療センター腎臓内科	教 授
内田 俊也	帝京大学医学部内科	教 授
河野 肇	帝京大学医学部内科学講座リウマチ・アレルギー研究室	准 教 授
佐藤 祐二	宮崎大学医学部附属病院血液浄化療法部	准 教 授
杉井 章二	東京都立多摩総合医療センター リウマチ膠原病科	部 長
塚本 達雄	公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院腎臓内科	主 任 部 長
中島 裕史	千葉大学大学院医学研究院アレルギー・臨床免疫学	教 授
武曾 恵理	公益財団法人田附興風会医学研究所北野病院腎臓内科	非常勤講師
原淵 保明	旭川医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室	教 授
湯村 和子	国際医療福祉大学病院予防医学センター・腎臓内科	教 授
野澤 和久	順天堂大学医学部膠原病内科学講座	准 教 授
遠藤修一郎	京都大学大学院研究科・医学部・腎臓内科学	助 教
大岩 寛	広島市民病院リウマチ・膠原病科	部 長
伊藤 吹夕	帝京大学アジア国際感染症制御研究所	研 究 助 手
小菅 寿徳	東京医科歯科大学大学院 循環制御内科学	助 教
前嶋 康浩	東京医科歯科大学医学部附属病院循環器内科学	講 師

Ⅱ．総括研究報告 (平成 26 年度～28 年度)

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）

平成26-28年度総括報告書

難治性血管炎に関する調査研究

研究代表者 有村義宏

杏林大学第一内科学教室 腎臓・リウマチ膠原病内科 教授

研究要旨

血管炎は血管壁の炎症を基盤としてもたらされる多臓器障害性の難病で、その治療法は依然として確立していない。稀少疾患であるため、しばしば診断が遅れ、腎、肺などの重要臓器に障害を来し重篤となる。本研究班の目標は、このような難治性血管炎に関して、1) 診断基準、重症度分類の策定、2) 診療ガイドラインの策定、3) 診療ガイドラインの検証を行い、これらを国民、医療者に広く普及し、わが国の血管炎診療の向上に貢献することである。本研究班の組織は、血管炎登録・ガイドライン作成・普及推進委員会（班長、各分科会長）のもとに、1) 大型血管炎臨床分科会（分科会長：磯部）、2) 中・小型血管炎臨床分科会（分科会長：針谷）、3) 臨床病理分科会（分科会長：石津）、4) 国際協力分科会（分科会長：藤元）、5) 横断協力分科会（分科会長：高崎）の5つの分科会で構成されている。各分科会は連携し班全体で研究を施行し、さらに質の高いエビデンスに基づいたガイドライン作成のため、「AMED 難治性血管炎診療のエビデンス構築のための戦略的研究班（研究開発代表者 有村義宏）」と「AMED：ANCA 関連血管炎の新規治療薬開発を目指す戦略的シーズ探索と臨床的エビデンス構築研究班（研究開発代表者 針谷正祥）」との緊密な連携の基に施行した。本研究班では、血管炎が稀少性・多臓器疾患であることを考慮し、全国各地域の血管炎診療に携わる主要施設の膠原病内科医、腎臓内科医、循環器内科医、呼吸器内科医、皮膚科医、血管外科医、病理医、放射線医などが班員となり、関連する学会や厚労省研究班、関連する AMED 班と緊密な連携をとり、オールジャパン体制で研究を遂行した。

平成 26 年度（初年度）は、日本リウマチ学会を通じて厚生労働省より依頼のあった難病法施行に向けての各対象血管炎 9 疾患の疾患概要・診断基準・重症度分類の改訂作業を行った。大型血管炎分科会では特に高安動脈炎、巨細胞性動脈炎に関して、中・小型血管炎分科会では ANCA 関連血管炎に関して、最新のガイドライン作成手法に基づくガイドライン作成の準備を行った。また、全国調査に基づく ANCA 関連血管炎患者データベースを解析し、日本人患者の臨床的特徴を英文誌に報告した。全国規模の血管炎データベース構築に関しては、

高安動脈炎、巨細胞性動脈炎、ANCA 関連血管炎に関する具体的な登録に関する事項を検討した。臨床病理分科会では、ガイドラインに反映させる血管炎病理組織学的所見などに関して、Systematic review を行った。また、病理診断のエキスパートオピニオンを求めることができるコンサルテーションシステム構築のための具体的依頼/回答フォームを検討した。さらに「血管炎アトラス」改定に関して掲載疾患と担当者を確定した。国際協力分科会では世界統一の原発性全身性血管炎の分類・診断基準作成のため我が国からの症例登録を行った。多発血管炎性肉芽腫症の臨床研究（英国と共同研究）ではわが国からの症例登録を完了した。再発性 ANCA 血管炎に対するリツキシマブ治療の国際研究（リツキシマブとアザチオプリンのランダム化比較試験：RITAZAREM）に参加し、国際事務局への施設登録が終了し症例登録可能な段階とした。横断協力分科会では、関連学会へのより積極的参加の要請や関連学会での本班との共同シンポジウムの開催、ホームページ作成に関する具体的検討を行った

平成 27 年度は、高安動脈炎、巨細胞性動脈炎の登録を開始し、循環器学会と合同での血管炎ガイドライン作成作業を実施した。ANCA 関連血管炎に関する多施設前向き臨床試験の解析結果を英文誌に発表した。さらに、欧米との国際共同研究にも参画した。これらを生かし最新の診療ガイドライン作成手法である GRADE 法にもとづき、ANCA 関連血管炎の診療ガイドラインの作成・改訂に関して CQ 項目決定など具体的作業を行った、また 3 班合同（厚労省難治性血管炎に関する調査研究班、厚労省難治性腎障害に関する調査研究班、厚労省びまん性肺疾患に関する調査研究班）で ANCA 関連血管炎診療ガイドラインの概説部の項目、執筆者の決定など具体的作業を行った。さらに「ウェブ版血管炎病理アトラス」の編集を開始し内容はほぼ完成した。また、厚労省難治性血管炎に関する調査研究班にのホームページを Web 上に設立した (<http://www.vas-mhlw.org/>)。

平成 28 年度（最終年度）は、血管炎疾患のうち指定難病である 9 疾患（高安動脈炎、巨細胞性動脈炎、バージャー病、結節性多発動脈炎、顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、悪性関節リウマチ、抗リン脂質抗体症候群）の診断基準、重症度分類などに関連する臨床調査個人票の修正作業を行った。また、血管炎の分類（CHCC2012 分類）に関する用語の日本語名称を提唱し日本医学会で正式に認可されて本班のホームページに掲載した。各分科会の主な研究状況として、1）大型血管炎臨床分科会では、他の分科会の協力のもとに循環器学会と合同研究で大型血管炎を中心とした血管炎診療ガイドラインの改訂作業を行った。また、関連する AMED 班と連携し高安動脈炎、巨細胞性動脈炎に関する多施設臨床研究（前向き、後ろ向き）研究を施行した。2）中小型血管炎臨床分科会では、各分科会と連携し ANCA 関連血管炎の診療ガイドラインの作成し発刊した（GRADE 法による作成は本班、概説部は厚労省難治性腎疾患に関する調査研究班および厚労省難治性びまん性肺疾患に関する調査研究班との合同研究）。また、関連する AMED

班と連携して ANCA 関連血管炎に関するリツキシマブ治療の臨床研究（前向き）を施行した。3）臨床病理分科会では、ウェブ版血管炎病理アトラスを作成し当班のホームページに掲載した。また、血管炎に関する病理診断のエキスパートオピニオンを求めることができるコンサルテーションシステムを構築し、実施を開始した。4）国際研究分科会では、ANCA 関連血管炎に関する国際研究（再発性 ANCA 関連血管炎の寛解維持療法におけるリツキシマブとアザチオプリンのランダム化比較試験：RITAZAREM）に参加し登録作業を終了した。また、平成 29 年 3 月に本班が中心となり東京で第 18 回国際血管炎・ANCA 学会（大会長：有村義宏）を開催した。本学会には、わが国を含め世界 39 カ国から 738 名が参加し、本班の成果を発信するとともに、わが国および世界の血管炎研究の基礎・臨床研究の発展に貢献した。5）横断協力分科会では、血管炎班のホームページを充実させ、(<http://www.vas-mhlw.org/>)、国民や医師への血管炎の概念、診断ガイドラインの普及に貢献すると共に、関連する学会で血管炎に関する発表を企画し実施した。

本研究の成果は、我が国の難治性血管炎の診療の質、予後改善に寄与するとともに、患者の生活の質を向上、さらに医療費の削減にも貢献できるものと期待される。

研究分担者

有村義宏（杏林大学医学部第一内科腎臓・リウマチ膠原病内科 教授）、磯部光章（東京医科歯科大学大学院循環制御内科学内科学教授）、針谷正祥（東京女子医科大学附属リウマチ痛風センター、リウマチ性疾患薬剤疫学研究 特任教授）、赤澤宏（東京大学大学院医学系研究科循環器内科学 講師）、小室一成（東京大学大学院医学系研究科循環器内科学 教授）、杉原毅彦（東京都健康長寿医療センター・膠原病・リウマチ科 医長）、種本和雄（川崎医科大学心臓血管外科 教授）、中岡良和（国立循環器病研究センター血管生理学部 部長）、長谷川均（愛媛大学大学院血液・免疫・感染症内科学 准教授）、岡崎貴裕（聖マリアンナ医科大学リウマチ・膠原病・アレルギー内科 准教授（診療部長））、吉藤元（京都大学大学院医学研究科内科学講座臨床免疫学 院内講師）、天野

宏一（埼玉医科大学総合医療センターリウマチ・膠原病内科 教授）、伊藤聡（新潟県立リウマチセンターリウマチ科 副院長）、勝又康弘（東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター 講師）、駒形嘉紀（杏林大学医学部第一内科腎臓・リウマチ膠原病内科 准教授）、佐田憲映（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科腎・免疫・内分泌代謝内科学講座 准教授）、土橋浩章（香川大学医学部血液・免疫・呼吸器内科 講師）、中山健夫（京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野 教授）、堀田哲也（北海道大学大学院医学研究科内科学講座免疫・代謝内科学 講師）、本間栄（東邦大学医学部内科学講座呼吸器内科学分野（大森） 教授）、和田隆志（金沢大学大学院医薬保健学総合研究科血液情報統御学 教授）、石津明洋（北海道大学大学院保健科学研究 院病態解析学 教授）、川上民裕（聖マリアンナ医科大学皮膚科 准教授）、菅

野祐幸(信州大学学術研究院医学系医学部病理組織学教室 教授)、高橋啓(東邦大学医療センター大橋病院病理診断科 教授)、土屋尚之(筑波大学医学医療系分子遺伝疫学教授)、宮崎龍彦(岐阜大学医学部附属病院病理診断科 臨床教授)、藤元昭一(宮崎大学医学部医学科血液・血管先端医療学講座教授)、猪原登志子(京都大学医学部附属病院臨床研究総合センター早期臨床試験部特定助教)、小林茂人(順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院内科学 教授)、濱野慶朋(東京都健康長寿医療センター腎臓内科腎臓内科 部長)、古田俊介(千葉大学医学部附属病院アレルギー・膠原病内科 特任講師)、高崎 芳成(順天堂大学医学部膠原病内科学講座 教授)、要伸也(杏林大学医学部第一内科腎臓・リウマチ膠原病内科 教授)、杉山斉(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科慢性腎臓病対策腎不全治療学 教授)、竹内勤(慶應義塾大学医学部リウマチ内科教授)、藤井 隆夫(和歌山県立医科大学附属病院リウマチ膠原病科 教授)

A. 研究目的

血管炎は血管壁の炎症を基盤としてもたらされる多臓器障害性の難病で、その治療法は依然として確立していない。稀少疾患であるため、しばしば診断が遅れ、腎、肺などの重要臓器に障害を来し重篤となる。このような難治性病態の克服には、現時点での診療・治療実態を明らかにした上で、診断および活動性・重症度の評価法を向上させ、多施設臨床試験によるエビデンス構築を通してより有効性の高い治療法を確立することであ

る。そのためには、関連する多領域の臨床医と病理医が有機的に連携し、さらに関連する学会や厚生労働省研究班と緊密な連携をとり、診療ガイドラインを確立する必要がある。

これまで厚生労働省特定疾患調査研究班は、難治性血管炎の疫学調査、治療指針、病因・病態究明において多大な成果を残した。しかし、欧米の臨床研究と比較すると、EBMに準拠した治療指針の作成や新規治療法の開発で立ち遅れているのが現状である。

血管炎が稀少疾患であることを考慮すると、十分な研究成果を上げるためには、全国規模で多施設の専門医の総力を結集して研究を遂行することが不可欠である。

本研究班の目的は、上記のように、全国に展開する研究班の所属施設を活用しオールジャパン体制で研究を施行し、難治性血管炎に関して、1) 診断基準、重症度分類の策定すること、2) 診療ガイドラインを作成すること、3) 疾患概念、診断、治療法を国民、医療者に広く普及することである。そして、これを遂行することにより、わが国の血管炎診療の向上に貢献することである。

B. 研究方法

血管炎登録・ガイドライン作成・普及推進委員会(班長、各分科会長で構成)のもとに、以下の5つの分科会、1) 大型血管炎臨床分科会(分科会長:磯部)、2) 中・小型血管炎臨床分科会(分科会長:針谷)、3) 臨床病理分科会(分科会長:石津)、4) 国際研究分科会(分科会長:藤元)、5) 横断協力分科会(分科会長:高崎)に分け研究を

行った。

なお、各疾患の登録に関しては各分科会を超え、研究班で関連する疾患の症例をもつ全施設共同で遂行した。

1) 大型血管炎臨床分科会

大型血管炎に関する臨床研究(高安動脈炎および巨細胞性動脈炎 (giant cell arteritis: GCA) に関する臨床研究

①前方視的研究: 2015~2019年に新たに高安動脈炎または巨細胞性動脈炎 (giant cell arteritis: GCA) と確定診断された症例について、AMED 研究班(難治性血管炎診療のエビデンス構築のための戦略的研究班)との共同研究で、3年間の臨床情報と血清・血漿を収集する予定である(血清・血漿収集はAMED 研究班難治性血管炎診療のエビデンス構築のための戦略的研究班で遂行予定)。

②後方視的研究では、2007~2014年に高安動脈炎または GCA と臨床的に診断された症例および同期間に再燃した症例について、発症後 (or 再燃後) 3年間の臨床情報を収集した。

③診療ガイドライン改訂のため、分担執筆者を選定し、3疾患の臨床エビデンスを集積し、執筆と修正を行った。

2) 中小型血管炎臨床分科会

ANCA 関連血管炎診療ガイドラインを以下の方法で施行した。

① 「Part 1. 診療ガイドライン」の作成は、ガイドライン統括委員会、ガイドライン作成グループ(パネル会議)、システムティックレビューチーム、事務局のメンバーを選任、任命した。これらの組織は、それぞれが独立

した立場で作業を実施した。

② Part 2. ANCA 関連血管炎の基礎と臨床の作成

難治性腎疾患に関する調査研究班、びまん性肺疾患に関する調査研究班、当班の研究代表者による会議を開催し、編集案(項目、執筆者決定)。また、出版のガイドライン出版に関する学会との連携などについて検討した。

2) 臨床病理分科会

①血管炎診療の臨床病理に関する CQ を策定し、SRを行った。

②血管炎病理診断のエキスパートオピニオンを求めることができるコンサルテーションシステムを構築し、難治性血管炎ホームページより全国核施設より申し込まれるようにし、実施を開始した。

③難治性血管炎に関する調査研究班が平成16年度に作成した「血管炎アトラス」の病理項目を改訂し、ウェブ版とした。その際、目次は CHCC2012 に準拠することとし、CHCC2012 に含まれていない血管炎類縁疾患や鑑別疾患についても取り上げることとした。

④その他、各個研究として、皮膚筋性動脈炎内膜に浸潤する CD8 陽性 T 細胞の形質検討、ANCA 関連血管炎における抗ラクトフェリン抗体とその病原性に関する研究、血管炎の病因に関連する自己抗体を解析、日本人集団における ANCA 関連血管炎の *HLA class II* 遺伝子に関する研究などを施行した。

3) 国際研究分科会

①アメリカリウマチ学会/ 欧州リウマチ学会による血管炎の分類・診断基準の

作成 (Diagnostic and Classification Criteria for Systemic Vasculitis:DC-VAS) に関する国際会議へ出席し、討議に参加する。日本での検討事項は当研究班に報告し、論議事項は当研究班にて決定される。申請書類の作成、臨床記録票の作成、登録症例の暗号化、国際事務局への症例登録は当分科会が行う。倫理的妥当性は代表者が所属する各施設の倫理委員会に諮る。

① 多発血管炎性肉芽腫症

(granulomatosis with polyangiitis: GPA) 日英比較研究;日本の参加施設募集を研究班全体に諮り、運営委員会を設けて症例収集に向けて検討する。申請書類および臨床記録票の作成は英国側と共同して行い、登録症例の暗号化、症例登録は当分科会が行う。倫理的妥当性は代表者が所属する各施設の倫理委員会に諮る。

③再発性 ANCA 関連血管炎の寛解維持療法におけるリツキシマブとアザチオプリンを比較する国際ランダム化比較試験 (RITAZAREM) ; 諸外国で開始された国際共同臨床試験へ日本が参画するにあたり、共通の臨床試験プロトコルを基本的に変更することなく施行できるように日本国内での体制を整える。同時に、試験中央組織である欧州血管炎グループ (EUVAS)、米国血管炎臨床研究コンソーシアム (VCRC) および中央試験事務局との契約を締結するための条件を明らかにし、解決する。本研究は、介入を伴うランダム化比較臨床試験として UMIN-CTR に登録し、倫理的妥当性は代表者が所属する各施設の倫理委員会に諮る。

④第18回国際血管炎 ANCA 学会 (18th International Vasculitis and ANCA Workshop:大会長;有村、実行委員長;藤元、プログラム委員長:石津、開催期間:2017年3月25日より28日、開催地:東京、東京大学)の後援。

5) 横断協力分科会

①AAV ガイドラインのアンケート調査の解析: AAV の診療機会が多い日本リウマチ学会 (925名)、日本呼吸器学会 (631名)、日本腎臓学会 (399名) の評議員 (代議員) にメールを送付し、Web 上でアンケート調査を行なう。調査項目は、最も参考にしている GL を聞いた上で、各診療科により AAV 診療に対する考え方の相違の有無とそのポイントを調査した。

②難治性血管炎に関する調査研究班のホームページ (<http://www.vas-mhlw.org>) の充実:血管炎の疾患概念などの解説や本研究班の業績を掲載する。

②国内、国際学会におけるシンポジウムなどを企画し、血管炎の概念、診断、治療に関する普及活動を実施する。

C. 研究結果

1) 大型血管炎臨床分科会

平成26年度は高安動脈炎、巨細胞性動脈炎に関して、ガイドライン作成の準備を行った。平成27年度は、高安動脈炎、巨細胞性動脈炎の登録を開始し、循環器学会と合同での血管炎ガイドライン作成作業を実施した。平成28年度は、登録を進めると共に、ガイドラインの執筆、ガイドラインの取りま

とめなど作業を施行し、ガイドライン出版に向けた最終的作業を施行した。

①大型血管炎に関する臨床研究(高安動脈炎およびGCAに関する臨床研究

1. 前方視的研究：14施設から高安動脈炎20例、GCA 23例の計43例の登録を得た。2022年までさらなる症例集積と臨床情報の追跡を続ける予定である。

2. 後方視的研究：24施設から高安動脈炎156例、GCA 137例の計293例の登録を得た。高安動脈炎において、有意に若年発症であり($p < 0.001$)、女性の比率が高く($p = 0.001$)、大動脈炎に伴う症状が多く($p < 0.001$)、頭蓋領域の動脈炎に伴う症状が少なかった($p < 0.001$)。GCAの半数にリウマチ性多発筋痛症を合併したのに対し、高安動脈炎ではほとんど認めなかった($p < 0.001$)。画像検査における大型動脈の異常所見は、高安動脈炎では100%に認められたのに対し、GCAでは60%に認められ、有意に低頻度だった($p < 0.001$)。しかしGCAにおいて大動脈炎に伴う症状が21.3%に見られたのと比較すると、GCAにおける「無症候性ながら画像検査での大型動脈病変」は少なくないこと(約40%)が認識された。

上記のように、高安動脈炎とGCAは、発症年齢・性差・病変分布に相違を認めた。

3. 大型血管炎の診療ガイドライン改訂：原稿を回収し、内容を修正し、編集委員(分科会メンバー)による会議を行った。編集委員会では、内容の修正、各治療薬のエビデンスレベルと推奨度の調整、診療フローチャートと診断基準改訂の検討を行った。2017年6

月の完成を目指して修正と校正中である。

2) 中小型血管炎臨床分科会

① Part 1. 診療ガイドラインの作成

a) システマティックレビュー

平成27年3月に第1回対面会議施行。

その後、各レビューチームがRisk of bias table・図、構造化抄録、Forest plot、Summary of findings table、Evidence profileを作成した。平成27年5月に第2回対面会議を開催し、診療ガイドラインパネル会議ワークシートを作成した。

b) パネル会議

クリニカルクエスチョン(CQ) 1 AAVの寛解導入治療はどのようなレジメンが有用か、CQ2 重篤または重症な腎障害を伴うAAVの寛解導入療法で血漿交換は有用か、CQ3 AAVの寛解維持治療はどのようなレジメンが有用か、について検討した。平成27年に2回のパネル会議を開催し、推奨文案を作成し、パブリックコメントおよび外部評価委員の評価を踏まえて修正し、推奨文を決定した。

② Part 2. ANCA関連血管炎の基礎と臨床」の作成

当班、難治性腎疾患に関する調査研究班、びまん性肺疾患に関する調査研究班の研究者が各項目を執筆した。

③ 編集および発刊

各執筆者から提出された原稿内容を、事務局および出版社の担当者が確認し、全体的な記載内容の整合性、重複部分の調整、用語の統一などを行い、最終年度(平成28年2月)にANCA関連血管炎診療ガイドライン2017を出版した。

4) 臨床病理分科会

平成 26 年度、臨床病理分科会では、ガイドラインに反映させる血管炎病理組織学的所見などに関して、Systematic review を行った。また、病理診断のエキスパートオピニオンを求めることができるコンサルテーションシステム構築のための具体的依頼/回答フォームを検討した。さらに「血管炎アトラス」改定に関して掲載疾患と担当者を確定した。平成 27 年度は、「ウェブ版血管炎病理アトラス」の編集を開始し内容はほぼ完成した。さらに、病理診断のエキスパートオピニオンを求めることができるコンサルテーションシステム構築のための具体的依頼/回答フォーム研究、および「血管炎アトラス」改定作業を実施した。平成 28 年度は、ウェブ版血管炎病理アトラスを作成し当班のホームページに掲載した。また、血管炎に関する病理診断のエキスパートオピニオンを求めることができるコンサルテーションシステムを構築し、実施を開始した。

① 以下の 2 つの CQ について SR を行い、回答を作成した。

<CQ1> わが国の ANCA 関連血管炎患者について、Berden らの分類（糸球体病変の組織学的クラス分類）を適用することは有益か？

<A1> 有益である。ただし、Berden 分類の mixed type の診断には慎重を要する。

<CQ2> わが国の PR3-ANCA 陽性 MPA/GPA と MPO-ANCA 陽性 MPA/GPA について、臓器障害の程度に違いがあるか？

<A2> MPA については、ほぼ全てが

MPO-ANCA 陽性であり、PR3-ANCA 陽性例は稀であるため、比較は困難である。

PR3-ANCA 陽性 GPA と MPO-ANCA 陽性 GPA には、後者に 1) 女性が多い、2) 高齢である、3) 中耳炎が多い、4) 鼻、副鼻腔病変が少ない、5) 間質性肺炎が多いといった特徴がある可能性がある。

② 成 28 年 2 月 1 日～6 月 30 日を第一期、7 月 1 日～12 月 31 日を第二期として、システムの運用を試行した。第一期中に 2 件、第二期中に 7 件のコンサルテーションを試行し、運用の予行を行った。

③ ウェブ版血管炎病理アトラスを作成し、研究班ホームページに公開した。

④ 各個研究の結果は、別記とした。

5) 国際研究分科会

平成 26 年度、国際協力分科会では世界統一の原発性全身性血管炎の分類・診断基準作成のため我が国からの症例登録を行った。多発血管炎性肉芽腫症の臨床研究(英国と共同研究)ではわが国からの症例登録を完了した。再発性 ANCA 血管炎に対するリツキシマブ治療の国際研究(リツキシマブとアザチオプリンのランダム化比較試験: RITAZAREM)に関しては、国際事務局への施設登録が終了し症例登録可能な段階となった。

平成 27 年度は、上記課題について継続実施(登録、解析作業)した。また、平成 29 年 3 月東京で第 18 回国際血管炎・ANCA 学会(大会長: 有村義宏)の開催決定を受け、準備作業を開始した。

平成 28 年度は、ANCA 関連血管炎に関する国際研究(再発性 ANCA 関連血管炎の寛解維

持療法におけるリツキシマブとアザチオプリンのランダム化比較試験:RITAZAREM)に参加し登録作業を終了した。また、平成 29 年 3 月に本班が中心となり東京で第 18 回国際血管炎・ANCA 学会(大会長:有村義宏)を開催した。本学会には、わが国を含め世界 39 ヶ国から 738 名が参加し、本班の成果を発信するとともに、わが国および世界の血管炎研究の基礎・臨床研究の発展に貢献した。

① DCVAS;

2016 年 11 月の時点で世界 133 施設より 6,305 例の症例登録がなされている(DCVAS Web 上での日本からの登録確認例数は 16 施設からの 169 例)。GCA と GPA の登録は 2016 年 11 月 1 日にて終了になった。その他の血管炎や対照症例の最終登録期間は、2017 年の 6 月 30 日であり、6 か月観察後の 2017 年 12 月で本研究は終了となり、以後解析が行われる予定である。

③ GPA 比較研究; GPA あるいは GPA 疑いで、2000 年 1 月~2012 年 4 月の間に、参加施設でフォローされた患者を対象として、日本で 100~150 症例のデータ収集を目標として開始された。14 施設(膠原病内科 6、腎臓 3、腎・膠原病 2、膠原病・呼吸器 1、呼吸器 1、耳鼻科 1)から 88 症例が登録され、そのうち、修正 ACR の基準を満たす 82 症例を日本側症例として採用することになった。コントロールは同期間の英国 Cambridge 大学のコホート 128 症例とした。解析結果の概略は、日本の GPA は英国と比較して、a). 高齢発症、b) PR3-ANCA 陽性率が低い、c) 発症時の血清クレアチニン値が低い、

d) 肺病変の合併割合が高かった。一方、5 年生存率は英国が優れていたが、無再発生存率は日本の方が高いという結果が得られ、本年度に論文化された(J Rheumatol 2017;44:216-22)。

④ RITAZAREM; 2013年5月に本分科会を中心に日本のRITAZAREM参画について検討を開始し、班長の承認を得て、試験組織が立ち上がった(RITAZAREM-JPグループ代表者宮崎大学 藤元)。現在、宮崎大学、北野病院、千葉大学、岡山大学、帝京大学、杏林大学、東京都健康長寿医療センターでの倫理委員会承認、各種手続きが完了し、当該7施設において試験施設登録が完了し、2014年6月23日より日本での被験者登録が開始された。

世界全体で38施設が試験を開始し、合計186名の被験者が登録された。このうち158名が4ヶ月に達しランダム化された。なお、現時点では我が国からの登録症例は5症例で、4ヶ月以内に寛解に至らなかった1例を除いた4例がランダム化されている。目標症例数に達したため、2016年11月14日に症例登録は中止となった。今後約2年半の観察期間が残されている。

⑤ 第18回国際血管炎 ANCA 学会: 本班が主後援として開催され、本班からの研究発表など、39 ヶ国から 738 名が参加し、血管炎に関する最新知見について討議され、我が国および世界の血管炎研究、診療の向上に貢献した。

5) 横断協力分科会

平成 26 年度、関連学会へのより積極的参加の要請や関連学会での本班との共同シン

ポジウムの開催、ホームページ作成に関する
具体的検討を行った

平成 27 年度、本班と日本リウマチ学会との
合同シンポジウムを開催するなど、関連学
会において本班の役割などについて発表の
企画・実施を行った。さらに、厚労省難治性
血管炎に関する調査研究班にのホームペー
ジを Web 上に設立した
(<http://www.vas-mhlw.org/>)。

また、ANCA 関連血管炎ガイドラインのア
ンケート調査を企画実施した。

平成 28 年度、ANCA 関連血管炎ガイドライン
のアンケート調査の解析を行うとともに、関
連学会での合同シンポジウムの企画、本班の
各分科会と連携し、ガイドラインを掲載する
などホームページを充実させた。

① AAV ガイドラインのアンケート調査：

平成 27 年度のアンケート調査にて 338 名
(17.3%) から回答を得た。専門とする診療
科は、リウマチ・膠原病内科 145 名 (43.2%)、
腎臓内科 106 名 (31.4%)、呼吸器内科 53
名 (15.7%)、その他 34 名 (9.7%) となっ
ていた。

3 つの GL の存在については AAV の診療 GL
(2014)、エビデンスに基づく進行性腎障害
診療 GL (2014)、血管炎症候群の診療 GL

(2008) の順に認知度が高かったが、最も参
考にしている GL としては AAV の診療 GL

(2014) が最多となっていた。次に、265
名の医師が診療に際し、他科と意見が異な
ると感じたことのある医師が 188 名 (70.9%)
存在し、その主な点は免疫抑制薬の使用法や
(79.3%)、ステロイドの使用法 (64.4%)、

さらに寛解導入プロトコール (59.0%) の順
に多かったその一方、副作用、難治性の考え
方、疾患活動性に対する理解はほぼ共通して
いることが明らかにされた。またリウマチ・
膠原病内科の医師で他科と意見が違ふこと
があると答えた 98 名を対象として最も意見
の異なる診療科を聞いたところ、腎臓内科が
66.3%、呼吸器内科が 23.2%であったが、
その相違点は両方の診療科に対して共通し
ていた。なお、AAV 治療に関する考え方の相
違を補正する工夫として、GL を共通化させ
学会内で横断的に討議することが重要との
意見が多かった。

今回の研究から都市部や大学病院医師の
みならず地方または AAV を診療する一般医
においても、免疫抑制薬やステロイド治療に
ついて、他科との意見の相違の存在が明らか
になった。

② 平成 28 年 4 月 21-23 日、パシフィコ横
浜にて開催された第 60 回日本リウマチ学
会総会・学術集会において血管炎治療のガ
イドラインに関する班会議・日本リウマチ
学会合同シンポジウムを開催した。アンケ
ート調査と同様に専門領域によって免疫
抑制薬の使用法に差異のあることが明ら
かになった。次年度も 4 月 20-22 日に福
岡国際会議場にて開催される第 61 回日本
リウマチ学会総会・学術集会にて合同シン
ポジウムが開催され、新たに策定された GL
について討議することが予定されている。
その他、日本腎臓学会総会、日本皮膚科学
会総会、日本呼吸器学会総会に於けるシン
ポジウムで本班の成果発表に寄与した。

③ 難治性血管炎に関する調査研究班のホームページの充実：本班の班員名簿、各年度の業績、血管炎各疾患の国際的病名改定（Chapel Hill 分類）に合わせた日本語正式病名揭示（本班で検討・提唱し、日本医学会で正式に承認された）、Web 版病理アトラス、診療ガイドラインのクイックリファレンス、血管炎病理診断のコンサルテーションシステム登録に関する項目などを掲載した。

また、血管炎の診療に関連する機関に関する厚労省難病センター、厚労省難病対策に直ちにリンクできるようトップページに掲載した。

D. 健康危険情報
該当なし

Ⅲ. 平成26年～28年度

研究成果に関する刊行物一覧

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Yamakawa N, Fujimoto M, Kawabata D, Terao C, Nishikori M, Nakashima R, Imura Y, Yukawa N, Yoshifuji H, Ohmura K, Fujii T, Kitano T, Kondo T, Yurugi K, Miura Y, Maekawa T, Saji H, Takaori-Kondo A, Matsuda F, Haga H, Mimori T.	A clinical, pathological, and genetic characterization of methotrexate-associated lymphoproliferative disorders.	J Rheumatol	41 (2)	293-9	2014
Tanaka K, Terao C, Ohmura K, Takahashi M, Nakashima R, Imura Y, Yoshifuji H, Yukawa N, Usui T, Fujii T, Mimori T, Matsuda F.	Significant association between CYP3A5 polymorphism and blood concentration of tacrolimus in patients with connective tissue diseases.	J Hum Genet	59 (2)	107-9	2014
Terao C, Hashimoto M, Furu M, Nakabo S, Ohmura K, Nakashima R, Imura Y, Yukawa N, Yoshifuji H, Matsuda F, Ito H, Fujii T, Mimori T.	Inverse association between air pressure and rheumatoid arthritis synovitis.	PLoS One	9 (1)	e85376	2014
Yokoyama T, Fujii T, Kondo-Ishikawa S, Yamakawa N, Nakano M, Yukawa N, Yoshifuji H, Ohmura K, Mimori T.	Association between anti-U1 ribonucleoprotein antibodies and inflammatory mediators in cerebrospinal fluid of patients with neuropsychiatric systemic lupus erythematosus.	Lupus	23(7)	635-642	2014
Terao C, Yoshifuji H, Mimori T.	Recent advances in Takayasu arteritis.	Int J Rheum Dis	17 (3)	238-47	2014

Yamamoto N, Yamaguchi H, Ohmura K, Yokoyama T, Yoshifuji H, Yukawa N, Kawabata D, Fujii T, Morita S, Nagata S, Mimori T.	Serum milk fat globule epidermal growth factor 8 elevation may subdivide systemic lupus erythematosus into two pathophysiologically distinct subsets.	Lupus	23(4)	386-394	2014
Tsuji H, Yoshifuji H, Fujii T, Matsuo T, Nakashima R, Imura Y, Yukawa N, Ohmura K, Sumiyoshi S, Mimori T.	Visceral disseminated varicella zoster virus infection after rituximab treatment for granulomatosis with polyangiitis.	Mod Rheumatol	27	1-7	2014
Nakajima T, Kawabata D, Nakabo S, Miyagawa-Hayashino A, Yukawa N, Yoshifuji H, Ohmura K, Fujii T, Mimori T.	Successful treatment with tocilizumab in a case of intralymphatic histiocytosis associated with rheumatoid arthritis.	Intern Med	53 (19)	2255-2258	2014
Shiheido H, Kitagori K, Sasaki C, Kobayashi S, Aoyama T, Urata K, Oku T, Hirayama Y, Yoshitomi H, Hikida M, Yoshifuji H, Mimori T, Watanabe T, Shimizu J.	Human T cells expressing BEND3 on their surface represent a novel subpopulation that preferentially produces IL-6 and IL-8.	Immun Inflamm Dis	2(1)	35-43	2014
吉藤 元.	【循環器における炎症性疾患—病態から診療へ—】 高安動脈炎.	Circulation	4 (4)	61-67	2014
吉藤 元.	【臨床医のための血管炎の知識 up-to-date】《実地医家に役立つ血管炎の診療のポイント》 血管炎の診断に際し感度または特異度が高い所見.	Modern Physician	34 (9)	1052-1057	2014
寺尾 知可史, 吉藤 元, 三森 経世, 松田 文彦.	高安動脈炎疾患感受性 HLA アレルおよびアミノ酸.	日本臨床免疫学会会誌	37 (3)	166-170	2014

Nakayama A et al.	Predictors of mortality after emergency or elective repair of abdominal aortic aneurysm in a Japanese population.	Heart Vessels	29	65-70	2014
Kobayashi N et al.	Porphyromonas gingivalis promotes neointimal formation after arterial injury through toll-like receptor 2 signaling.	Heart Vessels	29	542-549	2014
Takahashi T et al.	Clinical correlation of brachial artery flow-mediated dilation in patients with systemic sclerosis.	Mod Rheumatol	24	106-111	2014
Takeda Y et al.	Endovascular Aortic Repair Increases Vascular Stiffness and Alters Cardiac Structure and Function.	Circ J	78	322-328	2014
Hara H et al.	A rare case of anomalous origin of the left anterior descending artery from the pulmonary artery.	Int J Cardiol	172	e66-68	2014
Nakayama A et al.	Coronary atherosclerotic lesions in patients with a ruptured abdominal aortic aneurysm.	Heart Vessels	in press		2014
Takata M et al.	Impairment of flow-mediated dilation correlates with aortic dilation in patients with Marfan syndrome.	Heart Vessels	29	478-485	2014
Suzuki JI et al.	Incidence of periodontitis in Japanese patients with cardiovascular diseases: a comparison between abdominal aortic aneurysm and arrhythmia.	Heart Vessels	in press		2014

Suzuki J et al.	Periodontitis in cardiovascular disease patients with or without Marfan syndrome--a possible role of <i>Prevotella intermedia</i> .	PLoS One	9	e95521	2014
Suzuki J	High incidence of periodontitis in Japanese patients with abdominal aortic aneurysm.	Int Heart J	55	268-270	2014
Arita Y, Nakaoka Y*, Matsunaga T, Kidoya H, Yamamizu K, Arima Y, Hashimoto-Kataoka T, Ikeoka K, Yasui T, Masaki T, Yamamoto K, Higuchi K, Park JS, Shirai M, Nishiyama K, Yamagishi H, Otsu K, Kurihara H, Minami T, Yamauchi-Takahara K, Koh GY, Mochizuki N, Takakura N, Sakata Y, Yamashita JK, Komuro I.	Myocardium-derived angiopoietin-1 is essential for coronary vein formation in the developing heart.	Nature Communications	5	4552	2014
Park DY, Lee J, Park I, Choi D, Lee S, Song S, Hwang Y, Hong KY, Nakaoka Y, Makinen T, Kim P, Alitalo K, Hong YK, Koh GY.	Lymphatic regulator PROX1 determines Schlemm's canal integrity and identity.	J Clin Invest.	124(9)	3960-3974	2014
中岡良和	高安動脈炎の標準的治療.	Modern Physician	34(9)	1034-1039	2014
中岡良和	Neuregulin-1/ErbB シグナルの心血管系における生理機能.	医学のあゆみ	350(3)	200-206	2014

Yumura W, Kobayashi S, Suka M, Hayashi T, Ito S, Nagafuchi H, Yamada H, Ozaki S.	Assessment of the Birmingham vasculitis activity score in patients with MPO-ANCA-associated vasculitis: sub-analysis from a study by the Japanese Study Group for MPO-ANCA-associated vasculitis.	Mod Rheumatol	24(2)	304-309	2014
Ito S, Ogishima H, Kondo Y, Sugihara M, Hayashi T, Chino Y, Goto D, Matsumoto I, Sumida T.	Early diagnosis and treatment of steroid-induced diabetes mellitus in patients with rheumatoid arthritis and other connective tissue diseases.	Mod Rheumatol	24(1)	52-59	2014
Kobayashi T, Okada M, Ito S, Kobayashi D, Ishida K, Kojima A, Narita I, Murasawa A, Yoshie H.	Assessment of interleukin-6 receptor inhibition therapy on periodontal condition in patients with rheumatoid arthritis and chronic periodontitis.	J Periodontol	85(1)	57-67	2014
Yokoyama T, Kobayashi T, Ito S, Yamagata A, Ishida K, Okada M, Oofusa K, Murasawa A, Yoshie H.	Comparative analysis of serum proteins in relation to rheumatoid arthritis and chronic periodontitis.	J Periodontol	85(1)	103-112	2014
Oka S, Furukawa H, Kawasaki A, Shimada K, Sugii S, Hashimoto Komiya A, Fukui N, Ito S, Nakamura T, Saisho K, Katayama M, Tsunoda S, Sano H, Migita K, Suda A, Nagaoka S, Tsuchiya N, Tohma S.	Protective Effect of the HLA-DRB1*13:02 Allele in Japanese Rheumatoid Arthritis Patients.	PLOS one	9(6)	e99453	2014
Ito S, Megumi Unno M, Kobayashi D, Oh K, Otani H, Abe A, Ishikawa H, Akira Murasawa	Dose escalation of methotrexate in rheumatoid arthritis patients.	J New Rem & Clin.	63(8)	1302-1315	2014

A, Narita I, Nakazono K.					
Kawasaki A, Furukawa H, Nishida N, Warabi E, Kondo Y, Ito S, Matsumoto I, Kusaoi M, Amano H, Suda A, Nagaoka S, Setoguchi K, Nagai T, Hirohata S, shimada K, Sugii S, Okamoto A, Chiba N, Suematsu E, Ohno S, Katayama M, Okamoto A, Kono H, Tokunaga K, Takasaki Y, Hashimoto H, Sumida T, Tohma S, Tsuchiya N.	Association of functional polymorphisms in interferon regulatory factor 2 (IRF2) with susceptibility to systemic lupus erythematosus: a case-control association study.	PLOS ONE	9(10)	1-10	2014
Oh K, Ito S, Unno M, Kobayashi D, Azuma C, Abe A, Otani H, Ishikawa H, Nakazono K, Narita I, Murasawa A.	Decrease in disease activity of rheumatoid arthritis during treatment with adalimumab depends on the dose of methotrexate.	Intern Med	in press		2014
Harigai M, Mochida S, Mimura T, Koike T, Miyasaka N.	A proposal of management of rheumatic disease patients with hepatitis B virus infection receiving immunosuppressive therapy.	Mod Rheumatol.	24(1)	1 月 7 日	2014
Nishimura K, Omori M, Sato E, Katsumata Y, Gono T, Kawaguchi Y, Harigai M, Yamanaka H, Ishigooka J.	New-onset psychiatric disorders after corticosteroid therapy in systemic lupus erythematosus: an observational case-series study.	J Neurol.	261(11)	2150-2158	2014

Sakai R, Cho SK, Nanki T, Koike R, Watanabe K, Yamazaki H, Nagasawa H, Amano K, Tanaka Y, Sumida T, Ihata A, Yasuda S, Nakajima A, Sugihara T, Tamura N, Fujii T, Dobashi H, Miura Y, Miyasaka N, Harigai M; For the REAL study group.	The risk of serious infection in patients with rheumatoid arthritis treated with tumor necrosis factor inhibitors decreased over time: a report from the registry of Japanese rheumatoid arthritis patients on biologics for long-term safety (REAL) database.	Rheumatol Int.	34(12)	1729-1736	2014
Sada KE, Yamamura M, Harigai M, Fujii T, Dobashi H, Takasaki Y, Ito S, Yamada H, Wada T, Hirahashi J, Arimura Y, Makino H.	Classification and characteristics of Japanese patients with antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis in a nationwide, prospective, inception cohort study.	Arthritis Res Ther.	16(2)	R101	2014
Kawasumi H, Gono T, Kawaguchi Y, Kaneko H, Katsumata Y, Hanaoka M, Kataoka S, Yamanaka H.	IL-6, IL-8, and IL-10 are associated with hyperferritinemia in rapidly progressive interstitial lung disease with polymyositis/dermatomyositis.	Biomed Res Int.	2014	815245	2014
Gono T, Kaneko H, Kawaguchi Y, Hanaoka M, Kataoka S, Kuwana M, Takagi K, Ichida H, Katsumata Y, Ota Y, Kawasumi H, Yamanaka H.	Cytokine profiles in polymyositis and dermatomyositis complicated by rapidly progressive or chronic interstitial lung disease.	Rheumatology (Oxford).	53(12)	21962-203	2014
Sada KE, Amano K, Uehara R, Yamamura M, Arimura Y, Nakamura Y, Makino H; Research Committee on Intractable Vasculitides, the Ministry of Health, Labour, Welfare of Japan.	A nationwide survey on the epidemiology and clinical features of eosinophilic granulomatosis with polyangiitis (Churg-Strauss) in Japan.	Mod Rheumatol.	24(4)	640-644	2014

Katsuyama T, Sada KE, Makino H.	Current Concept and Epidemiology of Systemic Vasculitides.	Allergol Int.	Online publication		2014
Sada KE, Yamamura M, Harigai M, Fujii T, Arimura Y, Makino H; for the Research Committee on Intractable Vasculitides, the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan.	Issues associated with the Ministry of Health, Labour and Welfare diagnostic criteria for antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitides: Reclassification of patients in the prospective cohort study of Remission Induction Therapy in Japanese patients with ANCA-associated vasculitides according to the MHLW criteria.	Mod Rheumatol.	Online publication		2014
勝山恵理、佐田憲映	高齢者のリウマチ性疾患 顕微鏡的多発血管炎	リウマチ科	53(1)	1-5	2014
佐田憲映、槇野博史	【血管炎】 わが国の血管炎の現状と今後の展望	日本腎臓学会誌	56(2)	65-69	2014
山村 昌弘, 佐田 憲映, 針谷 正祥, 藤井 隆夫, 石津 明洋, 有村 義宏, 槇野 博史	免疫と内科疾患 その病態と治療最前線 抗好中球細胞質抗体(ANCA)関連血管炎の病態と治療の最前線	日本内科学会雑誌	103(9)	2121-2129	2014
山村 裕理子, 佐田憲映	【臨床医のための血管炎の知識 up-to-date】《血管炎の診断・治療のポイント》 小型血管炎の標準治療	Modern Physician	34(9)	1040-1044	2014

Terai C, Tsutsumi T, Sakurai T, Moriguchi M, Azuma T, Kaneko M, Kawagoe M, Hoshi K, Yoshida H, Matsui T, Nakajima K, Okuyama A, Nishi E, Amano K, Ota M, Mimura T, Chino K, Aoki K, Handa Y, Hirose T, Kida I, Kobayashi S, Suzuki K, Matsuzaki T, Kuga Y.	The efficacy of mizoribine for the treatment of rheumatoid arthritis and its correlation with renal function.	Mod Rheumatol.	24(6)	892-896	2014
Yumura W, Kobayashi S, Suka M, Hayashi T, Ito S, Nagafuchi H, Yamada H, Ozaki S.	Assessment of the Birmingham vasculitis activity score in patients with MPO-ANCA-associated vasculitis: sub-analysis from a study by the Japanese Study Group for MPO-ANCA-associated vasculitis.	Mod Rheumatol.	24(6)	892-896	2014
公文義雄、野島 滋、木俣敬仁、小林茂人	日常臨床で経験した脊椎関節炎の骨盤部 MRI 病変	日本脊椎関節炎学会誌	6(1)	83-87	2014
谷口 義典、井上 紘輔、藤本 新平、寺田 典生、辛島 尚、執印 太郎、公文 義雄、有井 薫、吉永 泰彦、小林 茂人	膀胱癌患者における BCG 膀胱内注入療法後反応性関節炎の後ろ向き調査	日本脊椎関節炎学会誌	6(1)	55-60	2014
藤元 昭一、小林 茂人、鈴木 和男	【血管炎】 血管炎の疫学と分類 国際比較研究・国際的動向	日本腎臓学会誌	56(2)	80-86	2014
田村 直人、多田 久里守、高崎 芳成、井上 久、小林 茂人	強直性脊椎炎の病態 炎症と骨新生について	日本脊椎関節炎学会誌	6(1)	19-26	2014

小林 茂人	全身性疾患と関連する耳鼻咽喉科疾患 ステロイド、免疫抑制剤の使い方.	日本耳鼻咽喉科学会 会報	117(9)	1233-1235	2014
小林 茂人, 木田 一成, 板津 智子, 恩田 紀更, 河井 正晶	ガイドラインに照らして考える ふつうの血管炎】(Part5)他科から皮膚血管炎はどうみられているのか(case 10) 膠原病内科からみた皮膚血管炎 身近で見つけよ!巨細胞性動脈炎(GCA)の下腿病変	Visual Dermatology	3(7)	799-801	2014
小林 茂人, 木田 一成, 多田 久里守	【内科疾患 最新の治療 明日への指針】(第6章)膠原病・免疫・アレルギー 反応性関節炎(Reiter症候群).	内科	113(6)	1369-1370	2014
小林 茂人, 多田 久里守, 木田 一成	【最新関節リウマチ学-寛解・治癒を目指した研究と最新治療-】 類縁疾患 反応性関節炎(Reiter(ライター)症候群).	日本臨床	72(3)	408-414	2014
藤元昭一、小林茂人、鈴木和男	特集：血管炎. 血管炎の疫学と分類～国際比較研究・国際的動向～	日腎会誌	56	80-86	2014
Furuta S, Chaudhry AN, Hamano Y, Fujimoto S, Nagafuchi H, Makino H, Matsuo S, Ozaki S, Endo T, Muso E, Ito C, Kusano E, Yamagata M, Ikeda K, Kashiwakuma D, Iwamoto I, Westman K, Jayne D	Comparison of phenotype and outcome in microscopic polyangiitis patients between Europe and Japan.	J Rheumatol	41	325-333	2014

菅野祐幸	関節リウマチにおける血管新生	日本臨床	72 卷 増刊号 3	277-279	2014
Imamoto T, Nakazawa D, Shida H, Suzuki A, Otsuka N, Tomaru U, Ishizu A.	Possible linkage between microscopic polyangiitis and thrombosis via neutrophil extracellular traps.	Clin Exp Rheumatol	32(1)	149-150	2014
Yamada Y, Tomaru U, Ishizu A, Kiuchi T, Kasahara M, Matsuno Y.	Expression of thymoproteasome subunit $\beta 5t$ in type AB thymoma.	J Clin Pathol	67(3)	276-278	2014
Hamano R, Baba T, Sasaki S, Tomaru U, Ishizu A, Kawano M, Yamagishi M, Mukaida N.	Ag and IL-2 immune complexes efficiently expand Ag-specific Treg cells that migrate in response to chemokines and reduce localized immune responses.	Eur J Immunol	44(4)	1005-1015	2014
Nakazawa D, Shida H, Tomaru U, Yoshida M, Nishio S, Atsumi T, Ishizu A.	Enhanced formation and disordered regulation of NETs in MPO-ANCA-associated microscopic polyangiitis.	J Am Soc Nephrol	25(6)	990-997	2014
Yoshida T, Konno S, Tsujino I, Sato T, Ohira H, Chen F, Date H, Ishizu A, Haga H, Tanino M, Nishimura M.	Severe pulmonary hypertension in adult pulmonary Langerhans cell histiocytosis: The effect of sildenafil as a bridge to lung transplantation.	Internal Med	53(17)	1985-1990	2014
Sugawara H, Matsumoto T, Hotta H, Yoshida D, Kato N, Ohhata J, Ishii K, Yuda S, Murakami T, Shibata S, Ishizu A, Ooiwa H, Fujise Y, Nakata T.	Aortic valve aneurysm responsible for acute congestive heart failure and histological findings: A case report.	J Cardiol Cases	10	100-103	2014

Matsui Y, Tomaru U, Miyoshi A, Ito T, Fukaya S, Miyoshi H, Atsumi T, Ishizu A.	Overexpression of TNF- α converting enzyme promotes adipose tissue inflammation and fibrosis induced by high fat diet.	Exp Mol Pathol	97(3)	354-358	2014
Iinuma C, Waki M, Kawakami A, Yamaguchi M, Tomaru U, Sasaki N, Masuda S, Matsui Y, Iwasaki S, Baba T, Kasahara M, Yoshiki T, Paletta D, Herrmann T, Ishizu A.	Establishment of vascular endothelial cell-reactive type II NKT cell clone from rat model of autoimmune vasculitis.	Int Immunol	in press		
Ishihara S, Yasuda M, Ishizu A, Ishikawa M, Shirato H, Haga H.	Activating transcription factor 5 enhances radioresistance and malignancy in cancer cell.	Oncotarget	in press		
Tomaru U, Tsuji T, Kiuchi S, Ishizu A, Suzuki A, Otsuka N, Ito T, Ikeda H, Fukasawa Y, Kasahara M.	Decreased expression of a thymus-specific proteasome subunit $\beta 5t$ in Down syndrome patients.	Histopathology	in press		
中沢大悟, 西尾妙織, 外丸詩野, 渥美達也, 石津明洋	血管炎の発症機序と NETs	日本腎臓学会誌	56(2)	117-123	2014
山村昌弘, 佐田憲映, 針谷正祥, 藤井隆夫, 石津明洋, 有村義宏, 榎野博史	抗好中球細胞質抗体 (ANCA) 関連血管炎の病態と治療の最前線	日本内科学会雑誌	103(9)	2012-2129	2014
石津明洋	好中球細胞外トラップの異常と MPO-ANCA 関連血管炎	日本小児腎臓病学会雑誌	27(2)	81-85	2014
石津明洋	血管炎の新たなバイオマーカー	Modern Physician	34(9)	1075-1079	2014
川上民裕	「私の処方」シクロフォスファミドパルス療法皮膚動脈炎やリウマトイド血管炎に対して	Modern Physician	34	427-428	2014

川上民裕	皮膚を主体とする血管炎と全身疾患 血液病の皮膚病変を診る	血液フロンティア	24	687-693	2014
川上民裕	紫斑 特集 内科医のための皮疹の診かたのロジック	medicina	51	808-812	2014
川上民裕	羅針盤 血管炎、敬遠していませんか？	Visual Dermatology	13	747	2014
川上民裕	ガイドラインに照らして考えるふつうの血管炎	Visual Dermatology	13	750-756	2014
岡野達郎、川上民裕	皮膚科が中心となり加療した顕微鏡的多発血管炎	Visual Dermatology	13	792-795	2014
木村聡子、川上民裕	皮膚科が中心となり加療した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（Churg-Strauss 症候群）	Visual Dermatology	13	796-798	2014
川上民裕	皮膚科診療における血管炎の Quality Indicator	Visual Dermatology	13	1122-1126	2014
川上民裕	小型血管炎の特徴と診断 特集「臨床医のための血管炎の知識 up-to-date」	Modern Physician	34	1029-1033	2014
川上民裕	顕微鏡的多発血管炎の皮膚病変と他の血管炎の皮膚病変との違いはあるの？ 「あなたも名医！見逃すと怖い血管炎—日常診療に潜む兆候に気づこう！」	Jmedmook	35	148-153	2014
川上民裕	ベーチェット病	今日の治療指針	56	1112-1113	2014

<p>Gazal S, Sacre K, Allanore Y, Teruel M, Goodall AH (The CARDIOGENICS consortium), Tohma S, Alfredsson L, Okada Y, Xie G, Constantin A, Balsa A, Kawasaki A, Nlicaise P, Amos C, Rodriguez-Rodriguez L, Chiocchia G, Boileau C, Zhang J, Vittecoq O, Barnetche T, Gonzalez-Gay MA, Furukawa H, Cantagrel A, Le Loet X, Sumida T, Hurtado-Nedelec M, Richez C, Chollet-Martin S, Schaevebeke T, Combe B, Khoriaty L, Coustet B, El-Benna J, Siminovitch K, Plenge R, Padyukov L, Martin J, Tsuchiya N, Dieude P.</p>	<p>Identification of secreted phosphoprotein 1 gene as a new rheumatoid arthritis susceptibility gene.</p>	<p>Ann Rheum Dis</p>	<p>Published Online First: 21st Jan 2014</p>	<p>doi:10.1136/a nnrheumdis- 2013-204581</p>	<p>2014</p>
<p>Furukawa H, Kawasaki A, Oka S, Ito I, Shimada K, Sugii S, Hashimoto A, Komiya A, Fukui N, Kondo Y, Ito S, Hayashi T, Matsumoto I, Kusaoi M, Amano H, Nagai T, Hirohata S, Setoguchi K, Kono H, Okamoto A, Chiba N, Suematsu E, Katayama M, Migita K, Suda A, Ohno S, Hashimoto H, Takasaki Y, Sumida T, Nagaoka S, Tsuchiya N, Tohma S.</p>	<p>Human leukocyte antigens and systemic lupus erythematosus: A protective role for the HLA-DR6 alleles DRB1*13:02 and *14:03.</p>	<p>PLoS ONE</p>	<p>9(2)</p>	<p>e87792. doi:10.1371/j ournal.pone.0 087792</p>	<p>2014</p>

Furukawa H, Oka S, Shimada K, Sugii S, Hashimoto A, Komiya A, Fukui N, Miyashita T, Migita K, Suda A, Nagaoka S, Tsuchiya N, Tohma S.	HLA-DRB1*08:02 is associated with bucillamine-induced proteinuria in Japanese rheumatoid arthritis patients.	Biomarker Insights	9	23-28.doi: 10.4137/BMI.S13654	2014
Dang TN, Naka I, Sa-Ngasang A, Anantapreecha S, Chanama S, Wichukchinda N, Sawanpanyalert P, Patarapotikul J, Tsuchiya N, Ohashi J.	A replication study confirms the association of GWAS-identified SNPs at MICB and PLCE1 in Thai patients with dengue shock syndrome.	BMC Med Genet	15(1)	58 doi: 10.1186/1471-2350-15-58.	2014
土屋尚之	RAにおけるグランザイム B 遺伝子(GZMB)多型と関節破壊進行度との関連.	リウマチ科	51(1)	89-92	2014
土屋尚之	.関節リウマチの病因研究:概論	日本臨床	72(Suppl.3)	35-39	2014
土屋尚之	ANCA 関連血管炎の集団差と HLA.	分子リウマチ治療	7	103-106	2014
土屋尚之	はじめに (特集企画「HLA のブレイクスルー-臨床応用と疾患研究の進歩」)	医学のあゆみ	251(4)	265	2014
土屋尚之	全身性強皮症の疾患感受性遺伝子解析.	医学のあゆみ	251(8)	614-619	2014
Gorai M, Ogasawara M, Matsuki Y, Yamada Y, Murayama G, Sugisaki N, Nemoto T, Ando S, Minowa K, Kon T, Tada K, Matsushita M, Yamaji K, Tamura N, Takasaki Y	Weigting with the Lansbury articular index improves the correlation of ultrasound score with serum matrix metalloproteinase-3 level in rheumatoid arthritis patients.	Mod Rheumatol	24	315-919	2014

Yamada R, Kusaoi M, Murayama G, Yasui M, Hishinuma R, Nemoto T, Hohtatsu K, Kageyama M, Kawamoto T, Sugimoto K, Sekiya F, Kon T, Ogasawara M, Kempe K, Yamaji K, Tsuda H, Takasaki Y	Reduction in bradykinin generation during leukocytapheresis using novel cellsorba(TM) CS-180S: Effects of changing the filling solution.	J Clin Apher	29	90-96	2014
Kaneko T, Amano H, Kawano S, Minowa K, Ando S, Watanabe T, Nakano S, Suzuki J, Morimoto S, Tokano Y, Takasaki Y	Increased serum concentration of BAFF/APRIL and IgA2 subclass in patients with mixed connective tissue disease complicated by interstitial lung disease.	Mod Rheumatol	24	310-315	2014
Masuda H, Miyazaki T, Shimada K, Tamura N, Matsudaira R, Yoshihara T, Ohsaka H, Sai E, Matsumori R, Fukao K, Hiki M, Kume A, Kiyonagi T, Takasaki Y, Daida H	Disease duration and severity impacts on long-term cardiovascular events in Japanese patients with rheumatoid arthritis.	J Cardiol	64	566-570	2014
Nakashima R, Imura Y, Hosono Y, Aeto M, Murakami A, Watanabe K, Handa T, Mishima M, Hirakata M, Takeuchi T, Fujio K, Yamamoto K, Kohsaka H, Takasaki Y, Enomoto N, Suda T, Chida K, Hisata S, Nukiwa T, Mimori T	The multicenter study of a new assay for simultaneous detection of multiple anti-aminoacyl-tRNA synthetases in myositis and interstitial pneumonia.	PLoS One	9	e85062	2014

Doe K, Nozawa K, Hiruma K, Yamada Y, Matsuki Y, Nakano S, Ogasawara M, Nakano H, Ikeda T, Ikegami T, Fujishiro M, Kawasaki M, Ikeda K, Amano H, Morimoto S, Ogawa H, Takamori K, Sekigawa I, Takasaki Y	Antibody against chromatin assembly factor-1 is a novel autoantibody specifically recognized in systemic lupus erythematosus.	Lupus	23	1031-1041	2014
Doe K, Nozawa K, Okada T, Tada K, Yamaji K, Tamura N, Takasaki Y	Usefulness of minor salivary gland biopsy in the diagnosis of IgG4-related disease: a case report.	Int J Clin Exp Pathol	7	2673-2677	2014
Suzuki S, Morimoto S, Fujishiro M, Kawasaki M, Hayakawa K, Miyashita T, Ikeda K, Miyazawa K, Yanagida M, Takamori K, Ogawa H, Sekigawa I, Takasaki Y	Inhibition of the insulin-like growth factor system is a potential therapy for rheumatoid arthritis.	Autoimmunity	inpress	1 月 8 日	2014
Tokai N, Ogasawara M, Gorai M, Matsuki Y, Yamada Y, Murayama G, Sugisaki N, Nemoto T, Ando S, Minowa K, Kon T, Tada K, Matsushita M, Yamaji K, Tamura N, Makino S, Takasaki Y	Predictive value of bone destruction and duration of clinical remission for subclinical synovitis in rheumatoid arthritis patients.	Mod Rheumatol	inpress	1 月 6 日	2014
高崎芳成	関節リウマチの分類基準 - 1987 年基準から 2010 年基準へ.	日本医師会雑誌	142	2197-2201	2014
高崎芳成	全身性エリテマトーデス.	Keynote R・A	2	11 月 15 日	2014

高崎芳成	レミケード（インフリキシマブ）.	日経メディカル年末 年始特別版 治療薬 の今、未来		58-59	2014
高崎芳成	ステロイド.	カレントセラピー	32	55-59	2014
高崎芳成	関節リウマチ治療の現在 未来 薬物療法	流	308	18-29	2014
高崎芳成	リウマチ性疾患診療の現状と今後の課題	日本内科学会雑誌	103	2391-2394	2014
高崎芳成	混合性結合組織病：抗 U1RNP 抗体.	リウマチ科	52	364-367	2014
藤井隆夫	リウマチ学：診断と治療の進歩. I.診断法の進歩. 自己抗体.	日本内科学会会誌	103	2395-2400	2014
藤井隆夫	イラストで見る・自己免疫疾患の発症機序を解き 明かす鍵とは？	Mebio	31	70-81	2014
藤井隆夫	リウマチ・膠原病における分子標的治療の最前 線. CD20/CD22.	最新医学	69	274-279	2014
Hashimoto M, Fujii T, et al	Increase of hemoglobin levels by anti-IL-6 receptor antibody (tocilizumab) in rheumatoid arthritis.	PLoS One	9	e98202	2014
Fujita Y, Fujii T, et al	Deficient leptin signaling ameliorates systemic lupus erythematosus lesions in MRL/Mp-Faslpr mice.	J Immunol	192	979-984	2014
Ito Y, Hashimoto M, Fujii T, et al	Detection of T cell responses to a ubiquitous cellular protein in autoimmune disease.	Science	346	363-368	2014
山田秀裕	全身性血管炎における血漿交換療法の意義	呼吸器内科	25(4)	362-366	2014

山田秀裕	どんな患者を診たら血管炎を疑うか？	モダンフィジシャン	34(9)	1019-1022	2014
土橋浩章	Paraneoplastic syndromes associated with lung cancer.	World J Clin Oncol	10:5(3)	197-223	2014
土橋浩章	関節リウマチ患者喀痰中の抗 CCP 抗体	リウマチ科	52(2)	197-200	2014
土橋浩章	【関節リウマチの診療 身体機能障害をきたさないためのアプローチ】《RA の治療 Up-to-date》 RA の関節外病変への対応	Modern Physician	34(8)	944-952	2014
土橋浩章	【最新関節リウマチ学－寛解・治癒を目指した研究と最新治療－】関節リウマチの合併症 リンパ節病変	日本臨床 最新関節リウマチ学	72 巻 増刊 3	607-611	2014
土橋浩章	【合併症を有する RA のマネージメント】慢性気道病変を伴う RA.	リウマチ科	51(3)	235-240	2014
Oku K, Amengual O, Bohgaki T, Horita T, Yasuda S, Atsumi T	An independent validation of the Global Anti-Phospholipid Syndrome Score in a Japanese cohort of patients with autoimmune diseases.	Lupus	[Epub ahead of print]	[Epub ahead of print]	2014
Watanabe K, Yasuda S, Noguchi A, Horita T, Atsumi T.	Coronary and mesenteric involvement in polyarteritis nodosa.	Arthritis Rheumatol	[Epub ahead of print]	[Epub ahead of print]	2014
Kono M, Yasuda S, Stevens RL, Koide H, Kurita T, Shimizu Y, Kanetsuka Y, Oku K, Bohgaki T, Amengual O, Horita T, Shimizu T,	RasGRP4 is Aberrantly Expressed in the Fibroblast-like Synoviocytes of Patients with Rheumatoid Arthritis and Controls their Proliferation.	Arthritis Rheumatol	[Epub ahead of print]	[Epub ahead of print]	2014

Majima T, Koike T, Atsumi T.					
Kono M, Yasuda S, Kato M, Kanetsuka Y, Kurita T, Fujieda Y, Otomo K, Horita T, Oba K, Kondo M, Mukai M, Yanai M, Fukasawa Y, Atsumi T.	Long-term outcome in Japanese patients with lupus nephritis.	Lupus	[Epub ahead of print]	[Epub ahead of print]	2014
Kurita T, Yasuda S, Oba K, Odani T, Kono M, Otomo K, Fujieda Y, Oku K, Bohgaki T, Amengual O, Horita T, Atsumi T	The efficacy of tacrolimus in patients with interstitial lung diseases complicated with polymyositis or dermatomyositis.	Rheumatology (Oxford).	54(1)	39-44	2015
Kataoka H, Yasuda S, Fukaya S, Oku K, Horita T, Atsumi T, Koike T.	Decreased expression of Runx1 and lowered proportion of Foxp3(+) CD25(+) CD4(+) regulatory T cells in systemic sclerosis.	Mod Rheumatol.	25(1)	90-95	2015
Jin H, Arase N, Hirayasu K, Kohyama M, Suenaga T, Saito F, Tanimura K, Matsuoka S, Ebina K, Shi K, Toyama-Sorimachi N, Yasuda S, Horita T, Hiwa R, Takasugi K, Ohmura K, Yoshikawa H, Saito T, Atsumi T, Sasazuki T, Katayama I, Lanier LL, Arase H.	Autoantibodies to IgG/HLA class II complexes are associated with rheumatoid arthritis susceptibility.	Proc Natl Acad Sci U S A	111(10)	3787-3792	2014

Amengual O, Horita T, Binder W, Norman GL, Shums Z, Kato M, Otomo K, Fujieda Y, Oku K, Bohgaki T, Yasuda S, Atsumi T.	Comparative analysis of different enzyme immunoassays for assessment of phosphatidylserine-dependent antiprothrombin antibodies.	Rheumatol Int	34(9)	1225-1230	2014
Ishizaki J, Saito K, Nawata M, Mizuno Y, Tokunaga M, Sawamukai N, Tamura M, Hirata S, Yamaoka K, Hasegawa H, Tanaka Y.	Low complements and high titre of anti-Sm antibody as predictors of histopathologically proven silent lupus nephritis without abnormal urinalysis in patients with systemic lupus erythematosus.	Rheumatology	[Epub ahead of print]		
Takemori N, Takemori A, Ishizaki J, Hasegawa H.	Enzymatic protein digestion using a dissolvable polyacrylamide gel and its application to mass spectrometry-based proteomics.	J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci.	967	36-40	2014
長谷川均、末盛浩一郎	免疫トレランス誘導性樹状細胞の誘導による自己免疫疾患の治療	臨床免疫・アレルギー科	62	469-474	2014
長谷川均、松本卓也、安川正貴	樹状細胞のトレランス誘導機能と protein kinase C	臨床免疫・アレルギー科	61	141-150	2014
長谷川均、末盛浩一郎	血管炎の発症機序	Modern Physician	34	2014-2019	2014
Miyazaki, N. Murata, Takemura, G. Okada, H. Kanamori, H. Matsumoto-Miyazaki, J. Yoshida, G. Izumi, K. Kashi, H. Niimi, K. Nishiwaki, A. Miyazaki, T. Ohno, M. Ohashi, H. Suzuki, F. Minatoguchi, S.	Expression of prorenin receptor in renal biopsies from patients with IgA nephropathy.	Int J Clin Exp Pathol	7(11)	7485-7496	2014

Mokuda, S. Miyazaki, T. Saeki, Y. Masumoto, J. Kanno, M. Takasugi, K.	Epstein-Barr virus-related MTX-LPD in rheumatoid arthritis patients exhibits a viral pattern of the CD64 and CD35 expression on neutrophils: Three case reports	Mod Rheumatol	in press		2015
Okada, H. Takemura, G. Kanamori, H. Tsujimoto, A. Goto, K. Kawamura, I. Watanabe, T. Morishita, K. Miyazaki, N. Tanaka, T. Ushikoshi, H. Kawasaki, M. Miyazaki, T. Suzui, N. Nishigaki, K. Mikami, A. Ogura, S. Minatoguchi, S.	Phenotype and physiological significance of the endocardial smooth muscle cells in human failing hearts	Circ Heart Fail	8(1)	149-155	2015
宮崎龍彦	血管炎症候群の疾患感受性	日本腎臓学会雑誌	56(2)		2014
Nakagawa T, Kumakawa K, Usami S, Hato N, Tabuchi K, Takahashi M, Fujiwara K, Sasaki A, Komune S, Sakamoto T, Hiraumi H, Yamamoto N, Tanaka S, Tada H, Yamamoto M, Yonezawa A, Ito-Ihara T, Ikeda T, Shimizu A, Tabata Y, Ito J.	A randomized controlled clinical trial of topical insulin-like growth factor-1 therapy for sudden deafness refractory to systemic corticosteroid treatment.	BMC Med.	12	219	2014
猪原登志子	【臨床医のための血管炎の知識 up-to-date】《血管炎 Overview》 血管炎の診断・評価に有用なバイオマーカー.	Modern Physician.	34	1011-1017	2014

猪原登志子	免疫抑制薬の臨床応用実践論(第 50 回) ANCA 関連血管炎.	炎症と免疫	22	218-229	2014
高橋 啓	新しい血管炎分類 Chapel Hill Consensus Conference 2012	Visual Dermatology	13	758-61	2014
横内幸、大原関利章、勝碯讓児、榎本泰典、高橋 啓	川崎病冠動脈病変の病理	日本臨牀	72	1518-1521	2014
Sato K, Saji T, Kaneko T, Takahashi K, Sugi K	Unexpected pulmonary hypertensive crisis after surgery for ocular malignant melanoma	Life sciences	18	420-423	2014
Takahashi K, Oharaseki T, Yokouchi Y.	Update on etio and immunopathogenesis of Kawasaki disease	Curr Opin Rheumatol.	26	31-36	2014
Oharaseki T, Yokouchi Y, Yamada H, Mamada H, Muto S, Sadamoto K, Miura N, Ohno N, Saji T, Naoe S, Takahashi K	The role of TNF- α in a murine model of Kawasaki disease arteritis induced with a Candida albicans cell wall polysaccharide.	Mod Rheumatol.	24	120-128	2014
磯部光章	高安動脈炎の新しい診断法と治療法	日本内科学会雑誌	103	2131-2136	2014
高村千智、磯部光章	大型血管炎の特徴と診断. 「臨床医のための血管炎の知識 Up-to-date	Modern Physician	34	1023-1028	2014
田村夏子、磯部光章	高安病.内科疾患最新の治療	内科	113	1339-1340	2014
Homma S, Sugino K, Sakamoto S	The usefulness of a disease severity staging classification system for IPF in Japan: 20 years of experience from empirical evidence to randomized control trial enrollment.	Respiratory Investigation	53	7-12	2015

Sugino K, Ishida F, Kikuchi N, Hirota N, Sano G, Sato K, Isobe K, Sakamoto S, Takai Y, Homma S	Comparison of clinical characteristics and prognostic factors of combined pulmonary fibrosis and emphysema versus idiopathic pulmonary fibrosis alone.	Respirology	19	239-245	2014
Kazuya Koyama, Go Sano, Yoshinobu Hata, Nobuyuki Shiraga, Hiroki Ota, Keishi Sugino, Kazutoshi Isobe, Susumu Sakamoto, Yujiro Takai, Satoshi Koezuka, Takashi Makino, Hajime Otsuka, Fumitomo Sato, Shuichi Sasamoto, Akira Iyoda, Atsuko Kurosaki and Sakae Homma	An anomalous unilateral single pulmonary vein associated with a bone morphogenetic protein receptor II gene mutation.	Intern Med	53	461-466	2014
Isobe K, Hata Y, Tochigi N, Kaburaki K, Kobayashi H, Makino T, Otsuka H, Sato F, Ishida F, Kikuchi N, Hirota N, Sato K, Sano G, Sugino K, Sakamoto S, Takai Y, Shibuya K, Iyoda A, Homma S	Clinical significance of BIM deletion polymorphism in non-small-cell lung cancer with epidermal growth factor receptor mutation.	J Thorac Oncol.	9(4)	483-7	2014
Yamamoto A, Sugino K, Kobayashi M, Hata Y, Homma S	Efficacy of nasal continuous positive airway pressure in tracheobronchomalacia.	J Med Soc Toho	61(4)	166-171	2014
Muramatsu Y, Isobe K, Sugino K, Kinoshita A, Wada T, Sakamoto S, Takai Y, Sato F, Hata Y, Wakayama M, Sibuya K, Uekusa T, Iyoda	Malignant pleural mesothelioma mimicking the intrapulmonary growth pattern of epithelioid hemangioendothelioma.	Pathol Intern (Letter to the Editor)	64	358-360	2014

A, Homma S					
Hirota N, Ito T, Miyazaki S, Ebina M, Homma S	Gene expression profiling of lung myofibroblasts reveals the anti-fibrotic effects of cyclosporine.	Tohoku J Exp Med	233	283-293	2014
Takai Y, Yamashiro Y, Satoh D, Fukunaga S, Kobayashi M, Sugiyama K, Hatakeyama Y, Moriyama K, Komagamine M, Takasaki Y, Homma S	Association of obstructive sleep apnea syndrome with trapezius muscle hardness.	J Med Soc Toho	61	224-231	2014
Furuta S, Chaudhry AN, Hamano Y, Fujimoto S, Nagafuchi H, Makino H, Matsuo S, Ozaki S, Endo T, Muso E, Ito C, Kusano E, Yamagata M, Ikeda K, Kashiwakuma D, Iwamoto I, Westman K, Jayne D.	Comparison of phenotype and outcome in microscopic polyangiitis between Europe and Japan.	J Rheumatol.	41(2)	325-333	2014
Suzuki K, Nagao T, Itabashi M, Hamano Y, Sugamata R, Yamazaki Y, Yumura W, Tsukita S, Wang PC, Nakayama T, Suzuki K.	A novel autoantibody against moesin in the serum of patients with MPO-ANCA-associated vasculitis.	Nephrol Dial Transplant.	29(6)	1168-1177	2014
Hamano Y, Abe M, Matsuoka S, Zhang D, Kondo Y, Kagami Y, Ishigami A, Maruyama N, Tsuruta Y, Yumura W, Suzuki K.	Susceptibility quantitative trait loci for pathogenic leucocytosis in SCG/Kj mice, a spontaneously occurring crescentic glomerulonephritis and	Clin Exp Immunol.	177(1)	353-365	2014

	vasculitis model.				
Kurasawa T, Suzuki K, Takeuchi T.	Latest international comparison of clinical features in Takayasu arteritis: results from a single center primary vasculitis cohort study in Japan	Ann Rheum Dis	73(Suppl2)	1003-1004	2014
Yoshimoto K, Kurasawa T, Suzuki K, Takeuchi T.	Involvement of $\alpha E\beta 7$ (CD103) in the pathogenesis of autoimmune diseases.	Nihon Rinsho Meneki Gakkai Kaishi.	37(3)	171-175	2014
有村義宏	膠原病・血管炎.	腎と透析	76(4)	585-589	2014
有村義宏	血管炎の分類と新規病名分類.	呼吸器内科	25(4)	289-293	2014
佐藤綾,有村義宏,清水英樹,窪田沙也花,磯村杏耶,小西文晴,川嶋聡子,池谷紀子,吉原堅,駒形嘉紀,要伸也,石井誠之,佐藤衛,山田明	長期維持透析中に再燃した抗好球性多発血管炎性肉芽腫症 (Churg-Strauss 症候群) の 1 例.	透析会誌	47(7)	453-457	2014
有村義宏	難治性血管炎の新たな治療法.	Modern Physician	34(9)	1080-1083	2014
有村義宏	急速進行性糸球体腎炎に伴う肺病変.	最新医学社	別冊 新しい診断と治療の ABC 85	79-87	2014
山村昌弘,佐田憲映,針谷正祥,藤井隆夫,石津明洋,有村義宏,楨野博史	1.免疫と内科疾患ーその病態と治療最前線 5) 抗好中球細胞質抗体 (ANCA) 関連血管炎の病態と治療の最前線.	日本内科学会雑誌	103(9)	2121-2129	2014

有村義宏,池谷紀子	血管炎症候群. IV.関節リウマチ以外の膠原病,最近の話題	日本内科学会雑誌	103(10)	2492-2500	2014
有村義宏, 川上民裕, 本間 栄, 吉藤 元	血管炎 : 最近の話題.	呼吸	33(11)	1082-1095	2014
Ando K, Ohtsu H, Uchida S, Kaname S, Arakawa Y, Fujita T; for the EVALUATE Study Group	Anti-albuminuric effect of the aldosterone blocker eplerenone in non-diabetic hypertensive patients with albuminuria: a double-blind, randomised, placebo-controlled trial.	Lancet Diabetes Endocrinol	2	944-953	2014
Sawai T, Nangaku M, Ashida A, Fujimaru R, Hataya H, Hidaka Y, Kaname S, Okada H, Sato W, Yasuda T, Yoshida Y, Fujimura Y, Hattori M, Kagami S	Diagnostic criteria for atypical hemolytic uremic syndrome proposed by the Joint Committee of the Japanese Society of Nephrology and the Japan Pediatric Society.	Clin Exp Nephrol	18	4-9	2014
Igarashi T, Ito S, Sako M, Saitoh A, Hataya H, Mizuguchi M, Morishima T, Ohnishi K, Kawamura N, Kitayama H, Ashida A, Kaname S, Taneichi H, Tang J, Ohnishi M; Study group for establishing guidelines for the diagnosis and therapy of hemolytic uremic syndrome	Guidelines for the management and investigation of hemolytic uremic syndrome.	Clin Exp Nephrol	18	525-557	2014
Sawai T, Nangaku M, Ashida A, Fujimaru R, Hataya H, Hidaka Y, Kaname S, Okada H, Sato W, Yasuda T, Yoshida Y, Fujimura Y, Hattori M, Kagami S	Diagnostic criteria for atypical hemolytic uremic syndrome proposed by the Joint Committee of the Japanese Society of Nephrology and the Japan Pediatric Society.	Pediatr Int	56	1-5	2014

駒形嘉紀	血管炎のバイオマーカーが偽陽性・偽陰性を示す病態	Modern Physician	34	1058-1061	2014
磯村 杏耶, 池谷 紀子, 片岡 郁穂, 齋藤 督芸, 小路 仁, 吉原 堅, 駒形 嘉紀, 要 伸也, 有村 義宏, 山田 明, 岡野 晴子, 塩川 芳明	維持透析中に中枢神経障害を発症して診断された好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(EGPA:Churg-Strauss 症候群)の一例	関東リウマチ	47	202-208	2014
駒形嘉紀	RA 以外の膠原病に対する生物学的製剤治療の可能性：血管炎症候群	炎症と免疫	23	in press	2015

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
伊藤 聡	リウマチ性多発筋痛症の診断・治療方針	中村耕三	運動器診療 最新ガイドライン	総合医学社	東京	2012	178-181
伊藤 聡、幸田幸直	全身性エリテマトーデス(SLE)病態を理解して組み立てる	日本医療薬学会	剤師のための疾患別薬物療法 IV 免疫疾患/骨・関節疾患/血液・造血器疾患/内分泌・代謝疾患	南江堂	東京	2012	19-27
伊藤 聡	ステロイド糖尿病	技術情報協会	副作用軽減化 新薬開発	技術情報協会	東京	2012	443-444
伊藤 聡ほか	なし	日本リウマチ学会	リウマチ専門医試験 例題と解説 改訂第5版	MEDICAL VIEW 社	東京	2012	特定不可
伊藤 聡	全身性エリテマトーデスに伴う精神症状	樋口輝彦ら	今日の精神疾患治療指針	医学書院	東京	2012	492-495
伊藤 聡	特殊なケースの薬物療法 腎障害がある場合	竹内 勤	関節リウマチ治療実践バイブル	南江堂	東京	2013	178-179

伊藤 聡	喫煙—喫煙と抗 CCP 抗体	村澤 章、元木絵美	リウマチ看護パーフェクトマ ニュアル	羊土社	東京	2013	60
伊藤 聡	治療ガイドラインと治療の目標	村澤 章、元木絵美	リウマチ看護パーフェクトマ ニュアル	羊土社	東京	2013	68-74
伊藤 聡	関節リウマチの治療 内科治療 分子標的薬 抗 TNF 製剤		日本臨床 72 巻増刊号 3 最新関節リウマチ学 寛 解・治癒を目指した研究と 最新治療	日本臨床社	大阪	2014	446-449
伊藤 聡ほか	リウマチ専門医試験 例題と解説 改訂第 6 版 日本リウマチ学会 編集		リウマチ専門医試験 例題と 解説 改訂第 6 版 日本リ ウマチ学会編集	MEDICAL VIEW 社	東京	2014	特定不可
小林哲夫、伊藤 聡、中園 清、 村澤 章、吉江 弘正	関節リウマチ患者における口腔ケ ア・歯周病治療の重要性 関節 リウマチ治療中における感染症の マネジメント		関節リウマチ治療ステップア ップのために	医薬ジャーナル 社	大阪	2014	111-117
伊藤 聡	Q2 関節リウマチの特徴的症状を 教えてください。	住田孝之	関節リウマチクリニカルクエ スション 100	診断と治療社	東京	2014	3-5
伊藤 聡	Q16 関節リウマチでみられる二次 性アミロイドーシスの特徴と治療 法を教えてください。	住田孝之	住田孝之	診断と治療社	東京	2014	201-204

針谷正祥	抗リウマチ薬・生物学的製剤の副作用と対策	監修 山口徹、北原光夫、総編集 福井次矢、高木 誠、小室一成	今日の治療指針(私はこちら治療している)	医学書院	東京	2014	819-820
針谷正祥	寛解導入療法、グローバルな現状	榎野博史、松尾清一	ANCA 関連血管炎の診療ガイドライン(2014 改訂版)	難治性血管炎に関する調査研究班・進行性腎障害に関する調査研究班	東京・名古屋	2014	65
針谷正祥	生物学的製剤概論	日本呼吸器学会生物学的製剤と呼吸器疾患・診療の手引き作成委員会	生物学的製剤と呼吸器疾患診療の手引き	一般社団法人日本呼吸器学会	東京	2014	2-12
川上 民裕	血管炎の皮膚症状	岩月啓氏, 勝岡憲生, 古川福実, 川上民裕, 佐田憲映, 白藤宜紀, 片山治子	皮膚症状からみた血管炎診断の手引き Chapel-Hill コンセンサス会議 2012 に沿って	金原出版	東京	2014	9-12
川上 民裕	血管炎の疫学	岩月啓氏, 勝岡憲生, 古川福実, 川上民裕, 佐田憲映, 白藤宜紀, 片山治子	皮膚症状からみた血管炎診断の手引き Chapel-Hill コンセンサス会議 2013 に沿って	金原出版	東京	2014	13-15

川上 民裕	血管炎の病因	岩月啓氏, 勝岡憲生, 古川福実, 川上民裕, 佐田憲映、白藤宜紀、 片山治子	皮膚症状からみた血管炎診断 の手引き Chapel-Hill コンセ ンサス会議 2014 に沿って	金原出版	東京	2014	16-19
川上 民裕	血管炎の病理組織診断	岩月啓氏, 勝岡憲生, 古川福実, 川上民裕, 佐田憲映、白藤宜紀、 片山治子	皮膚症状からみた血管炎診断 の手引き Chapel-Hill コンセ ンサス会議 2015 に沿って	金原出版	東京	2014	37-43
川上 民裕	顕微鏡的多発血管炎 (microscopic polyangiitis)	岩月啓氏, 勝岡憲生, 古川福実, 川上民裕, 佐田憲映、白藤宜紀、 片山治子	皮膚症状からみた血管炎診断 の手引き Chapel-Hill コンセ ンサス会議 2016 に沿って	金原出版	東京	2014	66-70
川上 民裕	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 (チャージストラウス症候群)	岩月啓氏, 勝岡憲生, 古川福実, 川上民裕, 佐田憲映、白藤宜紀、 片山治子	皮膚症状からみた血管炎診断 の手引き Chapel-Hill コンセ ンサス会議 2017 に沿って	金原出版	東京	2014	76-80
川上 民裕	その他の鑑別疾患	岩月啓氏, 勝岡憲生, 古川福実, 川上民裕, 佐田憲映、白藤宜紀、 片山治子	皮膚症状からみた血管炎診断 の手引き Chapel-Hill コンセ ンサス会議 2018 に沿って	金原出版	東京	2014	119-125

川上 民裕	リベドを読む	宮地良樹	WHAT'S NEW in 皮膚科学 2014-2015	メディカルレビ ュー社	東京	2014	114-115
川上 民裕	リベド血管症治療の決めて：とっ ておきの治療解決法は？	宮地良樹	苦手な外来皮膚疾患 100 の解 決法 —そのとき達人はどの ような苦手皮膚疾患を克服し たか？	メディカルレビ ュー社	東京	2014	86-87
土屋尚之	環境因子と遺伝因子	槇野博史、松尾清一 編	ANCA 関連血管炎の診療ガイ ドライン (2014 年改訂版)	厚生労働省 難 治性疾患克服研 究事業		2014	10-12
高崎芳成	関節リウマチの関節外病変に対す る生物学的製剤治療のエビデンス について.	住田孝之編	関節リウマチクリニカルクエ スション 100.	診断と治療社	東京	2014	194-195
藤井 隆夫	血管炎症候群	山口 徹、北原 光夫、 福井 次矢、高木 誠、 小室 一成	今日の治療指針 2014 年版	医学書院	東京	2014	791-793
藤井 隆夫	膠原病・全身性疾患. X-7. 成人ス ティル病.	門脇 孝、小室 一成、 宮地 良樹	診療ガイドライン UP-TO-DATE 2014-2015	メディカルレビ ュー社	東京	2014	601-604
藤井 隆夫	関節リウマチの治療. 分子標的薬. CD28-B7 共刺激経路標的薬 (アバ タセプト)	高崎 芳成	最新関節リウマチ学	日本臨牀社	東京	2014	461-464

山田秀裕	ANCA 関連血管炎	久保惠嗣、藤田次郎	間質性肺炎診療マニュアル (改訂第2版)	南江堂	東京	2014	299-301
土橋 浩章	新寛解基準の使い方		関節リウマチ治療実践バイブル	南江堂		2013	131-133
土橋 浩章	回帰性リウマチ		今日の治療指針 2013年版	医学書院		2013	752
土橋 浩章	難治性症例に対する新たな治療法		ANCA 関連血管炎の診療ガイド ライン (2014年改訂版)	厚生労働省 難治 性疾患克服研究事 業		2014	107-110
土橋 浩章	免疫抑制薬の使い方と副作用対応		間質性肺疾患診療マニュアル 改訂第2版	南江堂		2014	178-183
土橋 浩章	再発性多発軟骨炎		今日の治療指針 2014年版	医学書院		2014	808
堀田哲也、渥美 達也	抗リン脂質抗体症候群(APS)	丸山征郎	ファーマナビゲーターDIC 編	メディカルレビ ュー社	東京	2014	248-257
堀田哲也、渥美 達也	自己免疫疾患	山田俊幸、大戸斉、 渥美達也、三宅幸子、 山内一由	新版 臨床免疫学 第3版	講談社	東京	2014	142-152
堀田哲也	アミロイドーシス	監修 山口徹、北原 光夫、総編集 福井 次矢、高木 誠、小 室一成	今日の治療指針(私はこちら治 療している)	医学書院	東京	2015	720

猪原登志子	エビデンスに基づく急速進行性腎炎症候群(RPGN)診療ガイドライン 2014. 2 診断・治療に関する CQ. CQ1 ANCA 測定法の違いは ANCA 関連血管炎の診断・活動性評価に影響するか？	松尾清一. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業進行性腎障害に関する調査研究班.	エビデンスに基づく急速進行性腎炎症候群(RPGN)診療ガイドライン 2014	東京医学社	東京	2014	26-28
猪原登志子	エビデンスに基づく急速進行性腎炎症候群(RPGN)診療ガイドライン 2014. 2 診断・治療に関する CQ. CQ2 ANCA 値は RPGN を呈する ANCA 関連血管炎の治療効果・再燃の使用として有用か？	松尾清一. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業進行性腎障害に関する調査研究班.	エビデンスに基づく急速進行性腎炎症候群(RPGN)診療ガイドライン 2014	東京医学社	東京	2014	28-32
猪原登志子	エビデンスに基づく急速進行性腎炎症候群(RPGN)診療ガイドライン 2014. 2 診断・治療に関する CQ. CQ16 免疫グロブリン大量静注療法は、RPTN の腎予後および生命予後を改善するために推奨されるか？	松尾清一. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業進行性腎障害に関する調査研究班.	エビデンスに基づく急速進行性腎炎症候群(RPGN)診療ガイドライン 2014	東京医学社	東京	2014	69-71
田村夏子、磯部光章	治療抵抗性大動脈炎症候群日垂するアプローチ—IL-6 受容体抗体の	代田浩之	循環器疾患-治療過程で総軍する諸問題の解決法	日本医事新報社	東京	2014	257-261

	大量投与						
落田美瑛：磯部光章	若い女性でも血管炎はあるの？大型血管炎：高安動脈炎		見逃すと怖い血管炎	日本医事新報社	東京	2014	43-50
本間 栄	特発性肺線維症.	山口 徹、北原光夫 監修	2014 今日の治療指針	医学書院	東京	2014	313-314
本間 栄 (分担)	ANCA 関連血管炎の診療ガイドライン(2014年改訂版)	尾崎承一、槇野博史 編	厚生労働省 難治性疾患克服 研究事業 難治性血管炎に 関する調査研究班			2014	
石田文昭、本間栄 (分担)	呼吸器疾患 (慢性閉塞性疾患、運動誘発性喘息)		健康運動指導士養成講習会 テキスト(公益財団法人 健康・ 体力づくり事業財団)	南江堂	東京	2014	131-136
杉野 圭史、本間 栄 (分担)	検査手順と診断フローチャート.	久保恵嗣、藤田次郎 編	間質性肺疾患診療マニュアル 改訂第2版	南江堂	東京	2014	46-50
本間 栄 (分担)	Acetylcysteine 吸入療法.	久保恵嗣、藤田次郎 編	間質性肺疾患診療マニュアル 改訂第2版	南江堂	東京	2014	184-189
坂本 晋、本間 栄 (分担)	特発性間質性肺炎診断と治療の手引き 改訂第2版。	門脇 孝、小室一成、 宮地良樹 監修	診療ガイドライン UP-TO-DATE	メジカルレビュー社	東京	2014	97-104
坂本 晋、本間 栄 (分担)	特発性間質性肺炎	弦間昭彦 編	呼吸器疾患診療最新ガイド ライン	総合医学社	東京	2014	118-124

佐藤啓太、本間栄 (分担)	多発性筋炎/皮膚筋炎	杉山幸比古 編	全身性疾患の肺病変	最新医学社	大阪	2014	25-33
坂本 晋、本間栄 (分担)	ロバの肺病変—高齢のロバに高頻度に認められる肺病変は？	塩谷隆信、千原孝司、桑平一郎、小林弘祐 編	呼吸のトリビア	中外医学社	東京	2014	119-123
濱野慶朋、湯村和子.	第2章5) 肉芽腫の血管炎ってあるの？小型血管炎：多発血管炎性肉芽腫症	湯村和子	見逃すところ怖い血管炎	日本医事新報社	東京	2014	76
濱野慶朋、佐々木裕子	高齢者の輸液	内田俊也	Medical Practice 2015 年臨時増刊号 病態生理と症例から学ぶ輸液ガイド	文光堂	東京	2015	In press
有村義宏	多発血管炎性肉芽腫症候群 (Wegener 肉芽腫症).		間質性肺疾患 診療マニュアル	南江堂	東京	2014	302-304
要 伸也	急速進行性腎炎症候群診療ガイドライン 2014	厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等克服研究事業 (難治性疾患克服研究事業) 「進行性腎障害に関する調査研究」	エビデンスに基づく急速進行性腎炎症候群診療ガイドライン 2014	東京医学社	東京	2014	42-49, 59-64

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Hirayama K, Kobayashi M, Usui J, Arimura Y, Sugiyama H, Nitta K, Muso E, Wada T, Matsuo S and Yamagata K on behalf of the Japanese RPGN Study Group of Progressive Renal Disease	Pulmonary involvements of anti-neutrophil cytoplasmic autoantibody-associated renal vasculitis in Japan.	Nephrol Dial Transplant(2015)	30	i83-i93	2015
有村義宏	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	科学評論社	63(3)	239-245	2015
有村義宏	ANCA 関連血管炎. ANCA 関連血管炎	呼吸器内科	27(4):	287-292	2015
有村義宏	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	診断と治療	103(5)	649-654	2015
有村義宏	好酸球浸潤と膠原病. -好酸球性多発血管炎性肉芽腫症を含む.	成人病と生活習慣病	45(7)	857-863	2015
有村義宏	血管炎症候群	リウマチ科	54(1)	31-41	2015
有村義宏	血管炎症候群	炎症と免疫	23(6)	32-36	2015
有村義宏	顕微鏡的多発血管炎. 免疫症候群(第2版) —その他の免疫疾患を含めて—.	別冊 日本臨床	34	777-783	2015
Tezuka D, Haraguchi G, Inagaki H, Isobe M	Progression of thrombogenesis in large coronary aneurysms during anticoagulant therapy in a Buerger's disease patient.	BMJ Case Reports	10	9945	2013
Kato Y, Terashima M, Ohigashi H, Tezuka D, Ashikaga T, Hirao K, Isobe M	Vessel Wall Inflammation of Takayasu Arteritis Detected by Contrast-enhanced Magnetic Resonance Imaging: Association with Disease Distribution and Activity.	Plos One	publisehd on line		2015

Terao C, Matsumura T, Yoshifuji H, Kirino Y, Maejima Y, Nakaoka Y, Takahashi M, Amiya E, Tamura N, Nakajima T, Origuchi T, Horita T, Matsukura M, Kochi Y, Ogimoto A, Yamamoto M, Takahashi H, Nakayamada S, Saito K, Wada Y, Narita I, Kawaguchi Y, Yamanaka H, Ohmura K, Atsumi T, Tanemoto K, Miyata T, Kuwana M, Komuro I, Tabara Y, Ueda A, Isobe M, Mimori T, Matsuda F	Takayasu arteritis and ulcerative colitis -high concurrence ratio and genetic overlap.	Arthritis Rheum	67	2226-2232	2015
Matsumura T, Amiya E, Tamura N, Maejima Y, Komuro I, Isobe M	A novel susceptibility locus for Takayasu arteritis in the IL12B region can be a genetic marker of disease severity.	Heart Vessels	publisehd on line		2015
磯部光章	高安動脈炎の新しい診断法と治療法	Medical Asahi	1月号	27-29	2016
手塚大介、磯部光章	高安動脈炎	Heart View	11月増刊号	70-73	2015
Yoshiko Watanabe, Tetsuro Miyata, Kazuo Tanemoto	Current Clinical Features of New Patients with Takayasu Arteritis Observed From a Cross-Country Research in Japan : Age and Sex Specificity.	Circulation.	132 (18)	1701-1709	2015 Nov
Yabumoto C, Akazawa H, Yamamoto R, Yano M, Kudo-Sakamoto Y, Sumida T, Kamo T, Yagi H, Shimizu Y, Saga-Kamo A, Naito AT, Oka T, Lee JK, Suzuki J, Sakata Y, Uejima E, Komuro I.	Angiotensin II receptor blockade promotes repair of skeletal muscle through down-regulation of aging-promoting Clq expression.	Sci Rep	25	14453	2015

Sumida T, Naito AT, Nomura S, Nakagawa A, Higo T, Hashimoto A, Okada K, Sakai T, Ito M, Yamaguchi T, Oka T, Akazawa H, Lee JK, Minamino T, Offermanns S, Noda T, Botto M, Kobayashi Y, Morita H, Manabe I, Nagai T, Shiojima I, Komuro I.	Complement C1q-induced activation of β -catenin signalling causes hypertensive arterial remodelling.	Nat Commun	26	6241	2015
Nakayama A, Morita H, Hayashi N, Nomura Y, Hoshina K, Shigematsu K, Ohtsu H, Miyata T, Komuro I	Inverse Correlation Between Calcium Accumulation and the Expansion Rate of Abdominal Aortic Aneurysms.	Cir J	in press		2015
Katagiri M, Takahashi M, Doi K, Myojo M, Kiyosue A, Ando J, Hirata Y, Komuro I.	Serum neutrophil gelatinase-associated lipocalin concentration reflects severity of coronary artery disease in patients without heart failure and chronic kidney disease	Heart Vessels	in press		2015
Yamaguchi T, Amiya E, Watanabe M, Komuro I.	Improvement of Severe Heart Failure after Endovascular Stent Grafting for Thoracic Aortic Aneurysm	Int Heart J	56	682-5	2015
Fujita D, Takeda N, Morita H, Kato M, Nishimura H, Inuzuka R, Taniguchi Y, Nawata K, Hyodo H, Imai Y, Hirata Y, Komuro I.	A novel mutation of TGFBR2 causing Loeys-Dietz syndrome complicated with pregnancy-related fatal cervical arterial dissections	Int J Cardiol	201	288-90	2015
Takata M, Amiya E, Watanabe M, Yamada N, Watanabe A, Kawarasaki S, Ozeki A, Nakao T, Hosoya Y, Ando J, Komuro I	The association between orthostatic increase in pulse pressure and ischemic heart disease	Clin Exp Hypertens	in press		2015

Ito M, Doi K, Takahashi M, Koyama K, Myojo M, Hosoya Y, Kiyosue A, Ando J, Noiri E, Yahagi N, Hirata Y, Komuro I.	Plasma neutrophil gelatinase-associated lipocalin predicts major adverse cardiovascular events after cardiac care unit discharge.	J Cardiol.	67	184-91	2015
Sakamoto A, Ishizaka N, Imai Y, Uehara M, Ando J, Nagai R, Komuro I.	Relationship between serum IgG4 concentrations and atherosclerotic coronary plaques assessed by computed tomographic angiography.	J Cardiol	in press		2015
Imai Y, Morita H, Takeda N, Miya F, Hyodo H, Fujita D, Tajima T, Tsunoda T, Nagai R, Kubo M, Komuro I	A deletion mutation in myosin heavy chain 11 causing familial thoracic aortic dissection in two Japanese pedigrees	Int J Cardiol.	195	290-2	2015
Takeda N, Morita H, Fujita D, Inuzuka R, Taniguchi Y, Imai Y, Hirata Y, Komuro I.	Congenital contractural arachnodactyly complicated with aortic dilatation and dissection: Case report and review of literature.	Am J Med Genet A	167	Jul-82	2015
Matsumura T, Amiya E, Tamura N, Maejima Y, Komuro I, Isobe M.	A novel susceptibility locus for Takayasu arteritis in the IL12B region can be a genetic marker of disease severity.	Heart Vessels.	in press		2015
Myojo M, Takahashi M, Tanaka T, Higashikuni Y, Kiyosue A, Ando J, Fujita H, Komuro I, Hirata Y.	Midterm follow-up after retrievable inferior vena cava filter placement in venous thromboembolism patients with or without malignancy.	Clin Cardiol	38	216-21	2015
Arita Y, Nakaoka Y, Otsuki M, Higuchi K, Hashimoto-Kataoka T, Yasui T, Masaki T, Ohtani T, Kishimoto T, Yamauchi-Takihara K, Komuro I, Sakata Y.	Cytokine storm after cessation of tocilizumab in a patient with refractory Takayasu arteritis.	Int J Cardiol.	187	319-321	2015

Cherif M., Caputo M, Nakaoka Y, Angelini G, Ghorbel M.	Gab1 Is Modulated by Chronic Hypoxia in Children with Cyanotic Congenital Heart Defect and Its Overexpression Reduces Apoptosis in Rat Neonatal Cardiomyocytes.	BioMed Research International.	Article ID 718492 (8 pages)	http://dx.doi.org/10.1155/2015/718492	2015
Hashimoto-Kataoka T, Hosen N, Sonobe T, Arita Y, Yasui T, Masaki T, Minami M, Inagaki T, Miyagawa S, Sawa Y, Murakami M, Kumanogoh A, Yamauchi-Takahara K, Okumura M, Kishimoto T, Komuro I, Shirai M, Sakata Y, Nakaoka Y.*	Interleukin-6/interleukin-21-signaling axis is critical in the pathogenesis of pulmonary arterial hypertension.	Proc Natl Acad Sci U S A.	112(20)	E2677-86. doi: 10.1073/pnas.1424774112.	2015
Terao C, Matsumura T, Yoshifuji H, Maejima Y, Nakaoka Y, Takahashi M, Amiya E, Tamura N, Nakajima T, Origuchi T, Matsukura M, Kochi Y, Ogimoto A, Yamamoto M, Takahashi H, Nakayama S, Saito K, Wada Y, Narita I, Kawaguchi Y, Yamanaka H, Omura K, Atsumi T, Tanemoto K, Miyata T, Kuwana M, Komuro I, Tabara Y, Ueda A, Isobe M, Mimori T, Matsuda F.	Takayasu arteritis and ulcerative colitis-high concurrence ratio and genetic overlap.	Arthritis & Rheumatol.	67(8)	2226-2232	2015
Kizu T, Yoshida Y, Furuta K, Ogura S, Egawa M, Chatani N, Hamano M, Takemura T, Ezaki H, Kamada Y, Nishida K, Nakaoka Y, Kiso S, Takehara T.	Loss of Gab1 adaptor protein in hepatocytes aggravates experimental liver fibrosis in mice.	Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol.	308(7)	G613-24	, 2015. doi: 10.1152/ajpgi.00289.2014.
中岡良和.	IL-6による肺高血圧症の病態形成の分子機構.	Pulmonary Hypertension Update.	1	62-67	2015

Onishi S, Adnan E, Ishizaki J, Miyazaki T, Tanaka Y, Matsumoto T, Suemori K, Shudou M, Okura T, Takeda H, Sawasaki T, Yasukawa M, Hasegawa H.	Novel Autoantigens Associated with Lupus Nephritis.	PLoS One	10(6)	e0126564	2015
Ishizaki J, Saito K, Nawata M, Mizuno Y, Tokunaga M, Sawamukai N, Tamura M, Hirata S, Yamaoka K, Hasegawa H, Tanaka Y.	Low complements and high titre of anti-Sm antibody as predictors of histopathologically proven silent lupus nephritis without abnormal urinalysis in patients with systemic lupus erythematosus	Rheumatology (Oxford)	54(3)	405-12	2015
Suemori K, Miyamoto H, Murakami S, Yamazaki H, Ishizaki J, Matsumoto T, Murakami Y, Hasegawa H, Yasukawa M.	Pulmonary Nocardiosis due to Nocardia asiatica in a Patient with ANCA-associated Vasculitis	Kansenshogaku Zasshi	89(4)	470-5	2015
Suemori K, Hasegawa H, Ishizaki J, Matsumoto T, Onishi S, Sada E, Sugita A, Yasukawa M.	Methotrexate-associated Lymphoproliferative Disease with Multiple Pulmonary Nodules in a Patient with Rheumatoid Arthritis	Intern Med	54(11)	1421-5	2015
Arita Y, Nakaoka Y, Otsuki M, Higuchi K, Hashimoto-Kataoka T, Yasui T, Masaki T, Ohtani T, Kishimoto T, Yamauchi-Takihara K, Komuro I, Sakata Y.	Cytokine storm after cessation of tocilizumab in a patient with refractory Takayasu arteritis.	Int J Cardiol.	187	319-321	2015
Cherif M., Caputo M, Nakaoka Y, Angelini G, Ghorbel M.	Gab1 Is Modulated by Chronic Hypoxia in Children with Cyanotic Congenital Heart Defect and Its Overexpression Reduces Apoptosis in Rat Neonatal Cardiomyocytes.	BioMed Research International.	Article ID 718492 (8 pages)	http://dx.doi.org/10.1155/2015/718492	2015

Hashimoto-Kataoka T, Hosen N, Sonobe T, Arita Y, Yasui T, Masaki T, Minami M, Inagaki T, Miyagawa S, Sawa Y, Murakami M, Kumanogoh A, Yamauchi-Takahara K, Okumura M, Kishimoto T, Komuro I, Shirai M, Sakata Y, Nakaoka Y.*	Interleukin-6/interleukin-21-signaling axis is critical in the pathogenesis of pulmonary arterial hypertension.	Proc Natl Acad Sci U S A.	112(20)	E2677-86. doi: 10.1073/pnas.1424774112.	2015
Terao C, Matsumura T, Yoshifuji H, Maejima Y, Nakaoka Y, Takahashi M, Amiya E, Tamura N, Nakajima T, Origuchi T, Matsukura M, Kochi Y, Ogimoto A, Yamamoto M, Takahashi H, Nakayama S, Saito K, Wada Y, Narita I, Kawaguchi Y, Yamanaka H, Omura K, Atsumi T, Tanemoto K, Miyata T, Kuwana M, Komuro I, Tabara Y, Ueda A, Isobe M, Mimori T, Matsuda F.	Takayasu arteritis and ulcerative colitis-high concurrence ratio and genetic overlap.	Arthritis & Rheumatol.	67(8)	2226-2232	2015
Kizu T, Yoshida Y, Furuta K, Ogura S, Egawa M, Chatani N, Hamano M, Takemura T, Ezaki H, Kamada Y, Nishida K, Nakaoka Y, Kiso S, Takehara T.	Loss of Gab1 adaptor protein in hepatocytes aggravates experimental liver fibrosis in mice.	Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol.	308(7)	G613-24	, 2015. doi: 10.1152/ajpgi.00289.2014
中岡良和.	IL-6による肺高血圧症の病態形成の分子機構.	Pulmonary Hypertension Update.	1	62-67	2015
Oh K, Ito S, Unno M, Kobayashi D, Azuma C, Abe A, Otani H, Ishikawa H, Nakazono K, Narita I, Murasawa A.	Decrease in disease activity of rheumatoid arthritis during treatment with adalimumab depends on the dose of methotrexate.	Intern Med	54	1035-1041	2015

Shimada A, Kobayashi T, Ito S, Okada M, Murasawa A, Nakazono K, Yoshie H.	Expression of anti-Porphyrromonas gingivalis peptidylarginine deiminase immunoglobulin G and peptidylarginine deiminase-4 in patients with rheumatoid arthritis and periodontitis.	J Periodont Res		doi:10.1111/jre.12288	2015
Kojima A, Kobayashi T, Ito S, Murasawa A, Nakazono K, Yoshie H.	Tumor necrosis factor-alpha gene promoter methylation in Japanese adults with chronic periodontitis and rheumatoid arthritis.	J Periodont Res		doi:10.1111/jre.12314	2015
Hirose T, Saiki R, Uemura T, Suzuki T, Dohmae N, Ito S, Takahashi H, Ishii I, Toida T, Kashiwagi K, and Igarashi K.	Increase in acrolein-conjugated immunoglobulins in saliva from patients with primary Sjögren's syndrome.	Clin Chim Acta	450	184-189	2015
Kobayashi T, Ito S, Kobayashi D, Kojima A, Shimada A, Narita I, Murasawa A, Nakazono K, Yoshie H.	Interleukin-6 receptor inhibitor tocilizumab ameliorates periodontal inflammation in patients with rheumatoid arthritis and periodontitis as well as tumor necrosis factor inhibitors.	Clin Exp Dental Res			in press
伊藤 聡、小林大介、成田一衛、小林哲夫、吉江弘正、村澤章、中園清	当院における生物学的製剤使用時の感染症対策についてートシリズマブ使用患者の選定、指導、連携を中心にー	リウマチ科	53	99-104	2015
伊藤 聡	当科におけるリウマチ・膠原病患者でのトラマドール塩酸塩/アセトアミノフェン配合錠（トラムセット®配合錠）の使用経験	リウマチ科	53	317-326	2015

伊藤 聡、小林大介、石川 肇、村澤章、成田一衛、中園 清	関節リウマチの、実臨床における treat to target (T2T) ー当院看護師、理学療法士の発表からー	リウマチ科	54	349-357	2015
伊藤 聡、小林大介、児玉 暁、親川知、針金健吾、阿部麻美、大谷 博、石川肇、村澤 章、成田一衛、中園 清	当院の関節リウマチ患者における etanercept から tocilizumab の切り替えについて ー切り替え時における prednisolone (PSL) 増量の影響	リウマチ科	54	567-574	2015
Sada KE, Yamamura M, Harigai M, Fujii T, Arimura Y, Makino H; Research Committee on Intractable Vasculitides, the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan.	Issues associated with the Ministry of Health, Labour and Welfare diagnostic criteria for antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitides: Reclassification of patients in the prospective cohort study of Remission Induction Therapy in Japanese patients with ANCA-associated vasculitides according to the MHLW criteria.	Mod Rheumatol.	25	657-9	2015
Katsuyama T, Sada KE, Namba S, Watanabe H, Katsuyama E, Yamanari T, Wada J, Makino H.	Risk factors for the development of glucocorticoid-induced diabetes mellitus.	Diabetes Res Clin Pract.	108	273-9	2015
Sada KE, Yamamura M, Harigai M, Fujii T, Takasaki Y, Amano K, Fujimoto S, Muso E, Murakawa Y, Arimura Y, Makino H; Research Committee on Intractable Vasculitides, the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan.	Different responses to treatment across classified diseases and severities in Japanese patients with microscopic polyangiitis and granulomatosis with polyangiitis: a nationwide prospective inception cohort study.	Arthritis Research & Therapy	17	305	2015

勝山恵理、佐田憲映	【高齢者のリウマチ性疾患-診断や治療における注意点】顕微鏡的多発血管炎	リウマチ科	53	1-5	2015
勝山隆行、佐田憲映	新しい血管炎の概念と分類	臨床免疫・アレルギー科	63	610-615	2015
佐田 憲映, 槇野 博史	【血管炎】 わが国の血管炎の現状と今後の展望	日本腎臓学会誌	56	65-69	2015
渡辺 晴樹, 佐田 憲映	【リウマチ医に必要な消化器疾患の最新知識】血管炎に伴う虚血性腸炎	リウマチ科	53	436-440	2015
Katsumata Y, Kawaguchi Y, Yamanaka H.	Interstitial Lung Disease with ANCA-associated Vasculitis.	Clin Med Insights Circ Respir Pulm Med.	9	Jun-51	2015
Sada KE, Yamamura M, Harigai M, Fujii T, Takasaki Y, Amano K, Fujimoto S, Muso E, Murakawa Y, Arimura Y, Makino H; Research Committee on Intractable Vasculitides, the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan.	Different responses to treatment across classified diseases and severities in Japanese patients with microscopic polyangiitis and granulomatosis with polyangiitis: a nationwide prospective inception cohort study.	Arthritis Res Ther.	17	305	2015
Yamazaki H, Sakai R, Koike R, Miyazaki Y, Tanaka M, Nanki T, Watanabe K, Yasuda S, Kurita T, Kaneko Y, Tanaka Y, Nishioka Y, Takasaki Y, Nagasaka K, Nagasawa H, Tohma S, Dohi M, Sugihara T, Sugiyama H, Kawaguchi Y, Inase N, Ochi S, Hagiyaama H, Kohsaka H, Miyasaka N, Harigai M; PREVENT Study Group.	Assessment of risks of pulmonary infection during 12 months following immunosuppressive treatment for active connective tissue diseases: a large-scale prospective cohort study.	J Rheumatol.	42	614-622	2015

Tanaka M, Koike R, Sakai R, Saito K, Hirata S, Nagasawa H, Kameda H, Hara M, Kawaguchi Y, Tohma S, Takasaki Y, Dohi M, Nishioka Y, Yasuda S, Miyazaki Y, Kaneko Y, Nanki T, Watanabe K, Yamazaki H, Miyasaka N, Harigai M.	Pulmonary infections following immunosuppressive treatments during hospitalization worsen the short-term vital prognosis for patients with connective tissue disease-associated interstitial pneumonia.	Mod Rheumatol.	4	609-614	2015
Sada KE, Yamamura M, Harigai M, Fujii T, Arimura Y, Makino H; Research Committee on Intractable Vasculitides, the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan.	Issues associated with the Ministry of Health, Labour and Welfare diagnostic criteria for antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitides: Reclassification of patients in the prospective cohort study of Remission Induction Therapy in Japanese patients with ANCA-associated vasculitides according to the MHLW criteria.	Mod Rheumatol.	4	657-659	2015
Sada KE, Yamamura M, Harigai M, Fujii T, Dobashi H, Takasaki Y, Ito S, Yamada H, Wada T, Hirahashi J, Arimura Y, Makino H	Classification and characteristics of Japanese patients with antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis in a nationwide, prospective, inception cohort study.	Arthritis Res Ther	16(2)	R101	2014
土橋 浩章	エビデンスに基づく急速進行性腎炎症候群(RPGN)診療ガイドライン2014	日本腎臓学会誌	57 巻1号	P139-232	2014
土橋 浩章	ANCA 関連血管炎の病因・病理、診断・治療	日本臨床 血管炎	71 巻増刊1	P381-386	2013

中石浩己, 洲崎賢太郎, 土橋浩章	ANCA の検査法と問題点	臨床検査	57 巻 3 号	P328-334	2013
柴田悠平、堀田哲也、渥美達也	抗リン脂質抗体等における肺血栓塞栓症	血栓と循環	23 (2)	186-191	2015
久田諒、堀田哲也、渥美達也	原発性抗リン脂質抗体症候群	リウマチ科	54 (1)	14-20	2015
久田諒、堀田哲也	抗リン脂質抗体症候群 -血栓症の機序について-	リウマチ科	53 (3)	260-266	2015
服部敏之、堀田哲也	全身性エリテマトーデス(ループス腎炎)	リウマチ科	54 (3)	277-282	2015
大村一将、堀田哲也	RA 以外の膠原病に対する生物学的製剤治療の可能性：全身性エリテマトーデス	炎症と免疫	23 (2)	137-141	2015
堀田哲也、渥美達也	原発性抗リン脂質抗体症候群	臨床免疫・アレルギー科	65 (1)	15-21	2016
堀田哲也	SLE と抗リン脂質抗体症候群	Monthly Book Derma	235	61-67	2015
保田晋助、堀田哲也	リウマチ性多発筋痛症	日本内科学雑誌	104 (10)	2157-2162	2015
Watanabe K, Yasuda S, Noguchi A, Horita T, Atsumi T	Coronary and mesenteric involvement in polyarteritis nodosa	Arthritis Rheumatol.	67 (2)	583	2015
Kono M, Yasuda S, Stevens RL, Koide H, Kurita T, Shimizu Y, Kanetsuka Y, Oku K, Bohgaki T, Amengual O, Horita T, Shimizu T, Majima T, Koike T, Atsumi T.	RasGRP4 is aberrantly expressed in the fibroblast-like synoviocytes of patients with rheumatoid arthritis and controls their proliferation	Arthritis Rheumatol.	67 (2)	396-407	2015
Kurita T, Yasuda S, Oba K, Odani T, Kono M, Otomo K, Fujieda Y, Oku K, Bohgaki T, Amengual O, Horita T, Atsumi T.	The efficacy of tacrolimus in patients with interstitial lung diseases complicated with polymyositis or dermatomyositis	Rheumatology (Oxford)	54 (1)	39-44	2015

Fujieda Y, Amengual O, Kono M, Kurita T, Otomo K, Kato M, Oku K, Bohgaki T, Horita T, Yasuda Y, Kuroki K, Maenaka K, Matsumoto M, Hatakeyama S, Atsumi T	Ribophorin II is involved in the tissue factor expression mediated by phosphatidylserine-dependent antiprothrombin antibody on monocytes	Rheumatology (Oxford)				印刷中
Oku K, Amengual O, Hisada R, Ohmura K, Nakagawa I, Watanabe T, Bohgaki T, Horita T, Yasuda S, Atsumi T.	Autoantibodies against component 1q subcomponent(C1q), contribute to complement activation and recurrent thrombosis/pregnancy morbidity in antiphospholipid syndrome (APS)	Rheumatology (Oxford)				印刷中
Oku K, Amengual O, Bohgaki T, Horita T, Yasuda S, Atsumi T.	An independent validation of the global anti-phospholipid syndrome score in Japanese cohort of patients with autoimmune diseases	Lupus	24(7)	774-775	2015	
Kataoka H, Yasuda S, Fukaya S, Oku K, Horita T, Atsumi T, Koike T.	Decreased expression of Runx1 and lowered production of Foxp3+ CD25+ CD4+ regulatory T cells in systemic sclerosis	Mod Rheumatol	25(1)	90-95	2015	
Yasuda S, Kurita T, Horita T, Atsumi T	Comment on: The efficacy of tacrolimus in patients with interstitial lung diseases complicated with polymyositis or dermatomyositis: reply	Rheumatology (Oxford)	54(6)	1129	2015	
Tanimura K, Jin H, Suenaga T, Morikami S, Arase N, Kishida K, Hirayasu K, Kohyama M, Ebina Y, Yasuda S, Horita T, Takasugi K, Ohmura K, Yamamoto K, Katayama I, Sasazuki T, Lanier LL, Atsumi T, Yamada H, Arase H	β 2-Glycoprotein I/HLA class II complexes are novel autoantigens in antiphospholipid syndrome	Blood	125(18)	2835-2844	2015	

<p>Terao C, Matsumura T, Yoshifuji H, Kirino Y, Maejima Y, Nakaoka Y, Takahashi M, Amiya E, Tamura N, Nakajima T, Origuchi T, Horita T, Matsukura M, Kochi Y, Ogimoto A, Yamamoto M, Takahashi H, Nakayamada S, Saito K, Wada Y, Narita I, Kawaguchi Y, Yamanaka H, Ohmura K, Atsumi T, Tanemoto K, Miyata T, Kuwana M, Komuro I, Tabara Y, Ueda A, Isobe M, Mimori T, Matsuda F</p>	<p>Takayasu arteritis and ulcerative colitis -high concurrence ratio and genetic overlap</p>	<p>Arthritis Rheumatol.</p>	<p>67 (8)</p>	<p>2236-2232</p>	<p>2015</p>
<p>Ganesh Raghu, Bram Rochweg, Yuan Zhang, Carlos A. Cuello Garcia, Arata Azuma, Juergen Behr, Jan L. Brozek, Harold R. Collard, William Cunningham*, Sakae Homma, Takeshi Johkoh, Fernando J. Martinez, Jeffrey Myers, ShandraL. Protzko, Schunemann; on behalf of theATS, ERS, JRS, andALAT. LucaRicheldi, DavidRind, MoisesSelman, ArthurTheodore, AtholU. Wells, HenkHoogsteden, andHolgerJ.</p>	<p>An Official ATS/ERS/JRS/ALAT Clinical Practice Guideline: Treatment of Idiopathic Pulmonary Fibrosis An Update of the 2011 Clinical Practice Guideline</p>	<p>Am J Respir Med</p>	<p>192</p>	<p>e3-e9</p>	<p>2015</p>
<p>Isobe K, Hata Y, Tochigi N, Kaburaki K, Kobayashi H, Makino T, Otsuka H, Ishida F, Hirota N, Sano G, Sugino K, Sakamoto S, Takai Y, Shibuya K, Iyoda A, Homma S.</p>	<p>Usefulness of nanofluidic digital PCR arrays to quantify T790M mutation in EGFR-mutant lung adenocarcinoma.</p>	<p>Cancer Genomics & Proteomics.</p>	<p>12</p>	<p>31-38</p>	<p>2015</p>
<p>Sakamoto S, Muramatsu Y, Sato K, Ishida F, Kikuchi N, Sano G, Sugino K, Isobe K, Homma S</p>	<p>Effectiveness of combined therapy with pirfenidone and inhaled N-acetylcysteine for advanced idiopathic pulmonary fibrosis: A case-control study.</p>	<p>Respirology,</p>	<p>20</p>	<p>445-452</p>	<p>2015</p>

Isshiki T, Sakamoto S, Kinoshita A, Sugino K, Kurosaki A, Homma S	Recombinant human soluble thrombomodulin treatment for acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis: A retrospective study.	Respiration	89	201-207	2015
Bando M, Sugiyama Y, Azuma A, Ebina M, Taniguchi H, Taguchi Y, Takahashi H, Homma S, Nukiwa T, Kudoh S	A prospective survey of idiopathic interstitial pneumonias in a web registry in Japan	Respiratory Investigation	53	51-59	2015
Keishi Sugino, Yasuhiko Nakamura, Takafumi Ito, Takuma Isshiki, Susumu Sakamoto, Sakae Homma	Comparison of clinical characteristics and outcomes between combined pulmonary fibrosis and emphysema associated with usual interstitial pneumonia pattern and non-usual interstitial pneumonia.	Sarcoidosis Vasc Diffuse Lung Dis,	32	129-137	2015
Junya Tominaga, Fumikazu Sakai, Takeshi Johkoh, Satoshi Noma, Masanori Akira, Kiminori Fujimoto, Thomas V. Colby, Takashi Ogura, Yoshikazu Inoue, Hiroyuki Taniguchi, Sakae Homma, Yoshio Taguchi, Yukihiko Sugiyama	Diagnostic certainty of idiopathic pulmonary fibrosis/usual interstitial pneumonia: The effect of the integrated clinico-radiological assessment	European Journal of Radiology			2015
Isshiki T, Sugino K, Gocho K, Furuya K, Shimizu M, Ohata T, Wada T, Isobe K, Sakamoto S, Takai Y, Homma S	Primary antiphospholipid syndrome associated with diffuse alveolar hemorrhage and pulmonary thromboembolism.	Intern Med	54	2029-2033	2015
杉野圭史、本間 栄	ステロイド、免疫抑制剤使用を巡る経緯とガイドライン.	呼と循	63	117-122	2015
本間 栄、杉山幸比古	特発性肺線維症に対する新規治療薬 低分子チロシンキナーゼ阻害薬ニンテダニブ (BIBF1120).	日胸	74	198-209	2015

坂本 晋、本間 栄	IPF の治療効果指標.	呼吸器内科	27	104-109	2015
坂本 晋、本間 栄	3つの IPF 治療第 III 相試験が示す	分子呼吸器病	19	37-40	2015
仲村泰彦、杉野圭史、後町杏子、伊豫田明、植草利公、本間 栄	長期経過を追えた濾胞性細気管支炎を合併した関節リウマチの 1 例.	Therapeutic Research	36	555-556	2015
坂本 晋、本間 栄	職業と呼吸器疾患	成人病と生活習慣病	45	773-779	2015
杉野圭史、本間 栄	間質性肺炎 外来での管理法と紹介のタイミング	medicina	52	1562-1564	2015
杉野圭史、本間 栄	拘束性肺疾患に関連する咳. 「せき」の鑑別、アプローチ、専門家の診方かた	Mebio	32	53-58	2015
坂本 晋、本間 栄	IPF の難病指定と社会的な問題	The Lung perspectives	23	236-239	2015
坂本 晋、本間 栄	IPF と虚血性心疾患.	呼吸器内科	28	343-346	2015
本間 栄	総括研究報告	厚生労働科学研究委託業務難治性疾患 実用化研究事業びまん性肺疾患に対するエビデンスを構築する新規戦略的研究平成 26 年度研究報告書		p3-16	2015
坂本 晋、杉野圭史、本間 栄	特発性肺線維症の進行防止におけるピルフェニドンおよびピルフェニドン+N-アセチルシステイン (NAC) 吸入併用療法に関する前向き多施設協同研究.	厚生労働科学研究委託業務難治性疾患 実用化研究事業びまん性肺疾患に対するエビデンスを構築する新規戦略的研究平成 26 年度研究報告書		p55-58	2015
大畠孝則、杉野圭史、仲村泰彦、一色琢磨、後町杏子、鏑木教平、磯部和順、本間 栄	CPFE 合併肺癌患者の治療別予後 解析とリスク因子	厚生労働科学研究委託業務難治性疾患 実用化研究事業びまん性肺疾患に対するエビデンスを構築する新規戦略的研究平成 26 年度研究報告書		p 195-199	2015
國保成暁、阿部信二、神尾孝一郎、弦間昭彦、早坂哲、竹内正弘、谷口博之、迎寛、坂東政司、本間 栄、馬場智尚、小倉高志、吾妻安良太	特発性肺線維症の急性増悪患者に対するトレミキシンを用いた血液浄化療法 (PMX 療法) の有効性及び安全性に関する探索的試験 のプロトコール.	厚生労働科学研究委託業務難治性疾患 実用化研究事業びまん性肺疾患に対するエビデンスを構築する新規戦略的研究平成 26 年度研究報告書		p59-64	2015

高橋弘毅、谷口博之、近藤康博、千葉弘文、井上義一、小倉高志、喜舎場朝雄、本間 栄	新重症度分類策定に基づく治療戦略.	厚生労働科学研究委託業務難治性疾患 実用化研究事業びまん性肺疾患に対するエビデンスを構築する新規戦略的研究平成 26 年度研究報告書	p69-72	2015
谷口博之、片岡健介、近藤康博、三嶋理晃、吾妻安良太、坂東政司、井上義一、小倉高志、本間 栄	長期酸素療法導入後の特発性肺線維症患者の予後調査と予後予測因子の前向き検討（本年度進捗）	厚生労働科学研究委託業務難治性疾患 実用化研究事業びまん性肺疾患に対するエビデンスを構築する新規戦略的研究平成 26 年度研究報告書	p179-182	2015
本間 栄	総括研究報告	厚生労働科学研究費補助金難治性疾患 政策研究事業びまん性肺疾患に関する調査研究班平成 26 年度研究報告書	p3-14	2015
○後町杏子、杉野圭史、中村泰彦、一色琢磨、渋谷和俊、植草利公、本間 栄	特発性上葉優位型間質性肺炎の臨床的特徴-特発性肺線維症との比較-	厚生労働科学研究費補助金難治性疾患 政策研究事業びまん性肺疾患に関する調査研究班平成 26 年度研究報告書	p145-150	2015
坂東政司、吾妻安良太、本間 栄	IPF 診療ガイドラインの刊行部会	厚生労働科学研究費補助金難治性疾患 政策研究事業びまん性肺疾患に関する調査研究班平成 26 年度研究報告書	p145-150	2015
高橋弘毅、谷口博之、近藤康博、千葉弘文、井上義一、小倉高志、喜舎場朝雄、本間 栄	特発性肺線維症の QOL 改善.	厚生労働科学研究費補助金難治性疾患 政策研究事業びまん性肺疾患に関する調査研究班平成 26 年度研究報告書	p89-92	2015
井上義一、小倉高志、本間 栄、高橋弘毅、杉山幸比古	第 3 回間質性肺炎/肺線維症勉強会報告	厚生労働科学研究費補助金難治性疾患 政策研究事業びまん性肺疾患に関する調査研究班平成 26 年度研究報告書	p93-98	2015
土橋浩章、佐田憲映、本間 栄、針谷正祥、臼井丈一	抗好中球細胞質抗体 (ANCA) 関連血管炎・急速進行性糸球体腎炎の寛解導入治療の現状とその有効性と安全性に関する観察研究	厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 難治性血管炎に関する調査研究 平成 26 年度総括・分担研究報告書	p 71-73	2015
針谷正祥、佐田憲映、土橋浩章、本間 栄、和田隆志	中小型血管炎分科会活動報告	厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 難治性血管炎に関する調査研究 平成 26 年度総括・分担研究報告書	p 56-61	2015
本間 栄、 卜部尚久、杉野圭史	次世代シーケンサーによる網羅的遺伝子検出法を用いた ARDS 症例の基礎疾患検索	厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業「高病原性鳥インフルエンザの診断・治療に関する国際連携研究」平成 26 年度総括・分担研究報告書	p 23-28	2015

廣田 直, 磯部和順、杉野圭史, 本間 栄	特発性肺線維症における筋線維芽細胞の抗アポトーシス作用とミトコンドリア品質管理について喫煙が及ぼす影響.	平成 26 年度公益財団法人喫煙科学財団 研究年報		p 234-237	2015
Kitagawa K, Furuichi K, Sagara A, Shinozaki Y, Kitajima S, Toyama T, Hara A, Iwata Y, Sakai N, Shimizu M, Kaneko S, Wada T; Kanazawa Study Group for Renal Diseases and Hypertension	Risk factors associated with relapse or infectious complications in Japanese patients with microscopic polyangiitis.	Clin Exp Nephrol		Epub ahead of print	2015
Sakai N, Wada T	T Helper 2 Cytokine Signaling in Bone Marrow-Derived Fibroblasts: A Target for Renal Fibrosis	J Am Soc Nephrol	26	Aug-96	2015
Hirayama K, Kobayashi M, Usui J, Arimura Y, Sugiyama H, Nitta K, Muso E, Wada T, Matsuo S, Yamagata K	Pulmonary involvements of anti-neutrophil cytoplasmic autoantibody-associated renal vasculitis in Japan	Nephrol Dial Transplant	Suppl 1	i83-93	2015
Iinuma C, Waki M, Kawakami A, Yamaguchi M, Tomaru U, Sasaki N, Masuda S, Matsui Y, Iwasaki S, Baba T, Kasahara M, Yoshiki T, Paletta D, Herrmann T, Ishizu A.	Establishment of vascular endothelial cell-reactive type II NKT cell clone from rat model of autoimmune vasculitis.	Int Immunol	27(2)	105-114	2015
Ishihara S, Yasuda M, Ishizu A, Ishikawa M, Shirato H, Haga H.	Activating transcription factor 5 enhances radioresistance and malignancy in cancer cell.	Oncotarget	6(7)	4602-4614	2015
Yamada Y, Tomaru U, Ishizu A, Ito T, Kiuchi T, Ono A, Miyajima S, Nagai K, Higashi T, Matsuno Y, Dosaka-Akita H, Nishimura M, Miwa S, Kasahara M.	Decreased proteasomal function accelerates cigarette smoke-induced pulmonary emphysema in mice.	Lab Invest	95(6)	625-634	2015

Tomaru U, Tsuji T, Kiuchi S, Ishizu A, Suzuki A, Otsuka N, Ito T, Ikeda H, Fukasawa Y, Kasahara M.	Decreased expression of a thymus-specific proteasome subunit $\beta 5t$ in Down syndrome patients.	Histopathology	67(2)	235-244	2015
Iwasaki S, Suzuki A, Fujisawa T, Sato T, Shirai S, Kamigaki M, Otsuka N, Tomaru U, Ishizu A.	Fatal cardiac small vessel involvement in ANCA-associated vasculitis: an autopsy case report.	Cardiovasc Pathol	24(6)	408-410	2015
Kawakami T, Yoon SY, Takeuchi S, Soma Y, Kuroha S, Yoshida S, Shida H, Nakazawa D, Tomaru U, Ishizu A.	Novel monoclonal antibodies that recognize both rat and mouse phosphatidylserine/prothrombin complexes.	Mod Rheumatol	in press		
Nakazawa D, Shida H, Kusunoki Y, Miyoshi A, Nishio S, Tomaru U, Atsumi T, Ishizu A.	The responses of macrophages in interaction with neutrophils that undergo NETosis.	J Autoimmun	in press		
中沢大悟, 石津明洋.	特集「腎と免疫」 各論「ANCA関連腎炎」.	腎と透析	78(5)	727-732	2015
石津明洋.	特集「膠原病研究アップデート」VI. 血管炎症候群.	アレルギー・免疫	22(12)	1740-1747	2015
志田玄貴, 石津明洋.	特集「ANCA関連血管炎(AAV)」 MPO-ANCAによる血管傷害のメカニズム.	リウマチ科	54(6)	581-585	2015
Onishi S, Adnan E, Ishizaki J, Miyazaki T, Tanaka Y, Matsumoto T, Suemori K, Shudou M, Okura T, Takeda H, Sawasaki T, Yasukawa M, Hasegawa H.	Novel Autoantigens Associated with Lupus Nephritis.	PLoS One.	10(6)	e0126564	2015
Nakata H, Miyazaki T, Iwasaki T, Nakamura A, Kidani T, Sakayama K, Masumoto J, Miura H.	Development of tumor-specific caffeine-potentiated chemotherapy using a novel drug delivery system with Span 80 nano-vesicles.	Oncology reports.	33(4)	1593-1598	2015

Mokuda S, Miyazaki T, Ubara Y, Kanno M, Sugiyama E,	CD1a(+) survivin(+) dendritic cell infiltration in dermal lesions of systemic sclerosis.	Arthritis Res Ther.	17	275	2015
Mokuda S, Miyazaki T, Ito Y, Yamasaki S, Inoue H, Guo Y, Kong WS, Kanno M, Takasugi K, Sugiyama E, Masumoto J.	The proto-oncogene survivin splice variant 2B is induced by PDGF and leads to cell proliferation in rheumatoid arthritis fibroblast-like synoviocytes.	Scientific reports.	5	9795	2015
Kawashima M, Usui T, Okada H, Mori I, Yamauchi M, Ikeda T, Kajita K, Kito Y, Miyazaki T, Fujioka K, Ishizuka T, Morita H.	TAFRO syndrome: 2 cases and review of the literature.	Modern rheumatology	in press		2015
Hanai T, Shiraki M, Ohnishi S, Miyazaki T, Ideta T, Kochi T, Imai K, Suetsugu A, Takai K, Shimizu M, Moriwaki H.	Impact of serum glycosylated Wisteria floribunda agglutinin-positive Mac-2 binding protein levels on liver functional reserves and mortality in patients with liver cirrhosis.	Hepatology Research	in press		2015
Adachi Y, Mizutani Y, Shu E, Kanoh H, Miyazaki T, Seishima M.	Eosinophilic fasciitis associated with myositis.	Case Reports in Dermatology	7(1)	79-83	2015
Tokuzumi M, Fujisawa T, Shu E, Kanoh H, Saigo C, Miyazaki T, Hamaguchi Y, Seishima M.	Anti-SRP Antibody-positive Myopathy with Universal Alopecia and Multiple Vitiligo.	Acta dermato-venereologica.	95(4)	497-498	2015
Kawakami T, Okano T, Takeuchi S, Kimura S, Soma Y	Complete resolution of refractory cutaneous arteritis by intravenous cyclophosphamide pulse therapy	Int J Dermato	54	e323-e325	2015

Kawakami T, Yoon SY, Takeuchi S, Soma Y, Kuroha S, Yoshida S, Shida H, Nakazawa D, Tomaru U, Ishizu A.	Novel monoclonal antibodies that recognize both rat and mouse phosphatidylserine/prothrombin complexes.	Mod Rheumatol	29	1-2	2015
Kawakami T, Takeuchi S, Okano T, Inoue H, Soma Y	Therapeutic effect of autologous platelet-rich plasma on recalcitrant cutaneous ulcers in livedoid vasculopathy.	J Am Acad Dermatol Case Reports	1	310-311	2015
藤本学, 浅野善英, 石井貴之, 小川文秀, 川上民裕, 小寺雅也, 浅井純, 岩田洋平	膠原病・血管炎にともなう皮膚潰瘍の治療アルゴリズム	Monthly Book Derma	226	71-77	2015
川上民裕	「診療の秘訣」皮膚血管炎アルゴリズム “川上アルゴリズム”の原点	Modern Physician	35	351-352	2015
川上民裕	皮膚症状を呈するなじみのない血管炎 なじみのない皮膚疾患を見逃さないコツ	Monthly Book Derma	228	39-46	2015
川上民裕	クリオグロブリン定性試験の方法を教えてください スキルアップのための Q&A	皮膚アレルギーフロンティア	13	50	2015
川上民裕	若手医師のためのエキスパートセミナー 血管炎 + 論文作成のコツ	日臨皮会誌	32	51-54	2015
川上民裕	血管炎における抗凝固療法	日本医事新報	4747	59-60	2015
川上民裕	採血後の青あざの機序	日本医事新報	4751	63	2015
川上民裕	IgA 血管炎の腎病変（最近の話題）	皮膚病診療	37	641-648	2015
川上民裕	これが血管とリンパ管の像だ！皮膚かたちアトラス	Visual Dermatology	14	1164-1165	2015
川上民裕	皮膚型結節性多発動脈炎 免疫症候群（I）その他の免疫疾患を含めて	日本臨床	別 34	766-771	2015

川上民裕	IgA 血管炎 (旧名 Henoch-Schönlein 紫斑病) 免疫症候群 (I) その他の免疫疾患を含めて	日本臨床	別 34	799-803	2015
川上民裕	血管炎 全身性強皮症とその鑑別疾患より 早期に正確に診断するために	Visual Dermatology	15	72-73	2016
川上民裕	「私の処方」リウマトイド血管炎 (悪性関節リウマチ)	Modern Physician	36	77	2016
Furukawa H, Oka S, Shimada K, Masuo K, Nakajima F, Funano S, Tanaka Y, Komiya A, Fukui N, Sawasaki T, Tadokoro K, Nose M, Tsuchiya N, Tohma S.	Autoantibody profiles in collagen disease patients with interstitial lung disease (ILD): Antibodies to major histocompatibility complex class I-related chain A (MICA) as markers of ILD.	Biomarker Insights	:10	63-73 doi: 10.4137/ BMIMI.S2 8209.	2015
Tsuchiya N, Ohashi J.	Editorial: Human immune system diversity and its implications in diseases.	J Hum Genet	60(11)	655-656; doi:10.1 038/jhg. 2015.101	2015
Furukawa H, Oka S, Shimada K, Tsuchiya N, Tohma S.	Genetics of interstitial lung disease: Vol de Nuit (Night Flight).	Clinical Medicine Insights: Circulatory, Respiratory and Pulmonary Medicine	9(S1)	:1-7 doi: 10.4137/ CCRPRPM. S23283.	2015
土屋尚之	膠原病および類縁疾患のゲノム解析の現況～GWAS および post GWAS～.	リウマチ科	54(4)	473-479	2015
土屋尚之、川崎綾、岡笑美、古川宏	リウマチ・膠原病と HLA.	MHC	22(2)	74-83	2015
Fujimoto S, Kobayashi S, Suzuki K	Epidemiology and classification of vasculitis-international comparative study and latest international trend	Nihon Jinzo Gakkai Shi	56	80-86	2014 昨 年度未報 告分

Yumura W, Kobayashi S, Suka M, Hayashi T, Ito S, Nagafuchi H, Yamada H, Ozaki S; JMAAV Study Group.	Assessment of the Birmingham vasculitis activity score in patients with MPO-ANCA-associated vasculitis: sub-analysis from a study by the Japanese Study Group for MPO-ANCA-associated vasculitis	Mod Rheumatol	24	304-309	2014 昨年度未報告分
小林 茂人	強直性脊椎炎【脊椎関節炎の病態・診断・治療】	分子リウマチ治療	8	184-190	2015
小林 茂人	【ロコモティブシンドロームのすべて】ロコモティブシンドロームを構成する疾患 関節リウマチとその関連疾患 その他のリウマチ性疾患	日本医師会雑誌	144	S214-S216	2015
小林 茂人, 木田 一成	【高齢者のリウマチ性疾患-診断や治療における注意点】 巨細胞性動脈炎	リウマチ科	53	39-46	2015
小林 茂人, 木田 一成	反応性関節炎 (ReA) (ライター症候群)	日本臨床 別冊 新領域別症候群シリーズ No. 34 免疫症候群 第2版	34	694-697	2015
立山 香織(大分大学 医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科), 岸部 幹, 森田 由香, 吉田尚弘, 國本 泰臣, 松井 隆道, 坂口 博史, 岡田 昌浩, 渡辺 毅, 稲垣 彰, 小林茂人, 飯野 ゆき子, 村上 信五, 高橋晴雄, 東野 哲也, 原渕 保明, 日本耳科学会 ANCA 関連血管炎性中耳炎全国調査ワーキンググループ	発症型別にみた ANCA 関連血管炎 性中耳炎の臨床的特徴と経過	Otology Japan	25	565	2015
土屋 尚之 長谷部 成美, 日高 操希, 佐田憲映, 小林 茂人, 山田 秀裕, 古川 宏, 山縣 邦弘, 住田 孝之, 宮坂 信之, 當間重人, 尾崎 承一, 松尾 清一, 橋本 博史, 槇野 博史, 有村 義宏, 針谷 正祥, 綾	ANCA 関連血管炎の Update 日本人 集団における ANCA 関連血管炎の 遺伝素因	日本リウマチ学会総会・学術集会・国際リウマチシンポジウムプログラム・抄録集	59 回	222	2015

多田 久里守, 林 絵利, 小笠原 倫大, 山路 健, 田村 直人, 小林 茂人, 井上久, 高崎 芳成	TNF 阻害薬の変更を行った強直性 脊椎炎患者 4 例の解析	日本リウマチ学会総会・学術集会・国際リウマチシンポジウムプログラム・抄録集	59 回	369	2015
谷口 義典, 小林 茂人, 公文 義雄, 寺田 典生, 岸本 暢将	脊椎関節炎の Update(診断と治療) 脊椎関節炎の最新治療薬の話題	日本リウマチ学会総会・学術集会・国際リウマチシンポジウムプログラム・抄録集	59 回	189	2015
岸本 暢将, 小林 茂人, 谷口 義典, 富田 哲也, 岡田 正人	脊椎関節炎の Update(診断と治療) 診断・分類基準の進歩と問題点 誤りやすい症状の注意	日本リウマチ学会総会・学術集会・国際リウマチシンポジウムプログラム・抄録集	59 回	188	2015
小林 茂人	内科(リウマチ・膠原病)からみた皮膚血管炎・血管障害の臨床	日本皮膚科学会雑誌	125	725	2015
Kuroda Y, Asada R, So K, Yonezawa A, Nankaku M, Mukai K, Ito-Ihara T, Tada H, Yamamoto M, Murayama T, Morita S, Tabata Y, Yokode M, Shimizu A, Matsuda S, Akiyama H.	A pilot study of regenerative therapy using controlled release of recombinant human fibroblast growth factor for patients with pre-collapse osteonecrosis of the femoral head.	Int Orthop.		[Epub ahead of print]	2015 Dec 29
Kumagai M, Marui A, Tabata Y, Takeda T, Yamamoto M, Yonezawa A, Tanaka S, Yanagi S, Ito-Ihara T, Ikeda T, Murayama T, Teramukai S, Katsura T, Matsubara K, Kawakami K, Yokode M, Shimizu A, Sakata R.	Safety and efficacy of sustained release of basic fibroblast growth factor using gelatin hydrogel in patients with critical limb ischemia.	Heart Vessels.		[Epub ahead of print]	2015 Apr 11.
猪原 登志子, 藤元 昭一, 鈴木 和男, 遠藤 知美, 武曾 恵理	【血管炎症候群とアフェレシス】 ANCA 関連血管炎に対するアフェレシス療法 抗好中球細胞質抗体関連血管炎に対する血漿交換療法と国際共同臨床試験 PEXIVAS.	日本アフェレシス学会雑誌	34 巻 2 号	120-125	2015
猪原 登志子	【臨床研究・臨床試験の信頼性確保への取り組み】 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(疫学・臨床研究統合指針)の概要.	薬理と治療	43 巻 Suppl. 1	s11-s21	2015

杉原 毅彦, 伊賀 祥子, 濱野 慶朋, 武村 拓也, 山田 浩和, 新井 富生, 荒木 厚	関節リウマチ, 片側性滲出性胸膜炎の治療中に, 肺炎で死亡した1例	内科	116 巻 2 号	310-318	2015
瀧川 正紀, 増富 裕文, 島崎 良知, 濱野 慶朋, 石井 敏浩, 森 淑子, 石神 昭人		日本薬学会年会要旨集	135 年会 4 号	188	2015
濱野 慶朋, 佐野 夏帆, 丸山 直記, 湯村 和子, 鈴木 和男	MPO-ANCA 関連血管炎自然発症モデル SCG/Kj マウスにおける腎炎 関連遺伝子の解析	日本腎臓学会誌	57 巻 3 号	600	2015
濱野 慶朋, 湯村 和子	老年医学からみた透析医療 老年医学のあゆみと現状 サルコペニア/フレイルティと透析医療の今日の問題	臨床透析	31 巻 10 号	1219-1224	2015
Ken-ei Sada, Masahiro Yamamura, Masayoshi Harigai, Takao Fujii, Yoshinari Takasaki, Koichi Amano, Shouichi Fujimoto, Eri Muso, Yohko Murakawa, Yoshihiro Arimura, Hirofumi Makino, and for the Research Committee on Intractable Vasculitides, the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan	Different responses to treatment across classified diseases and severities in Japanese patients with microscopic polyangiitis and granulomatosis with polyangiitis: a nationwide prospective inception cohort study	Arthritis Res Ther	17	305	
Motomu Hashimoto, Toru Yamazaki, Masahide Hamaguchi, Takeshi Morimoto, Masashi Yamori, Keita Asai, Yu Isobe, Moritoshi Furu, Hiromu Ito, Takao Fujii, Chikashi Terao, Masato Mori, Takashi Matsuo, Hiroyuki Yoshitomi, Keiichi Yamamoto, Wataru Yamamoto, Kazuhisa Bessho, and Tsuneyo Mimori	Periodontitis and Porphyromonas gingivalis in preclinical stage of arthritis patients	PLoS One	10	e0122121	

川嶋聡子、要 伸也	全身性自己免疫疾患、血管炎症候群：好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 in 免疫症候群	日本臨床別冊 新領域別症候群シリーズ 免疫症候群第2版	34	790-794	2015
要 伸也	急速進行性糸球体腎炎と ANCA 関 連血管炎の最新治療	医薬ジャーナル	51	81-86	2015
Tokai N, Ogasawara M, Gorai M, Matsuki Y, Yamada Y, Murayama G, Sugisaki N, Nemoto T, Ando S, Minowa K, Kon T, Tada K, Matsushita M, Yamaji K, Tamura N, Makino S, Takasaki Y	Predictive value of bone destruction and duration of clinical remission for subclinical synovitis in rheumatoid arthritis patients.	Mod Rheumatol	25	540-545	2015
Doe K, Nozawa K, Hirai T, Tsushima H, Hayashi E, Hiruma K, Ando S, Nakano S, Kon T, Amano H, Yamaji K, Tamura N, Takasaki Y	Second-to-fourth Digit Ratio in Systemic Lupus Erythematosus.	J Rheumatol	42	826-828	2015
Nakano S, Morimoto S, Suzuki S, Tsushima H, Yamanaka K, Sekigawa I, Takasaki Y	Immunoregulatory role of IL-35 in T cells of patients with rheumatoid arthritis.	Rheumatology	54	1498-1506	2015
Yamazaki H, Sakai R, Koike R, Miyazaki Y, Tanaka M, Nanki T, Watanabe S, Yasuda S, Kurita T, Kaneko Y, Tanaka Y, Nishioka Y, Takasaki Y, Nagasaka K, Nagasawa H, Tohma S, Dohi M, Sugihara T, Sugiyama H, Kawaguchi Y, Inase N, Ochi S, Hagiwara H, Hitoshi K, Miyasaka N, Harigai M, for the PREVENT Study Group	Assessment of Risks of Pulmonary Infection During 12 Months Following Immunosuppressive Treatment for Active Connective Tissue Diseases:A Large-scal Prospective Cohort Study.	J Rheumatol	42	614-622	2015
Ishiyama K, Yashiro T, Nakano N, Kasakura K, Miura R, Hara M, Kawai F, Maeda K, Tamura N, Okumura K, Ogawa H, Takasaki Y, Nishiyama C	Involvement of PU.1 in NFATc1 promoter function in osteoclast development.	Allergol Int	64	241-247	2015

Honda D, Tsueshita K, Ohsawa I, Miyashita T, Inoshita H, Shimamoto M, Horikoshi S, Motimoto S, Takasaki Y, Tomino Y	Clinical Significance of Renal Interstitial Fibrosis in Patients with Lupus Nephritis.	Juntendo Mde J	61	418-428	2015
Matsuki Y, Atsumi T, Yamaguchi K, Hisano M, Arata N, Oku K, Watanabe N, Sago H, Takasaki Y, Murashima A	Clinical features and pregnancy outcome in antiphospholipid syndrome patients with history of severe pregnancy complications.	Mod Rheumatol	25	215-218	2015
Tanaka M, Koike R, Sakai R, Saito K, Hirata S, Nagasawa H, Kameda H, Hara M, Kawaguchi Y, Tohma S, Takasaki Y, Dohi M, Nishioka Y, Yasuda S, Miyazaki Y, Kaneko Y, Nanki T, Watanabe K, Yamazaki H, Miyasaka N, Harigai M	Pulmonary infections following immunosuppressive treatments during hospitalization worsen the short-term vital prognosis for patients with connective tissue disease-associated interstitial pneumonia.	Mod Rheumatol	25	609-614	2015
Yasuda S, Atsumi T, Shimamura S, Ono K, Hiromura K, Sada K, Mori M, Takei S, Kawaguchi Y, Tamura N, Takasaki Y	Surveillance for the use of mycophenolate mofetil for adult patients with lupus nephritis in Japan.	Mod Rheumatol	25	854-857	2015
Hara R, Miyazawa H, Nishimura K, Momoi T, Nozawa T, Kikuchi M, Sakurai N, Kizawa T, Shimamura S, Yasuda S, Hiromura K, Sada KE, Kawaguchi Y, Tamura N, Takei S, Takasaki Y, Atsumi T, Mori M	A national survey on current use of mycophenolate mofetil for childhood-onset systemic lupus erythematosus in Japan.	Mod Rheumatol	25	858-864	2015

Sada KE, Yamamura M, Harigai M, Fujii T, Takasaki Y, Amano K, Fujimoto S, Muso E, Murakawa Y, Arimura Y, Makino H; Research Committee on Intractable Vasculitides, the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan	Different responses to treatment across classified diseases and severities in Japanese patients with microscopic polyangiitis and granulomatosis with polyangiitis: a nationwide prospective inception cohort study.	Arthritis Res Ther	17	305	2015
高崎芳成, 松下雅和, 土江健太郎, 蛭間香織, 山田祐介, 野澤和久	SmD ペプチドを抗原として用いた自己抗体測定試薬「エリア SmDp」の臨床的有用性の検討	医学と薬学	72	139-146	2015
高崎芳成	リウマチの注目療法	健康	3	112-114	2015
駒形嘉紀、有村義宏	RA 以外の膠原病に対する生物学的製剤治療の可能性：血管炎症候群	炎症と免疫	23	153-158	2015
駒形嘉紀、有村義宏	ANCA 関連血管炎の診療ガイドラインのポイント	Medical Practice	32	1159-1164	2015
駒形嘉紀	AAV の分類と鑑別診断	リウマチ科	54	594-601	2015

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
磯部光章	高安動脈炎	山口徹	今日の治療指針	医学書院	東京	2015	471-472
伊藤 聡	確立した関節リウマチ評価と治療戦略	松本 功、保田 晋介、三森 経 世、桑名正隆	リウマチ・膠原病診療ハイグレード 分子標的/Bio時代のリウマチ・膠原病治療ストラテジー	文光堂		2015	24-32
土橋浩章	血管炎症候群・結節性多発動脈炎	松本功, 三森経世, 桑名正隆, 保田晋助	分子標的/Bio時代のリウマチ・膠原病治療ストラテジー	文光堂	東京	2015	P339-353
土橋浩章	難治性症例に対する新たな治療法	尾崎承一, 榎野博史	ANCA 関連血管炎の診療 ガイドライン(2014年改訂版)	難治性血管炎に関する調査研究班, 進行性腎障害に関する調査研究班,	岡山, 名古屋	2014	P107-110
土橋浩章	難治性症例に対する新たな治療法	尾崎承一, 榎野博史, 松尾清一	ANCA 関連血管炎の診療 ガイドライン	ANCA 関連血管炎のわが国における治療法の確立のための多施設共同前向き臨床研究班, 難性血管炎に関する調査研究班, 進行性腎障害に関する調査研究班	川崎, 岡山, 名古屋	2011	P73-76
堀田哲也	アミロイドーシス	山口徹、北原光男	今日の治療指針 私はこう治療している 2015年	医学書院	東京	2015	720
堀田哲也	血管炎症候群	医療情報科学研究所	イヤートップ TOPICS 2015-2016	メディックメディア	東京	2015	232-234

堀田哲也	リウマチ性疾患に使用される薬剤、治療法「6. シクロホスファミド」	日本リウマチ財団教育研修委員会、日本リウマチ学会生涯教育委員会	リウマチ学病学テキスト改訂第2版	診断と治療社	東京	2016	511
堀田哲也	リウマチ性疾患に使用される薬剤、治療法「7. その他の免疫抑制剤」	日本リウマチ財団教育研修委員会、日本リウマチ学会生涯教育委員会	リウマチ学病学テキスト改訂第2版	診断と治療社	東京	2016	512-513
堀田哲也	血球貪食症候群の早期診断と治療	山岡邦弘、五野貴久、三森経世、桑名正隆	リウマチ・膠原病ハイグレード リウマチ・膠原病の合併症や諸問題を解く	文光堂	東京	2016	347-359
本間 栄	胸膜炎	福井次矢、高木誠、小室一成 編	2015 今日の治療指針	医学書院	東京	2015	p342-343
本間 栄	特発性間質性肺炎.	泉孝英 編	ガイドライン外来診療 2015	日経メディカル開発	東京	2015	p442-446
杉野 圭史、本間 栄	特発性肺線維症. EBM を活かす	高橋和久、児玉裕三 編	呼吸器診療	メジカルビュー	東京	2015	p276-285
本間 栄		日本呼吸器学会 編	呼吸器専門医テキスト	南江堂	東京	2015	
杉野圭史、本間 栄	Dual Energy CT の気腫合併肺線維症への応用.	杉山幸比古、近藤 丘、中西洋一、奥村明之進、高橋弘毅、一ノ瀬正和、吉野一郎、本間栄、弦間昭彦、池田徳彦、須田隆文、伊達洋至、永安 武、寺田弘司 編	先端医療シリーズ 46 呼吸器疾患診療の最先端	寺田国際事務所/先端医療技術研究所	東京	2015	97-104

本間 栄、杉野 圭史、村松陽子、坂本晋	特発性肺線維症と酸化ストレス.	杉山幸比古、近藤 丘、中西洋一、奥村明之進、高橋弘毅、一ノ瀬正和、吉野一郎、本間栄、弦間昭彦、池田徳彦、須田隆文、伊達洋至、永安 武、寺田弘司 編	先端医療シリーズ 46 呼吸器疾患診療の最先端	寺田国際事務所/先端医療技術研究所	東京	2015	p145-149
杉野 圭史、本間 栄	Stevens-Johnson 症候群発症後に高度の閉塞性換気障害を認めた 27 歳女性	永井厚志編	New 専門医を目指すケース・メソッド・アプローチ 第 3 版 呼吸器疾患	日本医事新報社	大阪	2015	p251-257
杉野 圭史、本間 晋	特発性肺線維症との概念・定義. 特発性肺線維症とその周辺	吾妻安良太 企	診断と治療の ABC	最新医学社	東京	2015	p14-22
坂本 晋、本間 晋	認定基準の変更. 特発性肺線維症とその周辺	吾妻安良太 企	診断と治療の ABC	最新医学社	東京	2015	p249-254.
石津明洋.	2. 血管	小田義直, 坂元亨宇, 深山正久, 松野吉宏, 森永正二郎, 森谷卓也	組織病理アトラス(第 6 版)	文光堂	東京	2015	543
石津明洋.	E. 血管炎 6a. ANCA 関連血管炎—総論	日本リウマチ財団 教育研修委員会, 日本リウマチ学会 生教育委員会	リウマチ病学テキスト(改訂第 2 版)	診断と治療社	東京	2016	576
川上民裕	Henoch-Schönlein 紫斑(IgA 血管炎)	渡辺晋一・古川福実	皮膚疾患最新の治療 2015-2016	南江堂	東京	2015	pp63-64

川上民裕	皮膚動脈炎(旧名 皮膚型結節性多発動脈炎)(壊死性血管炎が皮膚に起こった場合)	永井良三・福井次矢・木村健二郎・上村直実・桑島巖・今井靖・嶋田元・宮地良樹	今日の臨床サポート	エルゼビア・ジャパン	東京	2015	ウェブサイト: http://clinicalsup.jp/jpoc/
川上民裕	小児の抗リン脂質抗体症候群	横関博雄・片山一朗	幼小児によくみられる皮膚疾患アトラス 鑑別と治療のポイント	医薬ジャーナル社	大阪	2015	pp118-119
川上民裕	リベド血管症にワルファリンは有効か?	宮地良樹	EBM 皮膚疾患の治療 up-to-date	中外医学社	東京	2015	pp85-89
川上民裕	ガイドラインを読むシリーズ 皮膚疾患ガイドライン	宮地良樹	ガイドラインを読むシリーズ 皮膚疾患ガイドライン	メディカルレビュー社	東京	2015	pp60-69
川上民裕	ベーチェット病の皮膚病変	外園千恵・加藤則人	皮膚科・眼科の連携マニュアル 目のまわりの病気とその治療	学研メディカル秀潤社	東京	2015	pp136-139
川上民裕	凍瘡	福井次矢・高木誠・小室一成	今日の治療指針 2016 年版	今日の治療指針 2016	東京	2016	pp1243-1244
小林茂人	強直性脊椎炎	金澤一郎、永井良三	今日の診断指針	医学書院	東京	2015	1310-1311
小林茂人、木田一成	骨・関節疾患に対する扁桃摘出術の有効性は?	池田勝久、武田憲昭、香取幸夫、原淵保明、丹生健一	EBM 耳鼻咽喉科・頭頸部 外科の治療 2015-2016	中外医学社	東京	2015	368-372
濱野慶朋、佐々木裕子	第4章 症例から学ぶ輸液療法とその管理の実際 高齢者の輸液療法と注意点	内田敏也	Medical Practice32 巻臨増刊 病態生理と症例から学ぶ輸液ガイド	文光堂	東京	2015	340-343
鈴木勝也、竹内勤	血管炎症候群	金澤 一郎、永井良三	今日の診断指針第7版	医学書院	東京	2015	1304-1310

藤井 隆夫	血管炎-総論	公益財団法人 日本リウマチ財 団 教育研修委 員会、一般社団 法人 日本リウ マチ学会 生涯 教育委員会	リウマチ病学テキスト 改 訂 第2版	診断と治療 社	東京	2016	234-241
藤井 隆夫	混合性結合組織病	松本 功、保 田 晋助、三 森 経世、桑 タ 工隆	リウマチ・膠原病診療ハイ グレード 分子標的/Bio 時 代のリウマチ・膠原病治療 ストラテジー	文光堂	東京	2015	260-270
要 伸也	急速進行性腎炎症候群に対する ステロイド療法のエビデンスは？	川合真一	ステロイドのエビデンス	羊土社	東京	2015	133-135
高崎芳成	全身性エリテマトーデス.	泉孝英編集主 幹	ガイドライン外来診療 2015.	日経メディカ ル開発	東京	2015	506-510
高崎芳成	抗 RNA 抗体(抗 U1-RNP 抗体)、 抗 Sm 抗体.	三橋知明, 和田 攻, 矢崎義雄, 小池和彦, 小 室 一成編	臨床検査ガイド.	文光堂	東京	2015	747-749
高崎芳成	抗核抗体と臨床の関連性.		コンピューター支援型免疫 蛍光顕微鏡システムむよ る FANA 画像テキスト	コスミックコー ポレーション	東京	2015	9-18
高崎芳成	関節リウマチの診断、疾患活動性 の評価、新しい治療目標.	田中良哉編	関節リウマチと骨粗鬆症・ 内科医が実践すべき診断 と治療.	医薬ジャーナ ル	大阪・東京	2015	36-43
高崎芳成	Behcet 病.	金澤一郎、永井 良三総編集	WS	医学書院	S	2015	1314-1317
駒形嘉紀	ANCA 関連血管炎—多発血管炎性 肉芽腫症(Wegener 肉芽腫症)	日本リウマチ財 団教育研修委 員会・日本リウ マチ学会生涯 教育委員会編	リウマチ病学テキスト改訂 第2版	診断と治療 社	東京	2016	269-272

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
有村義宏	【急速進行性糸球体腎炎 Update】 急速進行性腎炎症候群を呈した ANCA 関連血管 炎のガイドラインと最新治療(解説/特集).	医学のあゆみ	257(2)	159-164	2016
軽部美穂、有村義宏	リウマチ性疾患の難治性病態の治療(第5回), 治 療抵抗性血管炎(解説)	分子リウマチ治療	9(2)	93-98	2016
有村義宏	【よくわかる中枢神経系血管炎】 誘因の明らか な続発性血管炎 薬剤誘発性血管炎(解説/特集)	Clinical Neuroscience	34(5)	575-577	2016
Kawasaki A, Hasebe N, Hidaka M, Hirano F, Sada KE, Kobayashi S, Yamada H, Furukawa H, Yamagata K, Sumida T, Miyasaka N, Tohma S, Ozaki S, Matsuo S, Hashimoto H, Makino H, Arimura Y, Harigai M, Tsuchiya N..	Protective Role of HLA-DRB1*13:02 against Microscopic Polyangiitis and MPO-ANCA-Positive Vasculitides in a Japanese Populationm, A Case-Control Study.	PLoS One.	11(5)	e015439 3	2016
川嶋聡子、有村義宏	【腎と透析診療指針 2016】 (第11章)全身疾患 に伴う腎疾患 血管炎に伴う腎障害 ANCA 関連 腎症(解説/特集)	腎と透析	80	361-365	2016

清水英樹、駒形嘉紀、	【高齢者におけるリウマチ性疾患と膠原病】 ANCA 関連血管炎の病態(解説/特集)	Geriatric Medicine	54(9)	887-892	2016
Sada KE, Harigai M, Amano K, Atsumi T, Fujimoto S, Yuzawa Y, Takasaki Y, Banno S, Sugihara T, Kobayashi M, Usui J, Yamagata K, Homma S, Dobashi H, Tsuboi N, Ishizu A, Sugiyama H, Okada Y, Arimura Y, Matsuo S, Makino H; for Research Committee of Intractable Vasculitis Syndrome and Research Committee of Intractable Renal Disease of the Ministry of Health, Labour, and Welfare of Japan. :	Comparison of severity classification in Japanese patients with antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis in a nationwide, prospective, inception cohort study.	Mod Rheumatol.	26(5)	730-737	2016
有村義宏、川嶋聡子、池谷紀子	【免疫疾患の trends & topics 2017】 AAV B 細胞標的治療の効果は?(解説/特集)	Mebio	33(10)	52-61	2016

Watanabe-Imai K, Harigai M, Sada KE, Yamamura M, Fujii T, Dobashi H, Amano K, Ito S, Homma S, Kumagai S, Banno S, Arimura Y, Makino H	Research Committee on Intractable Vasculitides, the Ministry of Health, Labor and Welfare of Japan.: Clinical characteristics of and risk factors for serious infection in Japanese patients within six months of remission induction therapy for antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis registered in a nationwide, prospective, inception cohort study.	Mod Rheumatol.	10	p 1-6	2016
有村義宏	【厚生労働省指定難病の診断基準と重症度】 血管炎症候群(解説/特集),	分子リウマチ治療	10(1)	16-23	2017
Furuta S, Chaudhry AN, Arimura Y, Dobashi H, Fujimoto S, Homma S, Rasmussen N, Jayne DR	Comparison of the Phenotype and Outcome of Granulomatosis with Polyangiitis Between UK and Japanese Cohorts	J Rheumatol	44(2)	216-222	2016
Kawakami T, Okano T, Takeuchi S, Soma Y, Ito F, Ishizu A, Arimura Y, Suzuki K	Elevated moesin mRNA level in skin tissue of patients with polyarteritis nodosa based on real time RT-PCR	J Dermatol Sci		[Epub ahead of print]	2017

Ohigashi H, Tamura N, Harigai M, Maejima Y, Ashikaga T, Isobe M	Effects of Immunosuppressive and Biological Agents on Refractory Takayasu Arteritis Patients Unresponsive to Glucocorticoid Treatment.	J Cardiol.			In press.
Yoshifuji H	Biomarkers and Autoantibodies of Interstitial Lung Disease with Idiopathic Inflammatory Myopathies.	Clin Med Insights Circ Respir Pulm Med.	9(Suppl 1)	141-6	2016
Amiya E, Morita H, Hatano M, Nitta D, Hosoya Y, Maki H, Motozawa Y, Sato N, Ishiura H, Numakura S, Shintani Y, Kinugawa K, Takeda N, Shimizu J, Tsuji S, Komuro I	Fukutin gene mutations that cause left ventricular noncompaction.	Int J Cardiol.	222	727-9	2016
Kitagori K, Yoshifuji H, Oku T, Sasaki C, Miyata H, Mori KP, Nakajima T, Ohmura K, Kawabata D, Yukawa N, Imura Y, Murakami K, Nakashima R, Usui T, Fujii T, Sakai K, Yanagita M, Hirayama Y, Mimori T.	Cleaved Form of Osteopontin in Urine as a Clinical Marker of Lupus Nephritis.	PLoS One	11(12)	e016714 1	2016

Yasui T, Masaki T, Arita Y, Ishibashi T, Inagaki T, Okazawa M, Oka T, Shioyama W, Yamauchi-Takahara K, Komuro I, Sakata Y, Nakaoka Y.	Molecular Characterization of Striated Muscle-specific Gab1 Isoform as a Critical Signal Transducer for Neuregulin-1/ErbB Signaling in Cardiomyocytes.	PLoS One	11(11)	e0166710	2016
Terao C, Yoshifuji H, Yamano Y, Kojima H, Yurugi K, Miura Y, Maekawa T, Handa H, Ohmura K, Saji H, Mimori T, Matsuda F.	Genotyping of relapsing polychondritis identified novel susceptibility HLA alleles and distinct genetic characteristics from other rheumatic diseases.	Rheumatology (Oxford)	55(9)	1686-92	2016
Han S, Lee SJ, Kim KE, Lee HS, Oh N, Park I, Ko E, Oh SJ, Lee YS, Kim D, Lee S, Lee DH, Lee KH, Chae SY, Lee JH, Kim SJ, Kim HC, Kim S, Kim SH, Kim C, Nakaoka Y, He Y, Augustin HG, Hu J, Song PH, Kim YI, Kim P, Kim I, Koh GY.	Amelioration of sepsis by TIE2 activation-induced vascular protection.	Sci Transl Med.	8(335)	335ra55	2016
Furuta K, Yoshida Y, Ogura S, Kurahashi T, Kizu T, Maeda S, Egawa M, Chatani N, Nishida K, Nakaoka Y, Kiso S, Kamada Y, Takehara T.	Gab1 adaptor protein acts as a gatekeeper to balance hepatocyte death and proliferation during acetaminophen-induced liver injury in mice.	Hepatology.	63(4)	1340-55	2016

Yamasaki Y, Satoh M, Mizushima M, Okazaki T, Nagafuchi H, Ooka S, Shibata T, Nakano H, Ogawa H, Azuma K, Maeda A, Tonooka K, Ito H, Takakuwa Y, Inoue M, Mitomi H, Kiyokawa T, Tsuchida K, Matsushita H, Mikage H, Murakami Y, Chan J. Y, Ozaki S, Yamada H	Clinical subsets associated with different anti-aminoacyl transfer RNA synthetase antibodies and their association with coexisting anti-Ro52.	Mod Rheumatol.	26(3)	403-9	2016
Matsumura T, Amiya E, Tamura N, Maejima Y, Komuro I, Isobe M	A novel susceptibility locus for Takayasu arteritis in the IL12B region can be a genetic marker of disease severity.	Heart Vessels.	31(6)	1016-9	2016
Adnan E, Matsumoto T, Ishizaki J, Onishi S, Suemori K, Yasukawa M, Hasegawa H	Human tolerogenic dendritic cells generated with protein kinase C inhibitor are optimal for functional regulatory T cell induction - A comparative study.	Clin Immunol.	173	96-108	2016

Kato Y, Terashima M, Ohigashi H, Tezuka D, Ashikaga T, Hirao K, Isobe M	Vessel Wall Inflammation of Takayasu Arteritis Detected by Contrast-enhanced Magnetic Resonance Imaging: Association with Disease Distribution and Activity.	Plos One	10(12)	e014585 5	2015
Terao C, Matsumura T, Yoshifuji H, Kirino Y, Maejima Y, Nakaoka Y, Takahashi M, Amiya E, Tamura N, Nakajima T, Origuchi T, Horita T, Matsukura M, Kochi Y, Ogimoto A, Yamamoto M, Takahashi H, Nakayamada S, Saito K, Wada Y, Narita I, Kawaguchi Y, Yamanaka H, Ohmura K, Atsumi T, Tanemoto K, Miyata T, Kuwana M, Komuro I, Tabara Y, Ueda A, Isobe M, Mimori T, Matsuda F	Takayasu arteritis and ulcerative colitis -high concurrence ratio and genetic overlap.	Arthritis Rheum.	67(8)	2226-22 32	2015
磯部光章	高安動脈炎の新しい診断法と治療法. 学会トピックス第 63 回日本心臓病学会学術集会.	Medical Asahi	1月号	27-29	2016
吉藤 元	慢性炎症の病態：高安動脈炎.	別冊 BIO Clinica	5(3)	70-75	2016
長谷川均	巨細胞性動脈炎の治療の up date.	Geriatric Medicine	54(9)	899-903	2016

中岡良和	大型血管炎に対する薬物療法.	医学のあゆみ	259(14)	1336-13 42	2016
中岡良和	IL-6 抗体医薬による大型血管炎の治療.	循環器内科	80(4)	296-303	2016
中岡良和	大型血管炎に対する抗 Interleukin-6 受容体抗体療法.	最新医学	71(11月号 増刊号)	2334-23 43	2016
中岡良和	炎症性シグナルによる肺高血圧症の病態制御と治療.	血管医学	17(3)	249-255	2016
中岡良和	高安動脈炎.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 (増刊号・耳鼻咽喉科処方マニュアル)	88(5)	187-189	2016
中岡良和	高安動脈炎に対する IL-6 阻害療法.	医学のあゆみ	257	319-321	2016
中岡良和	Interleukin-6 による肺高血圧症の病態形成機構.	医学のあゆみ	257	248-249	2016
中岡良和	肺高血圧症におけるサイトカインネットワーク.	分子呼吸器病	20(1)	73-76	2016
手塚大介、磯部光章	高安動脈炎	Heart View	11月増刊号	70-73	2015
吉藤 元	慢性炎症の病態：高安動脈炎	別冊 BIO Clinica	5(3)	70-5	
吉藤 元	高安動脈炎の発症機序における HLA とサイトカインの寄与	医学のあゆみ	258 (10)	983-9	

Yoshifuji H	Biomarkers and Autoantibodies of Interstitial Lung Disease with Idiopathic Inflammatory Myopathies.	Clin Med Insights Circ Respir Pulm Med	9(Suppl 1)	141-6	2016
Terao C, Yoshifuji H, Yamano Y, Kojima H, Yurugi K, Miura Y, Maekawa T, Handa H, Ohmura K, Saji H, Mimori T, Matsuda F	Genotyping of relapsing polychondritis identified novel susceptibility HLA alleles and distinct genetic characteristics from other rheumatic diseases.	Rheumatology (Oxford)	55(9)	1686-92	2016
Mori M, Hashimoto M, Matsuo T, Fujii T, Furu M, Ito H, Yoshitomi H, Hirose J, Ito Y, Akizuki S, Nakashima R, Imura Y, Yukawa N, Yoshifuji H, Ohmura K, Mimori T	Cell-contact-dependent activation of CD4+ T cells by adhesion molecules on synovial fibroblasts.	Mod Rheumatol	pub ahead of print		2016
Kitagori K, Yoshifuji H, Oku T, Sasaki C, Miyata H, Mori KP, Nakajima T, Ohmura K, Kawabata D, Yukawa N, Imura Y, Murakami K, Nakashima R, Usui T, Fujii T, Sakai K, Yanagita M, Hirayama Y, Mimori T	Cleaved Form of Osteopontin in Urine as a Clinical Marker of Lupus Nephritis.	PLoS One	11(12)	e0167141	2016
Hosono Y, Nakashima R, Serada S, Murakami K, Imura Y, Yoshifuji H, Ohmura K, Naka T, Mimori T	Splicing factor proline/glutamine-rich is a novel autoantigen of dermatomyositis and associated with anti-melanoma	J Autoimmun	pub ahead of print		2016

	differentiation-associated gene 5 antibody				
Hisamatsu K, Niwa M, Kobayashi K, Miyazaki T, Hirata A, Hatano Y, et al.	Galectin-3 expression in hippocampal CA2 following transient forebrain ischemia and its inhibition by hypothermia or antiapoptotic agents.	Neuroreport	27(5)	311-317	2016
Ozeki M, Hori T, Kanda K, Kawamoto N, Ibuka T, Miyazaki T, et al.	Everolimus for Primary Intestinal Lymphangiectasia With Protein-Losing Enteropathy.	Pediatrics.	137(3)	1-5	2016
宮崎龍彦	血管炎症候群の形態学的診断 tips	診断病理	33(1)	19-37	2016
宮崎龍彦	「特集/ANCA 関連血管炎-最近の話題-」に寄せる 膠原病疾患モデル組換え近交系マウスを用いた 膠原病治療法の開発.	アレルギーの臨床	36(5)	465-469	2016
Fukuoka K, Miyamoto A, Ozawa Y, Ikegaya N, Maesono T, Komagata Y, Kaname S, Arimura Y.	Adult-onset Still's disease-like manifestation accompanied by the cancer recurrence after long-term resting state.	Mod Rheumatol.	9-Dec	1	2016
Furuta S, Chaudhry AN, Arimura Y, Dobashi H, Fujimoto S, Homma S, Rasmussen N, Jayne DR.	Comparison of the Phenotype and Outcome of Granulomatosis with Polyangiitis Between UK and Japanese Cohorts.	J Rheumatol.	pub ahead of print		2016
Michiko Morishita, Haruki Watanabe, Minglu Yan, Sonia Zeggar, Sumie	Azathioprine Intolerance in Japanese Patients with Antineutrophil Cytoplasmic	Internal Medicine	In press		2016

Hiramatsu, Keiji Ohashi, Yoshia Miyawaki, Eri Katsuyama, Takayuki Katsuyama, Mariko Takano Narazaki, Noriko Toyota Tatebe, Katsue Sunahori Watanabe, Tomoko Kawabata, Ken-Ei Sada, Jun Wada.	Antibody-associated Vasculitis.				
Watanabe-Imai K, Harigai M, Sada KE, Yamamura M, Fujii T, Dobashi H, Amano K, Ito S, Homma S, Kumagai S, Banno S, Arimura Y, Makino H; Research Committee on Intractable Vasculitides, the Ministry of Health, Labor and Welfare of Japan.	Clinical characteristics of and risk factors for serious infection in Japanese patients within six months of remission induction therapy for antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis registered in a nationwide, prospective, inception cohort study.	Mod Rheumatol.	10	1-6	2016
Kawasaki A, Hasebe N, Hidaka M, Hirano F, Sada KE, Kobayashi S, Yamada H, Furukawa H, Yamagata K, Sumida T, Miyasaka N, Tohma S, Ozaki S, Matsuo S, Hashimoto H, Makino H, Arimura Y, Harigai M, Tsuchiya N.	Protective Role of HLA-DRB1*13:02 against Microscopic Polyangiitis and MPO-ANCA-Positive Vasculitides in a Japanese Population: A Case-Control Study.	PLoS One.	11	published online	2016

<p>Sada KE, Harigai M, Amano K, Atsumi T, Fujimoto S, Yuzawa Y, Takasaki Y, Banno S, Sugihara T, Kobayashi M, Usui J, Yamagata K, Homma S, Dobashi H, Tsuboi N, Ishizu A, Sugiyama H, Okada Y, Arimura Y, Matsuo S, Makino H; for Research Committee of Intractable Vasculitis Syndrome and Research Committee of Intractable Renal Disease of the Ministry of Health, Labour, and Welfare of Japan.</p>	<p>Comparison of severity classification in Japanese patients with antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis in a nationwide, prospective, inception cohort study.</p>	<p>Mod Rheumatol.</p>	<p>11</p>	<p>1-8</p>	<p>2016</p>
<p>Satoko Matsuo, Keigo Hayashi, Eisaku Morimoto, Ayako Kato, Ken-Ei Sada, Haruki Watanabe, Mariko Takano-Narazaki, Katsue Sunahori-Watanabe, Tomoko Kawabata, Jun Wada.</p>	<p>The Successful Treatment of Refractory Polyarteritis Nodosa by Using Infliximab.</p>	<p>Internal Medicine</p>	<p>In press</p>		<p>2016</p>
<p>Yoshia Miyawaki, Takayuki Katsuyama, Ken-Ei Sada, Kohei Taniguchi, Yuki Kakio, Jun Wada.</p>	<p>Development of intracerebral hemorrhage in the short-term clinical course of a patient with microscopic polyangiitis without neurological symptoms at diagnosis: an</p>	<p>CEN Case Reports.</p>		<p>published online</p>	<p>2016</p>

	autopsy case.				
宮脇 義亜, 佐田 憲映	【ANCA 関連血管炎-最近の話題-】 新規治療	アレルギーの臨床	36 巻 5 号	442-445	2016
杉山 斉, 森永 裕士, 佐田 憲映, 臼井 丈一, 横山 仁, 山縣 邦弘	【急速進行性糸球体腎炎 Update】 わが国における腎臓病レジストリーと RPGN のコホート研究	医学のあゆみ	257 巻 2 号	136-140	2016
大橋 敬司, 佐田 憲映	他領域からのトピックス ANCA 関連血管炎の診療ガイドライン 2014 年改訂版	日本耳鼻咽喉科学会会報	119 巻 2 号	81-86	2016
宮脇 義亜, 佐田 憲映, 槇野 博史	新規指定難病としての自己免疫関連腎炎の病態	臨床免疫・アレルギー科	65 巻 1 号	78-82	2016
建部智子, 佐田憲映	特集リウマチ性疾患に使用する免疫抑制剤の使い方: シクロホスファミド	リウマチ科	56 巻 3 号	238-243	2016
渡辺晴樹, 佐田憲映	【自己免疫疾患-Preclinical State から発症・早期診断まで】 ANCA 関連血管炎	医学のあゆみ	258 巻 10 号	951-956	2016
Kobayashi S, Yoshinari T.	A multicenter, open-label, long-term study of three-year infliximab administration in Japanese patients with ankylosing spondylitis.	Mod Rheumatol	Jan;27(1)	142-149	2017

Harabuchi Y, Kishibe K, Tateyama K, Morita Y, Yoshida N, Kunimoto Y, Matsui T, Sakaguchi H, Okada M, Watanabe T, Inagaki A, Kobayashi S, Iino Y, Murakami S, Takahashi H, Tono T.	Clinical features and treatment outcomes of otitis media with antineutrophil cytoplasmic antibody (ANCA)-associated vasculitis (OMAAV): A retrospective analysis of 235 patients from a nationwide survey in Japan.	Mod Rheumatol	Jan;27(1)	87-94.	2017
Kawasaki A, Hasebe N, Hidaka M, Hirano F, Sada KE, Kobayashi S, Yamada H, Furukawa H, Yamagata K, Sumida T, Miyasaka N, Tohma S, Ozaki S, Matsuo S, Hashimoto H, Makino H, Arimura Y, Harigai M, Tsuchiya N.	Protective Role of HLA-DRB1*13:02 against Microscopic Polyangiitis and MPO-ANCA-Positive Vasculitides in a Japanese Population: A Case-Control Study.	PLoS One	May 11;11(5)	e015439 3	2016
Nishizaki Y, Yamagami S, Inoue H, Uehara Y, Kobayashi S, Daida H	Reactive Arthritis Caused by Urinary Tract Infection.	Intern Med	55(9)	1195-8	2016
Hasegawa-Tanaka T, Machida S, Kobayashi S, Naito H	Changes in blood glucose and lipid metabolic parameters after high-carbohydrate diet ingestion in athletes with insulin resistance	Juntendo Medical Journal	62(4)	323-329	2016
小林茂人、木田一成	疾患からみた細胞表面機能分子(第10回) 強直性脊椎炎における IL-23 受容体 付着部に存在する細胞は何か?	分子リウマチ治療	9(4)	195-20	2016

小林茂人、木田一成	【体軸性脊椎関節炎(axial SpA)に関する新たな知見】 Axial SpA の早期診断 non-radiographic axial SpA(nr-axSpA)と undifferentiated SpA (uSpA)	リウマチ科	56(4)	349-35	2016
小林茂人、木田一成	【脊椎関節炎の病態と治療】 強直性脊椎炎に対する生物学的製剤治療 わが国の治験成績を中心に	炎症と免疫	24(5)	413-416	2016
Watanabe-Imai K, Harigai M, Sada KE, Yamamura M, Fujii T, Dobashi H, Amano K, Ito S, Homma S, Kumagai S, Banno S, Arimura Y, Makino H; Research Committee on Intractable Vasculitides, the Ministry of Health, Labor and Welfare of Japan.	Clinical characteristics of and risk factors for serious infection in Japanese patients within six months of remission induction therapy for antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis registered in a nationwide, prospective, inception cohort study.	Mod Rheumatol.	Epub ahead of print] PubMed PMID: 27538706.	[Epub ahead of print] PubMed PMID: 27538706.	2016
Ohigashi H, Tamura N, Ebana Y, Harigai M, Maejima Y, Ashikaga T, Isobe M.	Effects of immunosuppressive and biological agents on refractory Takayasu arteritis patients unresponsive to glucocorticoid treatment.	J Cardiol.	Epub ahead of print] PubMed PMID: 27567177.	[Epub ahead of print] PubMed PMID: 27567177.	2016

<p>Kawasaki A, Hasebe N, Hidaka M, Hirano F, Sada KE, Kobayashi S, Yamada H, Furukawa H, Yamagata K, Sumida T, Miyasaka N, Tohma S, Ozaki S, Matsuo S, Hashimoto H, Makino H, Arimura Y, Harigai M, Tsuchiya N.</p>	<p>Protective Role of HLA-DRB1*13:02 against Microscopic Polyangiitis and MPO-ANCA-Positive Vasculitides in a Japanese Population: A Case-Control Study.</p>	<p>PLoS One</p>	<p>11 (5)</p>	<p>e015439 3.</p>	<p>2016</p>
<p>Sada KE, Harigai M, Amano K, Atsumi T, Fujimoto S, Yuzawa Y, Takasaki Y, Banno S, Sugihara T, Kobayashi M, Usui J, Yamagata K, Homma S, Dobashi H, Tsuboi N, Ishizu A, Sugiyama H, Okada Y, Arimura Y, Matsuo S, Makino H; for Research Committee of Intractable Vasculitis Syndrome and Research Committee of Intractable Renal Disease of the Ministry of Health, Labour, and Welfare of Japan.</p>	<p>Comparison of severity classification in Japanese patients with antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis in a nationwide, prospective, inception cohort study.</p>	<p>Mod Rheumatol.</p>	<p>Epub ahead of print]</p>	<p>[Epub ahead of print]</p>	<p>2016</p>
<p>Nakamura Y, Suzuki R, Mizuno T, Abe K, Chiba S, Horii Y, Tsuboi J, Ito S, Obara W, Tanita T, Kanno H, Yamauchi K</p>	<p>Therapeutic implication of genetic variants of IL13 and STAT4 in airway remodelling with bronchial asthma.</p>	<p>Clinical and Experimental Allergy</p>	<p>46 (9)</p>	<p>1152-1161</p>	<p>2016</p>

Yamamoto Y, Offord CP, Kimura G, Kuribayashi S, Takeda H, Tsuchiya S, Shimojo H, Kanno H, Bozic I, Nowak M, Bajzer Z, Dingli D.	Tumor and immune cell dynamics explain the PSA bounce after prostate cancer brachytherapy.	British Journal of Cancer	115(2)	195-202	2016
Nakazawa D, Shida H, Kusunoki Y, Miyoshi A, Nishio S, Tomaru U, Atsumi T, Ishizu A.	The responses of macrophages in interaction with neutrophils that undergo NETosis.	J Autoimmun	67	19-28	2016
Kawakami T, Yoon SY, Takeuchi S, Soma Y, Kuroha S, Yoshida S, Shida H, Nakazawa D, Tomaru U, Ishizu A.	Novel monoclonal antibodies that recognize both rat and mouse phosphatidylserine/prothrombin complexes.	Mod Rheumatol	26(3)	470-471	2016
Miyoshi A, Yamada M, Shida H, Nakazawa D, Kusunoki Y, Nakamura A, Miyoshi H, Tomaru U, Atsumi T, Ishizu A.	Circulating neutrophil extracellular trap levels in well-controlled type 2 diabetes and pathway involved in their formation induced by high-dose glucose.	Pathobiology	83(5)	243-251	2016
Masuda S, Nakazawa D, Shida H, Miyoshi A, Kusunoki Y, Tomaru U, Ishizu A.	NETosis markers: Quest for specific, objective, and quantitative markers.	Clin Chim Acta	459	89-93	2016
Kusunoki Y, Nakazawa D, Shida H, Hattanda F, Miyoshi A, Masuda S, Nishio S, Tomaru U, Atsumi T, Ishizu A.	Peptidylarginine deiminase inhibitor suppresses neutrophil extracellular trap formation and MPO-ANCA production.	Front Immunol	7	227	2016

Matsuda Y, Hamayasu H, Seki A, Nonaka K, Wang T, Matsumoto T, Hamano Y, Sumikura H, Kumasaka T, Murayama S, Ishizu A, Shimizu A, Sugihara T, Arai T.	Presence of citrullinated histone H3-positive neutrophils in microscopic polyangiitis from the early phase: An autopsy proven case.	Pathol Int	66(8)	466-471	2016
Sada KE, Harigai M, Amano K, Atsumi T, Fujimoto S, Yuzawa Y, Takasaki Y, Banno S, Sugihara T, Kobayashi M, Usui J, Yamagata K, Homma S, Dobasi H, Tsuboi N, Ishizu A, Sugiyama H, Okada Y, Arimura Y, Matsuo S, Makino H, for Research Committee of Intractable Vasculitis Syndrome and Research Committee of Intractable Renal Disease of the Ministry of Health, Labour, and Welfare of Japan.	Comparison of severity classification in Japanese patients with antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis in a nationwide, prospective, inception cohort study.	Mod Rheumatol	26(5)	730-737	2016
Saito K, Abe A, Kamishima T, Ishikawa H, Wakaki K, Ishizu A.	Relationship between power doppler grade and the pathological blood vessel features in clinically advanced rheumatoid arthritis.	Rheumatol Int	36(12)	1689-1690	2016

Shida H, Nakazawa D, Tateyama Y, Miyoshi A, Kusunoki Y, Hattanda F, Masuda S, Tomaru U, Kawakami T, Atsumi T, Ishizu A.	The presence of anti-lactoferrin antibodies in a subgroup of eosinophilic granulomatosis with polyangiitis patients and their possible contribution to enhancement of neutrophil extracellular trap formation.	Front Immunol	7	636	2016
Nishioka Y, Yamaguchi M, Kawakami A, Munehiro M, Masuda S, Tomaru U, Ishizu A.	Type II natural killer T cells that recognize sterol carrier protein 2 are implicated in vascular inflammation in the rat model of systemic connective tissue diseases.	Am J Pathol	187(1)	176-186	2017
Okano T, Takeuchi S, Soma Y, Suzuki K, Tsukita S, Ishizu A, Suzuki K, Kawakami T.	Presence of anti-phosphatidylserine-prothrombin complex antibodies and anti-moesin antibodies in patients with polyarteritis nodosa.	J Dermatol	44(1)	18-22	2017
Yamada M, Kawakami T, Takashima K, Nishioka Y, Nishibata Y, Masuda S, Yoshida S, Tomaru U, Ishizu A.	Establishment of a rat model of thrombosis induced by intravenous injection of anti-phosphatidylserine/prothrombin complex antibody.	Rheumatology	in press		
石津明洋.	[医学用語解説] 好中球細胞外トラップ (NETs).	炎症と免疫	24(2)	163-165	2016

石津明洋.	特集 2: NETs の臨床における意義 NETs と血管炎.	日本血栓止血学会誌	27(1)	42-48	2016
石津明洋.	AYUMI 「自己抗体産生機序の新展開」 抗好中球細胞質抗体と好中球細胞外トラップ.	医学のあゆみ	256(12)	1209-1213	2016
益田紗季子, 石津明洋.	特集/ANCA 関連血管炎—最近の話題— 好中球細胞外トラップ.	アレルギーの臨床	36(5)	419-423	2016
石津明洋.	ANCA 関連血管炎の病態メカニズム.	日本臨床免疫学会会誌	39(6)	491-496	2016
石津明洋.	ノロウイルス胃腸炎を契機に発症した上腸間膜静脈血栓症.	Modern Physician	37(1)	96	2017
Kawakami T, Shimosaka R, Takeuchi S, Soma Y.	Importance of appropriate location and frequency of biopsy for cutaneous manifestations in eosinophilic granulomatosis with polyangiitis.	Int J Dermatol	55	1388-90	2016
Fujimoto M, Asano Y, Ishii T, Ogawa F, Kawakami T, Koderu M, Abe M, Isei T, Ito T, Inoue Y, Imafuku S, Irisawa R, Ohtsuka M, Ohtsuka M, Kadono T, Kawaguchi M, Kukino R, Kono T, Sakai K, Takahara M, Tanioka M, Nakanishi T,	Wound/Burn Guidelines Committee. The wound/burn guidelines - 4: Guidelines for the management of skin ulcers associated with connective tissue disease/vasculitis	J Dermatol	43	729-57	2016

Nakamura Y, Hashimoto A, Hasegawa M, Hayashi M, Fujiwara H, Maekawa T, Matsuo K, Madokoro N, Yamasaki O, Yoshino Y, Le Pavoux A, Tachibana T, Ihn H					
Okano T, Takeuchi S, Soma Y, Suzuki K, Tsukita S, Ishizu A, Suzuki K, Kawakami T.	Presence of anti-phosphatidylserine-prothrombin complex antibodies and anti-moesin antibodies in patients with polyarteritis nodosa.	J Dermatol	27	doi: 10.1111 /1346-8 138.134 91.	2016
Arimura Y, Muso E, Fujimoto S, Hasegawa M, Kaname S, Usui J, Ihara T, Kobayashi M, Itabashi M, Kitagawa K, Hirahashi J, Kimura K, Matsuo S.	Evidence-based clinical practice guidelines for rapidly progressive glomerulonephritis 2014.	Clin Exp Nephrol.	20(3)	322-41	2016
Kuroda Y, Asada R, So K, Yonezawa A, Nankaku M, Mukai K, Ito-Ihara T, Tada H, Yamamoto M, Murayama T, Morita S, Tabata Y, Yokode M, Shimizu A, Matsuda S, Akiyama H.	A pilot study of regenerative therapy using controlled release of recombinant human fibroblast growth factor for patients with pre-collapse osteonecrosis of the femoral head.	Int Orthop.	40(8)	1747-54	2016

黒田 隆, 猪原 登志子, 向井 久美, 浅田 隆太, 秋山 治彦, 松田 秀一.	患者まで届いている再生医療 特発性大腿骨頭壊死症に対する bFGF 含有ゼラチンハイドロゲルを用いた低侵襲再生医療.	再生医療.	15(2)	160-166	2016
藤元 昭一, 猪原 登志子.	【ANCA 関連血管炎-最近の話題-】 腎疾患.	アレルギーの臨床.	36(5)	437-441	2016
Sada KE, et al.:	Comparison of severity classification in Japanese patients with antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis in a nationwide, prospective, inception cohort study.	Mod Rheumatol	26	730-737	2016
Sakai R, et al.:	Corticosteroid-free treatment of tocilizumab monotherapy for microscopic polyangiitis: a single-arm, single-center, clinical trial.	Mod Rheumatol	21-Apr	1~8	2016
Watanabe-Imai K, et al.:	Clinical characteristics of and risk factors for serious infection in Japanese patients within six months of remission induction therapy for antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis registered in a nationwide, prospective, inception cohort study.	Mod Rheumatol	10-Oct	1~6	2016

<p>Oka S, Furukawa H, Shimada K, Sugii S, Hashimoto A, Komiya A, Fukui N, Suda A, Tsunoda S, Ito S, Nakamura T, Saisho K, Sano H, Migita K, Nagaoka S, Tsuchiya N, Tohma S.</p>	<p>Association of human leukocyte antigen alleles with chronic lung diseases in rheumatoid arthritis.</p>	<p>Rheumatology</p>	<p>doi:10.1093/rheumatology/kew025</p>		<p>2016</p>
<p>Furukawa H, Oka S, Kawasak A, Shimada K, Sugii S, Matsushita T, Hashimoto A, Komiya A, Fukui N, Kobayashi K, Osada A, Ihata A, Kondo Y, Nagai T, Setoguchi K, Okamoto A, Okamoto A, Chiba N, Suematsu E, Kono H, Katayama M, Hirohata S, Sumida T, Migita K, Hasegawa M, Fujimoto M, Sato S, Nagaoka S, Takehara K, Tohma S, Tsuchiya N.</p>	<p>Human leukocyte antigen and systemic sclerosis in Japanese: The sign of the four independent protective alleles, DRB1*13:02, DRB1*14:06, DQB1*03:01, and DPB1*02:01.</p>	<p>PLoS ONE</p>	<p>11(4)</p>	<p>e0154255</p>	<p>2016</p>
<p>Kawasaki A, Hasebe N, Hidaka M, Hirano F, Sada K-e, Kobayashi S, Yamada H, Furukawa H, Yamagata K, Sumida T, Miyasaka N, Tohma S, Ozaki S, Matsuo S, Hashimoto H, Makino H, Arimura Y, Harigai M, Tsuchiya N.</p>	<p>Protective role of HLA-DRB1*13:02 against microscopic polyangiitis and MPO-ANCA positive vasculitides in a Japanese population: a case-control study.</p>	<p>PLoS ONE</p>	<p>11(5)</p>	<p>e0154393</p>	<p>2016</p>

Hachiya Y, Kawasaki A*, Oka S, Kondo Y, Ito S, Matsumoto, Kusaoi M, Amano H, Suda A, Setoguchi K, Nagai T, Shimada K, Sugii S, Okamoto A, Chiba N, Suematsu E, Ohno S, Katayama M, Kono H, Hirohata S, Takasaki Y, Hashimoto H, Sumida T, Nagaoka S, Tohma S, Furukawa H, Tsuchiya N.	Association of HLA-G 3' untranslated region polymorphisms with systemic lupus erythematosus in a Japanese population: a case-control association study.	PLoS ONE	11(6):	e015806 5.	2016
Dang TN, Naka I, Sa-Ngasang A, Anantapreecha S, Wichukchinda N, Sawanpanyalert P, Patarapotikul J, Tsuchiya N, Ohashi J.	Association of BAK1 single nucleotide polymorphism with a risk for dengue hemorrhagic fever.	BMC Med Genet	17	43	2016
Higuchi T, Oka S, Furukawa H, Nakamura M, Komori A, Abiru S, Nagaoka S, Hashimoto S, Naganuma A, Naeshiro N, Yoshizawa K, Shimada M, Nishimura H, Tomizawa M, Kikuchi M, Makita F, Yamashita H, Ario K, Yatsuhashi H, Tohma S, Kawasaki A, Ohira H, Tsuchiya N, Migita K.	Association of a single nucleotide polymorphism upstream of ICOS with Japanese autoimmune hepatitis type 1.	J Hum Genet	doi: 10.1038/jhg.2016.155		2016
Oka S, Furukawa H, Shimada K,	Plasma miRNA expression profiles in	BMC Musculoskelet	in press		2017

Hashimoto A, Komiya A, Fukui N, Tsuchiya N, Tohma S.	rheumatoid arthritis associated interstitial lung disease.	Disord			
Furukawa H, Oka S, Tsuchiya N, Shimada K, Hashimoto A, Tohma S, Kawasaki A.	The role of common protective alleles, HLA-DRB1*13, among systemic autoimmune diseases.	Genes Immun	doi: 10.1038/gene. 2016.40		2016
川崎綾、土屋尚之	全身性エリテマトーデスの病因-ゲノム解析から の知見.	医学のあゆみ	258(10)	932-937	2016
Kitagori K, Yoshifuji H, Oku T, Sasaki C, Miyata H, Mori KP, Nakajima T, Ohmura K, Kawabata D, Yukawa N, Imura Y, Murakami K, Nakashima R, Usui T, Fujii T, Sakai K, Yanagita M, Hirayama Y, and Mimori T	Cleaved Form of Osteopontin in Urine as a Clinical Marker of Lupus Nephritis	PLoS One	11	e016714 1	2016
Maruyama K, Kawasaki T, Hamaguchi M, Hashimoto M, Furu M, Ito H, Fujii T, Takemura N, Karuppuchamy T, Kondo T, Kawasaki T, Fukasaka M, Misawa T, Saitoh T, Suzuki Y, Martino MM, Kumagai Y, and Akira S	Bone-protective Functions of Netrin 1 Protein	J Biol Chem	291	23854-2 3868	2016

Ishikawa Y, Fujii T, Ishikawa SK, Yukawa N, Hashimoto M, Furu M, Ito H, Ohmura K, and Mimori T	Immunogenicity and Lupus-Like Autoantibody Production Can Be Linked to Each Other along With Type I Interferon Production in Patients with Rheumatoid Arthritis Treated With Infliximab: A Retrospective Study of a Single Center Cohort	PLoS One	11	e016289 6	2016
Mori M, Hashimoto M, Matsuo T, Fujii T, Furu M, Ito H, Yoshitomi H, Hirose J, Ito Y, Akizuki S, Nakashima R, Imura Y, Yukawa N, Yoshifuji H, Ohmura K, and Mimori T	Cell-contact-dependent activation of CD4+ T cells by adhesion molecules on synovial fibroblasts	Mod Rheumatol		[Epub ahead of print]	2016
Watanabe-Imai K, Harigai M, Sada KE, Yamamura M, Fujii T, Dobashi H, Amano K, Ito S, Homma S, Kumagai S, Banno S, Arimura Y, Makino H, and For the Research Committee on Intractable Vasculitides, the Ministry of Health, Labor and Welfare of Japan	Clinical characteristics of and risk factors for serious infection in Japanese patients within six months of remission induction therapy for antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis registered in a nationwide, prospective, inception cohort study	Mod Rheumatol		[Epub ahead of print]	2016
Tsuji H, Ohmura K, Nakashima R, Hashimoto M, Imura Y, Yukawa N, Yoshifuji H, Fujii T, and Mimori T	Efficacy and Safety of Grapefruit Juice Intake Accompanying Tacrolimus Treatment in Connective Tissue Disease Patients	Intern Med	55	1547-15 52	2016

Ueda N, Ida H, Washio M, Miyahara H, Tokunaga S, Tanaka F, Takahashi H, Kusuhara K, Ohmura K, Nakayama M, Ohara O, Nishikomori R, Minota S, Takei S, Fujii T, Ishigatsubo Y, Tsukamoto H, Tahira T, and Horiuchi T	Clinical and Genetic Features of Patients With TNFRSF1A Variants in Japan: Findings of a Nationwide Survey	Arthritis Rheumatol	68	2760-2771	2016
Fujita Y, Fujii T, Shimizu H, Sato T, Nakamura T, Iwao H, Nakajima A, Miki M, Sakai T, Kawanami T, Tanaka M, Masaki Y, Fukushima T, Okazaki T, Umehara H, and Mimori T	Isolation of vascular smooth muscle antigen-reactive CD4+ α β Th1 clones that induce pulmonary vasculitis in MRL/Mp-Fas+/+ mice	Cell Immunol	303	50-54	2016
藤井 隆夫	慢性炎症の病態：ANCA 関連血管炎	別冊 BIO Clinica 慢性炎症と疾患 膠原病と慢性炎症	12	64-69	2016
藤井 隆夫	膠原病における自己抗体の臨床的・病因的意義について	和歌山医学	67	50-55	2016
藤井 隆夫	自己抗体の病因的意義	炎症と免疫	24	42-46	2016
Sada KE, Harigai M, Amano K, Atsumi T, Fujimoto S, Yuzawa Y, Takasaki Y,	Comparison of severity classification in Japanese patients with antineutrophil	Mod Rheumatol	26(5)	730-7	2016

Banno S, Sugihara T, Kobayashi M, Usui J, Yamagata K, Homma S, Dobashi H, Tsuboi N, Ishizu A, Sugiyama H, Okada Y, Arimura Y, Matsuo S, Makino H; for Research Committee of Intractable Vasculitis Syndrome and Research Committee of Intractable Renal Disease of the Ministry of Health, Labour, and Welfare of Japan.	cytoplasmic antibody-associated vasculitis in a nationwide, prospective, inception cohort study.Evidence-based clinical practice guidelines for rapidly progressive glomerulonephritis 2014.				
Arimura Y, Muso E, Fujimoto S, Hasegawa M, Kaname S, Usui J, Ihara T, Kobayashi M, Itabashi M, Kitagawa K, Hirahashi J, Kimura K, Matsuo S.	Evidence-based clinical practice guidelines for rapidly progressive glomerulonephritis 2014.	Clin Exp Nephrol	20(3)	322-41	2016
藤元 昭一, 猪原 登志子.	【ANCA 関連血管炎-最近の話題-】 腎疾患.	アレルギーの臨床.	36(5)	437-41	2016
藤元 昭一	【急速進行性糸球体腎炎 Update】 ANCA 関連血管炎・腎炎の分類・診断と疫学	医学のあゆみ	257(2)	141-5	2016
Sugino K, Gocho K, Kikuchi N, Shibuya K, Uekusa T, Homma S	Acute exacerbation of combined pulmonary fibrosis and emphysema associated with Hermansky-Pudlak syndrome	Respirology Case Reports	4	13-15	2016

Muramatsu Y, Sugino K, Ishida F, Tatebe J, Morita T, and Homma S	Effect of inhaled N-acetylcysteine monotherapy on lung function and redox balance in idiopathic pulmonary fibrosis	Respir Investig	54	170-178	2016
Urabe N, Ishii Y, Hyodo Y, Aoki K, Yoshizawa S, Saga T, Murayama SY, Sakai K, Homma S, Tateda K	Molecular epidemiologic analysis of a Pneumocystis pneumonia outbreak among renal transplant patients	Clin Microbiol Infect	22	365-371	2016
Bando M, Yamauchi H, Ogura T, Taniguchi H, Watanabe K, Azuma A, Homma S and Sugiyama Y	Clinical experience of the long-term use of pirfenidone for idiopathic pulmonary fibrosis	Intern Med	55	443-448	2016
Urabe N, Sakamoto S, Nakamura Y, Gocho K, Ishiwatari T, Homma S	Successful everolimus treatment of renal angiomyolipoma and lymphangiomyomatosis	A case report. Toho J Med	2	26-29	2016
Sugino K, Nakamura Y, Muramatsu Y, Hata Y, Shibuya K, Homma S	Analysis of blood neutrophil elastase, glutathione levels and pathological findings in postoperative acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis associated with lung cancer: Two case reports	MOLECULAR AND CLINICAL ONCOLOGY	5	402-406	2016
Otsuka H, Sugino K, Hata Y, Makino T, Koezuka S, Isobe K, Tochigi N, Shibuya K, Homma S	Clinical features and outcomes of patients with lung cancer as well as combined pulmonary fibrosis and emphysema	MOLECULAR AND CLINICAL ONCOLOGY	5	273-278	2016

Sada KE, Harigai M, Amano K, Atsumi T, Fujimoto S, Yuzawa Y, Takasaki Y, Banno S, Sugihara T, Kobayashi M, Usui J, Yamagata K, Homma S, Dobashi H, Tsuboi N, Ishizu A, Sugiyama H, Okada Y, Arimura Y, Matsuo S, Makino H	Comparison of severity classification in Japanese patients with antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis in a nationwide, prospective, inception cohort study	Mod Rheumatol	11	1-8	2016
Watanabe-Imai K, Harigai M, Sada K, Yamamura M, Fujii T, Dobashi H, Amano K, Ito S, Homma S, Kumagai S, Banno S, Arimura Y, Makino H, and For the Research Committee on Intractable Vasculitides, the Ministry of Health, Labor and Welfare of Japan	Clinical characteristics of and risk factors for serious infection in Japanese patients within six months of remission induction therapy for antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis registered in a nationwide, prospective, inception cohort study	Mod Rheumatol		1-6	2016
Kondoh S, Chiba H, Nishikiori H, Umeda Y, Kuronuma K, Otsuka M, Yamada G, Ohnishi H, Mori M, Kondoh Y, Taniguchi H, Homma S, Takahashi H	Validation of the Japanese disease severity classification and the GAP model in Japanese patients with idiopathic pulmonary fibrosis	Respir Investig	54	327-333	2016
Yoshizawa T, Sugino K, Shibuya K, Uekusa T, Homma S	Fibrocellular non-specific interstitial pneumonia with favourable prognosis in clinically amyopathic dermatomyositis	Respirology Case Reports	4		2016

Sano G, Itagaki T, Ishiwada N, Matsubara K, Iwata S, Nakamori Y, Matsuyama K, Watanabe K, Ishii Y, Homma S and Tateda K	Characterization and evaluation of a novel immunochromatographic assay for pharyngeal Mycoplasma pneumoniae ribosomal protein L7/L12 antigens	Journal of Medical Microbiology	65	1-6	2016
Furuya K, Sakamoto S, Takai Y, Sato N, Matsumoto K, Homma S	Acute exacerbation of idiopathic interstitial pneumonia after nonpulmonary surgery under general anesthesia: a retrospective study	SARCOIDOSIS VASCULITIS AND DIFFUSE LUNG DISEASES	33		2016
Isobe K, Kakimoto A, Mikami T, Kaburaki K, Kobayashi H, Yoshizawa T, Makino T, Otsuka H, Sano GO, Sugino K, Sakamoto S, Takai Y, Tochigi N, Iyoda A, Homma S	Association of BIM Deletion Polymorphism and BIM- γ RNA Expression in NSCLC with EGFR Mutation	Cancer Genomics Proteomics	13	475-482	2016
Ota H, Sugino K, Uekusa T, Takemura T, Homma S	An autopsy case of refractory pulmonary hypertension with sarcoidosis	Respir Investig	54	490-493	2016
Kurosawa T, Sugino K, Isobe K, Hata Y, Fukasawa Y, Homma S	Primary malignant pericardial mesothelioma with increased serum mesothelin diagnosed by surgical pericardial resection: A case report	Molecular and Clinical Oncology	5	553-556	2016
Kitagawa K, Furuichi K, Sagara A, Shinozaki Y, Kitajima S, Toyama T, Hara A, Iwata Y, Sakai N, Shimizu M,	Risk factors associated with relapse or infectious complications in Japanese patients with microscopic polyangiitis.	Clin Exp Nephrol	20(5)	703-711	2016

Kaneko S, Wada T; Kanazawa Study Group for Renal Diseases and Hypertension.					
岩田恭宜・和田隆志	腎疾患とマクロファージ	医学のあゆみ	259(5)	518-523	2016
坂井宣彦・和田隆志	免疫抑制薬による腎障害	日本腎臓学会誌	58(7)	1073-1078	2016
北川清樹・和田隆志	【糸球体と感染症】 ANCA 関連腎炎	腎と透析	81(4)	549-553	2016
Kusaoi M, Yamaji K, Ishibe Y, Murayama G, Nemoto T, Sekiya F, Kon T, Ogasawara M, Kempe K, Tamura N, Takasaki Y	Separation of Circulating MicroRNAs Using Apheresis in Patients With Systemic Lupus Erythematosus	Ther Apher Dial	20	48-353	2016
Yamada Y, Nozawa K, Nakano S, Mitsuo Y, Hiruma K, Doe K, Sekigawa I, Yamanaka K, Takasaki Y	Antibodies to microtubule-associated protein-2 in the cerebrospinal fluid are a useful diagnostic biomarker for neuropsychiatric systemic lupus erythematosus	Mod Rheumatol	26	562-568	2016
Hachiya Y, Kawasaki A, Oka S, Kondo Y, Ito S, Matsumoto I, Kusaoi M, Amano H, Sudo A, Setoguchi K, Nagai T, Shimada K, Sugii S, Okamoto A, Chiba N, Suematsu E, Ohno S, Katayama M, Kono	Association of HLA-G3' Untranslated Region Polymorphisms with Systemic Lupus Erythematosus in a Japanese Population: A Case-Control Association Study	PLoS ONE	10	371	2016

H, Hirohata S, Takasaki Y, Hashimoto H, Sumida T, Nagaoka S, Tohma S, Furukawa H, Tsuchiya N					
Sada KE, Harigai M, Amano K, Atsumi T, Fujimoto S, Yuzawa Y, Takasaki Y, Banno S, Sugihara T, Kobayashi M, Usui J, Yamagata K, Homma S, Dobashi H, Tsuboi N, Ishizu A, Sugiyama H, Okada Y, Arimura Y, Matsuo S, Makino H	Comparison of severity classification in Japanese patients with antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis in a nationwide, prospective, inception cohort study	Mod Rheumatol	26	730-797	2016
Tsuru T, Tanaka Y, Kishimoto M, Saito K, Yoshizawa S, Takasaki Y, Miyamura T, Niino H, Morimoto S, Yamamoto J, Lledo-Garcia R, Shao J, Tatematsu S, Togo O, Koike T	Safety, pharmacokinetics, and pharmacodynamics of epratuzumab in Japanese patients with moderate-to-severe systemic lupus erythematosus: Results from a phase 1/2 randomized study	Mod Rheumatol	26	87-93	2016
Hara R, Miyazawa H, Nishimura K, Momoi T, Nozawa T, Kikuchi M, Sakurai N, Kizawa T, Shimamura S, Yasuda S, Hiromura K, Sada KE, Kawaguchi Y, Tamura N, Takei S, Takasaki Y, Atsumi T, Mori M	A national survey on current use of mycophenolate mofetil for childhood-onset systemic lupus erythematosus in Japan	Mod Rheumatol	25	858-864	2015

Yasuda S, Atsumi T, Shimamura S, Ono K, Hiromura K, Sada K, Mori M, Takei S, Kawaguchi Y, Tamura N, Takasaki Y:	Surveillance for the use of mycophenolate mofetil for adult patients with lupus nephritis in Japan	Mod Rheumatol	25	854-857	2015
高崎芳成	関節リウマチの検査・診断	医学と薬学	74	11-18	2016
高崎芳成	全身性エリテマトーデス	Clinical Study	37	41-48	2016
高崎芳成	SLEに伴う血管炎. よくわかる中枢神経系血管炎	Clinical Neuroscience	24	572-574	2016

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
磯部光章	高安動脈炎.	山口 徹、北原光夫	今日の治療指針	医学書院	東京	2016	471-472
中岡良和	炎症性シグナルによる肺高血圧症の病態形成機構.	協和企画	循環器病研究の進歩	協和企画	大阪	2016	74-80
中岡良和	冠動静脈形成の分子機構.	小室一成、佐地勉、坂田隆造、赤坂隆史	Annual Review 2016 循環器	中外医学社	東京	2016	30-37
宮崎龍彦	2. ANCA 関連血管炎の病理組織	有村義宏, 針谷正祥, 本間栄, 山縣邦弘	ANCA 関連血管炎診療ガイドライン 2017	診断と治療社	東京	2017	付録 4-7
駒形嘉紀	ANCA 関連血管炎—多発血管炎性肉芽腫症(Wegener 肉芽腫症)	日本リウマチ財団教育研修委員会・日本リウマチ学会生涯教育委員会編	リウマチ病学テキスト改訂第2版	診断と治療社	東京	2016	269-272
Oharaseki T, Yokouchi Y,	Histopathology of Coronary Arteritis in Acute Kawasaki Disease	Saji T et al.	Kawasaki Disease. Current Understanding of the	Springer Japan	Japan	2016	pp11-16

Enomoto Y, Takahashi K.	and Murine Systemic Vasculitis Induced byCandida AlbicansCell Wall Polysaccharide.		Mechanism and Evidence-Based Treatment.				
Takahashi K, Oharaseki T, Yokouchi Y, Enomoto Y.	Histopathological Characteristics of Noncardiac Organs in Kawasaki Disease.	Saji T et al.	Kawasaki Disease. Current Understanding of the Mechanism and Evidence-Based Treatment.	Springer Japan	Japan	2016	pp17-22
小林茂人	脊椎関節炎	福井次矢、高木 誠、小室一成	今日の治療指針 2017	医学書院	東京	2017	845-846
小林茂人	脊椎関節炎	福井次矢、高木 誠、小室一成	今日の治療指針 2017 ポケッ ト版	医学書院	東京	2017	845-846
針谷 正祥	VII 害について	有森義宏、本間 栄、丸山彰一	ANCA 関連血管炎診療ガイド ライン 2017	診断と治療社	東京	2017	39-41
針谷 正祥	XI モニタリングと監査	有森義宏、本間 栄、丸山彰一	ANCA 関連血管炎診療ガイド ライン 2017	診断と治療社	東京	2017	45
針谷 正祥	XII 診療ガイドラインの改訂	有森義宏、本間 栄、丸山彰一	ANCA 関連血管炎診療ガイド ライン 2017	診断と治療社	東京	2017	45
菅野祐幸, 神應 太朗, 樋口 誠	好酸球増多症と MPO-ANCA 陽性を示し 急激な肝障害をきたした 60 歳代男性.	青笹克之, 菅野 祐 幸, 長 沼 廣, 松原 修, 手島伸一, 中塚	臨床病理検討会の進め方・活 かし方-CPC の作法-	中山書店	東京	2016	127-134

		伸一，岡一 雅，谷本昭英					
石津明洋，外丸 詩野，堀田哲也.	顕微鏡的多発血管炎の再燃に対する リツキシマブ投与後に，呼吸不全で死 亡した女性.	青笹克之・ 菅野祐幸	臨床病理検討会の進め方・活 かし方 CPC の作法	中山書店	東京	2016	pp7-24
川上 民裕	Sweet 病	片山一朗、浅井 俊弥、岩月啓氏、 横関博雄	特別号「皮膚疾患ペディア」	日本医師会	東京	2016	148
川上 民裕	蕁麻疹様血管炎	片山一朗、浅井 俊弥、岩月啓氏、 横関博雄	特別号「皮膚疾患ペディア」	日本医師会	東京	2016	159
川上 民裕	多発血管炎性肉芽腫症 (Wegener 肉芽 腫症)	片山一朗、浅井 俊弥、岩月啓氏、 横関博雄	特別号「皮膚疾患ペディア」	日本医師会	東京	2016	160
川上 民裕	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 (Churg-Strauss 症候群)	片山一朗、浅井 俊弥、岩月啓氏、 横関博雄	特別号「皮膚疾患ペディア」	日本医師会	東京	2016	161
川上 民裕	IgA 血管炎 (Henoch-Schönlein 紫斑病)	片山一朗、浅井 俊弥、岩月啓氏、 横関博雄	特別号「皮膚疾患ペディア」	日本医師会	東京	2016	164
川上 民裕	口腔粘膜アフタ、粘膜苔癬など	片山一朗、浅井	特別号「皮膚疾患ペディア」	日本医師会	東京	2016	307-308

		俊弥、岩月啓氏、 横関博雄					
Tsuchiya N, Kawasaki A. .	Genetics of Systemic Sclerosis	Takehara K, Kuwana M and Fujimoto M	Systemic Sclerosis: Basic and Translational Research	Springer	Tokyo	2016	81-92
土屋尚之	ヒトゲノム解析からみた全身性エリ テマトーデスの病因.	田中良哉	最新医学別冊「診断と治療の ABC 118 全身性エリテマト ーデス」	最新医学社	大阪	2016	32-43
八谷有紀、古川 宏、土屋尚之	遺伝因子	佐藤伸一	強皮症の基礎と臨床	医薬ジャーナ ル社	大阪	2016	60-69
藤井 隆夫		伊藤 宣	膠原病	ミネルヴァ書 房	京都	2016	
藤井 隆夫	全身症状（発熱を中心に）	上阪 等	膠原病・リウマチ・アレルギー ー 研修ノート	診断と治療社	東京	2016	182-184
杉野圭史、本間 栄（分担）	IPF の今後の治療はどうなるのか？ Nintedanib, Pirfenidon, NAC はどの ように使うべきか？	一ノ瀬正和、井 上義一、舘田一 博、弦間昭彦	EBM 呼吸器疾患の治療 2016-2017	中外医学社	東京	2016	106-110
本間 栄（分担）	特発性肺線維症	杉山幸比古、門 田淳一、弦間昭 彦	呼吸器疾患最新の治療 2016-2018	南江堂	東京	2016	288-292

高崎芳成	全身性エリテマトーデス	根本英一	病気とくすり増刊号	南山堂	東京	2016	237-241
高崎芳成	関節リウマチの診断、疾患活動性の評価、新しい治療目標	田中良哉	関節リウマチと骨粗鬆症・内科医が実践すべき診断と治療	医薬ジャーナル	大阪・東	2015	36-43